明治三十七年八月二十五日第三種郵便物認可

December 20th 1906.

Report of the Sericultural Association of Japan.

No. 175.

大日本蠶絲會報

第百七拾五號要目

重要記事

●國有林野拂下の許可

論議

●蠶の形狀に就て　農學士　中村雅次郎

●蠶體の新器官に就て　農學士　服部柳太郎

●米國市場に於ける日本生絲　法學士　池田榮太郎

●繭質一定の急務及其法案　法學士　内田定槌

●富士風穴の價値を論じて柳澤氏に答ふ　三谷徹

●滿州及芝罘に於ける柞蠶製絲業　荒木武雄

●東西蠶業講習所の沿革（佛文）　農學士　鹽谷清多郎

說林

●植物凍害に關する學說（外五件）　農學博士　石渡繁胤　麻生慶次郎

叩門

●東亞學校蠶業科に就て　法學士　谷益道

●蠶絲業研究の目的　子爵　藩志愷

講莚

●製絲のことゝも　金厚つた

TOKYO.
The Association;
No. 2 Mitoshirocho, Sanchome, Kanda, Japan.

大日本蠶絲會支會及地方委員部の設置しある地區内の會員諸君に稟告

本會會員及有志者にして左記地區内に住居せらるゝ方は會費の納入、會員の紹介、入退會は必ず其地支會又は委員部を經て納入及申込相成度此段稟告致候也

但居所の變更は本會及支會、委員部へ同時に御通知相成度候

明治三十九年十二月

大日本蠶絲會

東京支會　東京府北多摩郡立川村
東京都支會　京都市丸太町通烏丸西入
新潟縣支會　新潟縣中蒲原郡五泉町
埼玉縣委員部　埼玉縣庶務内
群馬縣委員部　群馬縣庶務内
茨城縣委員部　茨城縣庶務内
三重縣委員部　三重縣庶務内
山梨縣支會　山梨縣庶務内
滋賀縣支會　滋賀縣阪田郡長濱町
長野縣支會　長野市縣町一二
宮城縣支會　宮城縣庶務内
福島縣支會　福島縣庶務内
山形縣支會　山形縣庶務内

大日本蠶絲會報廣告料

	特等	並等
一回乃至二回ニ付	一頁 十五圓	一頁 八圓
	半頁 八圓	半頁 四圓
	四分ノ一頁 五圓	四分ノ一頁 三圓
三回乃至六回ニ付	一頁 十二圓	一頁 七圓
	半頁 七圓	半頁 四圓
	四分ノ一頁 四圓	四分ノ一頁 二圓
七回以上ニ付	一頁 十圓	一頁 六圓
	半頁 六圓	半頁 三圓
	四分ノ一頁 三圓	四分ノ一頁 一圓
	四分ノ一頁 五十錢	四分ノ一頁 五十錢

會員ハ右料金ノ二割引トス
特等ハ四分ノ一頁未滿ハ謝絶ス
料金ハ前金ニアラサレハ掲載セズ
一頁ハ一行二十七字詰七十二行トス

●本報定價　一ケ年分前金壹圓五拾錢　雜誌金拾五錢

明治三十九年十二月二十日印刷發行

編輯兼發行人　東京市神田區美土代町三丁目二番地　小池松市

印刷人　東京市神田區美土代町二丁目二番地　島連太郎

印刷所　東京市神田區美土代町二丁目二番地　三秀舍活版所

發行所　東京市神田區美土代町三丁目二番地　大日本蠶絲會（電話本局一四七三番）

祝生絲貿易一億圓

今や我國債の累計二十四億圓に達し其利子の年額一箇一千万圓其他軍備行政等内外百般の施設に要する國費の凡てを合算すれば恐らく五億數千万圓の巨額に達せん實に國家經濟の現狀容易ならざるものあるの秋我生絲貿易が空前の活躍を呈しつゝ其輸出總額正に一億圓を超過したるは何等の福音を暗かに之れ戰後の難境を脱却し國運益隆昌となるの前兆たらずんはあらず國家の爲慶賀せざるを得んや夫れ如此にして戰後の第一年に於ける我蠶絲業家は先づ其初陣に於て大捷を博し豫ねて期待せる宿望の一階段を進め得たり然れども固と是れ當業者勤勉の功と謂はんよりは寧ろ米國の豊饒銀價相場の騰貴等所謂天祐の力預つて大なるものありて存すれば斯業の前途尚ほ遼遠なりと謂はざるべからず去れば本會が此際其組織を變更し更に大に斯業の改善發達を圖らんと欲するもの豈偶然ならずとせんや苟も國家を愛するの士は本會の盛衰を以て斯業の隆否に關し延て國運の消長に關すること大なるものありと爲し互に相勸奬して入會し協力一致以て本會をして積極的經營の根本を確立せしめ莽年ならずして光輝ある新生面を開くに努力せられんことを茲に生絲貿易額の一億圓に達せるを祝し併せて一片の希望を述ぶと云爾

本會第一回功績表彰者故藤木善右衛門氏
Sen m n-ieur Z. Tujimoto,
honoré de la médaille d'or de notre Association.

大日本蠶絲會報 第百七拾五號

目次

重要記事

○國有林野拂下の許可

論叢

○天龍川と諏訪　農學士　中村獅次郎
○鋼の形狀に就て　服部柳太郎
○蠶體の新器官に就て　池田桑太郎
○米國市場に於ける日本生絲　法學士　内田定槌
○富士風穴の價値を論じて柳澤氏に答ふ　鹿木武雄
○播州及芝罘に於ける柞蠶製絲業　鹽谷清多郎
○東西蠶業講習所の沿革（佛文）農學士　石渡繁胤

説林

○植物害蟲に關する學說（農學博士藤生慶次郎）○蠶業革新策（芳賀寛）○松永技師の視察談に就て（鳥羽氏に寄す）（大月文藏）○鹿勝國の蠶種とならしめよ（馬場由）○蠶絲業と國民の獨立（春日敏三郎）○雌雄に二化性あり（山崎正壽）

雜錄

○藤本善右衛門氏の事蹟

叩門

○東亞學校蠶業科に就て　法學士　谷桑道
○蠶絲業研究の目的　子爵　藩志情

講筵

○製絲のことゝも　金厚つた

問答

○桑樹の栽植其他に就ての質問並答○實生魯桑病害に就ての質問並答○蠶病に就ての質問並答○貯桑と飼蠶とに就ての質問並答○斃死せる繭絲に就ての質問並答

絲況

○横濱市場○里昂市場○紐育市場○上海市場

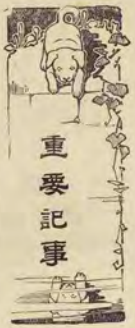
外報

○千九百五年度伊太利產繭額○千九百六年佛國產繭概算

時報

●會務錄事――定款の認可――改正定款――評議員會――功績調査委員――支會規程――地方委員選任――有功者及藤生慶次郎氏表彰――小松宮殿下御臨――各種委員の出張――理事の員數――生絲檢査所機關に關する建議――製絲家會員の出張――製絲家會員委員の出張――蠶種の品質――生絲檢査所機關に關する建議――蠶種の檢査――新潟支會總會――新潟支會總會――蠶絲會――蠶絲會――蠶絲

大日本蠶絲會報　第百七拾五號



國有林野拂下の許可

戰後の國富を增進するに於て種々の方策あるべしと雖も就中其最大捷徑となすは我蠶絲業の大發展に存すること何人も疑を入れざる處にして、年來生絲貿易が終始好況を持續し つゝ、今や既に業に輸出累計一億圓を超えたるに徴するも、蠶絲が如何に國家經濟に重大なる關係を有するかを現實に示し得て餘蘊なしと謂はざるべからず、而して今や製絲家は其原料に缺乏を告げ、支那繭を輸入するの止むを得ざるの實況なれば、桑園の增殖は急中の急にして、根元たる桑園の增殖は焦眉の急務たるを認めずんば、之が根元たる桑園の增殖は焦眉の急務たるを認めず。

本會夙に此點に見る有り、前後二回桑園拓殖奬勵の建議を其筋に提出したる次第なるが、賢明なる農商務大臣は速に之れを容れられ、先づ國有林野拂下の件即ち桑園の目的を以て開墾するものに對し、不要存置國有林野賣拂豫約を許可するの途を啓き既に內訓をも發せられ、山林局長よりは各府縣知事に左の如く通牒せられたり。

國有林野の賣拂豫約は從來處分見合せ來り候處主として桑園開墾奬勵の必要に基き自今別紙發第三三二號內訓の規定に依り之れが處分可相成候條御諒知相成度爲御心得此段及通牒候也

而して農務局長も亦同時に各府縣知事に對し、左の通牒を發せられたり。

從來林野の賣拂豫約處分は見合せ居り候處蠶絲業發達上最も桑園の開墾奬勵を急務と認め今回特に賣拂豫約處分の途を啓かれ既に山林局長より夫々通牒の次第も有之候等就ては此機會を利用して桑園の增殖を圖り候樣當業者を御奬誘相成度此段及通牒候也

拘に見て時宜に適したる措置なりと謂へし、謹か國家の爲め之れを欣ばざる者あらん、去れば職に蠶絲業に從事する者深く此を體し、着實なる經營と熱心なる施設とを以て桑園の增殖に努力する處なくして可ならんや、而して桑園開墾者の參考に資せんが爲め、農商務大臣より大林區署に對し內訓せられたる條項を揭くれば左の如し。

第一條　不要存置國有林野にして左の各號の一に該當せるものは賣拂豫約を許可すること、なす

一　開墾か國土保安に關係を及ぼすの虞あるもの

二　現に生長の見込ある未成樹木にして之を開墾するは經濟上不利と認むる

三　もの　價格低位の產物ある林野にして其產物處分料に屬するもの

四　社寺上地林又は部分林に屬するもの但其社會又は分收獨料者に於て拂受を希望せず又は賣拂譲約を承認したるものを除く

五　其他地元の關係又は特別の事由に依り賣拂譲約を不適當と認むるもの

第二條　一團地の林野は賣地の狀況止むを得ざる場合又は開墾事業上必要ある場合に於て分割して賣拂譲約を爲すこと得

第三條　賣拂譲約は其事業の成功確實なりと認むる者に之を許可すべし

第四條　開墾成功の期限は其墾期を許さるものとす前項の事項は譲約書に之を記載すべし

第五條　開墾地の面積大なる場合に於て防風林又は薪炭林を設くるの必要あるとき、敢も其林地の面積は譲約地總面積の十分の一超ゆること為す得ず

第六條　開墾地の面積は譲約地總面積の十分の一超ゆるとき又は特別の事情あるものを除くの外出願代金の額に依り賣拂譲約の順位を定むべし

實地の狀況に依り前項の制限に依り難きときは農商務大臣の認可を受くべし

第七條　二個以上の出願競合するときは特別の事情あるものを除くの外出願代金の額に依り賣拂譲約の順位を定むべし

論叢

天龍川と諏訪（承前）

學藝委員
農學士　中村雅次郎

（其二）天龍川の水果して製絲に適するや

前にも記した通り、製絲上水質の適不適は重に硬度の如何にあるのだが、硬水と云ひ將た軟水と稱するは比較的の言葉であるから、天龍川水の硬軟も他と比較對照した上でなければ素より斷言することは出來ないのである、據て左に余が從來分析を試みた他製絲場に於ける用水と天龍川水（諏訪湖より流れ出づる處の水）の分析成績とを比較して、其硬軟を論ずることにしやう。

各地製絲用水硬度比較表

京都府下郡是製絲會社用井水	一、六二	佛度
天龍川水	二、五〇	同
山形縣長谷川製絲場用流過水	二、六〇	同

〔×〕〔△〕〔○〕〔◎〕〔◎〕〔◎

たものだから貴重なる本誌面を籍りて聊か卑見を述ぶることゝした。

終に臨で、前にも記るした如く天龍川の水と雖ども完全なものでないから、直ちに之を使用しないで、骨炭、木炭、砂等によつて一度之を濾過したる後、使用せられることを彼の地の方々に希望するである。

頭の養生

人間の四肢五體中何れの部分が惡るくても不愉快な感ずるのですが就中頭に異常が有つては其不愉快は殆ど言語の外です故に頭は充分大切にせなければなりませぬ故ては何人も頭に帽を用ゆるのですが此帽には四つの害があります一は日光を遮り二は空氣の流通を妨げ三は頭を壓して血流の頭髮内に循環する妨げ四は頭上に蔽く帽子は概ね細菌の培養物であると云ふことであります但し習慣上致らの譯にも行きませぬから可成輕くして粗なるものを用ひ時々其汚れを日に干して細菌の生ぜないやう注意し又ヲルリン水で時々消毒するが宜しくあります

繭の形狀に就て

通常會員　服部柳太郎

近畿地方に行はるゝ長巢又昔は其名の如く長形にして繭質可良なり、之に反して清國種は形狀圓けれども解舒可良にして絲質の美なること本邦種に卓越せり、小形にして絲質の佳良なるものは因伯地方に行はるゝ又昔なるべく、大形にして絲量豐富なるものは廣島の赤熟なり、是に依て之を見れば、形狀の長短大小は解舒の難易絲質の良否に關係を及ぼすこと極めて僅少なりといふべし、世俗これを察せず繭の如き原料品を鑑定するに、其形狀を愛玩して或は長形可なり、大形不可なり、或は圓形採るべし小形捨つべしなど、何等據るべき理由なく一局部外形に現はれたる些瑣の事實を以て全般に亘れる眞理となし、皮想の見を以て一度長形繭の善良なることを唱ふるものあるや、靡然として長形繭盛んに流行し、今や鳥取縣養蠶の中心地東伯郡の如き長形繭の弊害に苦みつゝあるに至れり。

抑形狀の大小長短は蠶兒飼育の難易に影響すること頗る大なりと雖も、製絲上に及ぼす影響は極めて微少なるものなり、製絲家が繭を購入するに當り、其品質を鑑定せんとするや先づ繭の豊凶を知らんと欲し、色澤の良否死蛹其他の屑繭混入の歩合を測定し、形狀の如何は末の末に附するを常とす秋蠶繭は春蠶繭に比し形狀劣惡なるに係らず、比較的高價にて賣買するはこれが適例にして、果竟解舒可良なるがため、

なり、なく製絲家は其實長形を厭はず、大形を撰ぶ小形を捨てず圓形なるも、形に非ずとするものあらざるも、形狀上の必要上自家に便宜なる一定の形狀を指定するは、勿論智慮ある所業なりといふべし、製種家養蠶家共にこれを察するの明に乏しく、品種選擇上個有の難易に就き思慮を費すと雖ども、只管製絲家の意向を察せんとし、偶長形繭の美を賞するものあれば滔々其流行を逐ひ、其極長形の弊に苦み、製絲家大粒を高價に仕入るゝ傾向あるを見ては擧りて粒形を大にせんと欲し、遂には大形の弊に懲り小形最も可なりと稱するに至る、確乎動かざるの信念なく、亦毅然侵すべからざるの理由もなく、漫然一時の流行に雷同するが故に、一害を除けば一弊起り進むが如く、復退くが如く時により處により人によりて說を異にせり、輕率妄動するものと謂はざるを得んや

十月十三日地震後下御殿の端合せらたゝ無れ上の光景久禮ひたる信州岡谷尾沢製絲橋の全景より

左に實例を以てこれが妄を弗明すべし。

製絲家が繭を購入せんとするや、前述せしが如く解舒可良にして、絲量饒多なるものを望み就中絲量の多少よりも寧ろ解舒の良否に留意せり、換言すれば豊作繭を喜びて高價に購入せり、豊作繭は概ね大形にして繊嫩粗なり、識見淺薄の者見て以て大形可なりとなし、製種用選繭の際大形なるものを用ゆることあらば之れ實に大なる過誤なり凡そ同一種同一飼育の繭より大中小形の三區に選別し、これを比較製絲すれば中粒のものの常に成績優等にして、大形のものは類節多くして絲量寡く、小形のものは解舒惡くして色澤不良なるものの、則ち形狀中庸を逸せざるものは適良の成育と認むべく、蠶兒適良の營繭なること疑ひなし、得べく適良の成育と認めざるべからず、虛弱に類するものより製種せば不良の性質を遺傳すること當然

の理なり。これに反して年々歳々形狀中庸のものを選擇し堪能の技術により漸を以て大形となせば、遂には赤鶴の如き良種たらしめ得ること亦自然の理なり、則ち同じ大巢のものに善惡二樣の遺傳を繼承したるものあることを察知するに足らんこれ則ち或は大形繭可なりとも、或は大形繭不可なりとの事實を傳ふる所以なるべし、長巢又昔の良種なるを聞き、直ちに長形最も可なりとし、因伯地方の產繭が形狀一定して品質可良なるを知り、佐平又極めて可なりと過信するは恰も毛を以て馬を相すると一般なり、長形にして絲質佳良なる長巢又昔ありとも雖も、小石丸青熟の如きものを短少の年月間にして長形に變ずれば形狀惡變して必ず不良の成蹟を顯すべく佐平又は得易からざる良種なりと雖も、因伯地方の繭の佳良なるを見て、佐平又天下一品なりと推定するものあらば盲人の象評なる譏は免れざるなり。

凡そ形狀の一定は萬人の希望する所なれども、氣候風土の相違多き我國に於ては、全國の繭を蠶のまゝに整一となし得べきものにあらず、因幡地方は天下に卒先して繭の形狀を一定し、現今に於ては全國の模範たるの狀勢なれども、因幡の製絲家に鋏き實地を調査するに、贈且つ買入繭を適宜合併するにあらざれば整一の生絲を製し難しとい、形狀一定の必要實に茲にあり、詳言すれば各地の繭を合併し易からしむるにあり、これがためには特異の形狀を爲して除りに形狀整一なるは却りて害あり、東西蠶業講習所の小石丸青熟の如き、世の誤解者見て以て往々形狀稍不整一なりとの非難を發すること あり、然れども形狀稍不整一なれば之を小石丸青熟と稱し、大なる隔絮なり、東西各國の氣候を異にし土質を異にするも、兩講習所の產繭其形狀相似て此の相違を生ぜざる所以なり、余は此の點に於て兩講習所の小石丸青熟又昔を以て各種中の白眉なりと認信するものなり、以上三種の繭形を標準として蠶繭を選擇し品質の改良に怠らずんば、蠶の名稱は千百なりと雖も、全國の蠶繭其形狀一定して九州の產繭と東北の產繭とを混じて繰絲し得べく、或は四國の產繭と山陰の產繭とを合併して繰絲するも何等の損害支障なきに至らん。

現時長形繭流行して其弊に苦しむものあり、又形狀の大小に就き然議區々なるを見聞し、聊卑見を陳べて先輩の叱教を待つ、若し夫れ繭形と蠶兒飼育の難易に至りては、別に所信なきにあらず、上說は單に製絲に及ぼす繭形に就き、議論せしのみ、邊東白豕の譏あらば余は寧ろこれを喜ぶものなり。

繭車は貝節制と共に存立す、平和、嗚呼德義よ、平和は昔蠶のものなり

ポープ

蠶體の新器官に就て

（食道下線）

通常會員　池田榮太郎

動物體內の組織器管は其高等なると下等なると問はず能く之を具備して生活の諸機能を營むものにして、只是に簡複の差あるのみ、即ち吾人も蠶兒も皆相當なる組織器管を有せり、然るに高等なる動物は其軀幹大なるが故に、之を檢する甚だ容易なりと雖も、蠶體の如き小なるものに於ては、之を解剖するに常に顯微鏡下にあらざれば爲し能はざるを以て往々其調査に誤謬を生じ易く、且つ未だ不明及び不發見の器管も少なからざるべし、故に之を研究するは蠶學上最も必要なることに屬するを以て、予は勉めて蠶體解剖を行ひ病理及び生理攻究の資となしつゝあり、偶々消食管の腹面を橫走せる一器管を實驗し得たれば、揭げて參考に資せんと欲す。

今蠶兒を背面より開き靜かに消食管の全部を除き去るときは、第一環節の末部に當り、紐狀を爲して第三神經球と第四神經球との中間側絲腺の上側と橫走して其先端第一氣門の裏面に至り脂肪組織に連絡して其處に附着せり、而して頭部より來れる唾線の末端は又左此新器管の先端に接せるを見る、即ち（一）圖に示すところの如し、然れども外山氏氣門下腺とは直接關係なきもの如し。

更に之を蠶兒の腹面より開き、靜かに皮膚を去り消食管と腦係を調査するに、第二圖に示す如く、食道の下端胃の前側殆ど食道の界を橫走し、胃には附着することなく、僅かに脂肪に連りて附着せるものあるのみ、故に予は之を食道下腺と名命す。

該腺を取り之を染色劑にて處理し、顯微鏡に之を檢するときは、（三）圖に示すが如く扁平紡錘形の小囊相連絡し、其尖拾數個連りて長さを爲し、兩端細り此處に脂肪組織と附着す而して各囊には一個乃至數個の精圓若しくは不規則なる核を有するを見る。

今之を數百倍に膨大して此囊腺を檢するに各囊に一個の核を有する二個以上の細胞より成りて、其諸處に空泡を有するを見る、而して此空泡は蠶兒四齡には其だ少きも五齡盛食期に至れば頗る多數に存在す。

尙ほ進んで該腺を橫斷して調査するに、（五）圖に示す如く橫斷面は楕圓形若しくは圓形を呈し、核は不規則なる斷面を現せり、然れども本腺は外山氏氣門下腺の如く細胞間隙を明瞭する能はず、而して又其內部は稀に空泡の大なるものあるも、特に腺室と認むべきものなきが如し。

太腺の構成及び作用は研究を要すべきも恐らく人體の幽門腺と同一の作用を爲すものなるべく、而して之を構成するや、胚子發育の當時胚子第五環節の陷入によるものなるべし、故に本腺は腺細胞各自が其周圍を流行する血液より所要の成分を吸收し、以て之を分泌液に調理して分

(一) 消食管ヲ去リ腹面新器官存在ノ狀ヲ見ル

(二) 腹面皮膚ヲ去リ新器官ト消食管ノ關係ヲ見ル

(三) 新器官ノ全部ヲ擴大

(四) 新器官ノ一部ヲ更ニ擴大

(五) 新器官ノ横斷面

泌し、胃の消化を助くるものなるべし、抑も消化液なるものは必ずしも分泌腺を其管内に有するものにあらず、或は近接部にあるものなれど本腺は其構造及位置上正さに一種の消化液を分泌する機能だを備ずるものなり、況や食道と胃の境界に於ては胞狀なる接合部にして流入せしむる構造を有するに於ては、之を、今尚ほ詳細の生理作用は更に叢兒の生體に就て確め他日發表する處あべし。

流を溶入せしむる構造を有するに於ては、之を、今尚ほ詳細の生理

露國の絹織物

法學士夏秋鶴一氏は既往七ヶ年間即ち日露戰爭中にも露亞奚斯科に止りて幾多の迫害を受けつゝ商業に從事し今回政學術研究の爲めに歸朝せられたさうです高前記者に對する氏の講演中に生絲に關することがありますので其一部を摘記して紹介しませう。

私は奚斯科の「ホルイムペリアル」に生絲商を營んで居りました元來露國は保護政策の上に絹織物の成品品に對しては一斤に付十二圓二十五錢の重稅を科することに成つて居ますから一打二三錢位の手巾も十二三圓出さねばならぬと云ふ有樣で日本からは生絲の輸入がされますけれども關稅が高いので絲類製造人でなくては買ぬと云ふ有樣です。

米國市場に於ける日本生絲

（本會臨時總會に於ける演說）

紐育總領事　法學士　内田定槌

會頭閣下及び滿場の諸君、生絲は御承知の通り我輸出貿易品中の最も重要なものでありますが、此品が年により頗る高値で澤山賣れることもあればいくら直段を安くしても一向賣れないことがありますのは、全體如何なる原因によるものであるかと云ふことは、今日此所に集まつて居られる當業者諸君が定めて御承知になりたい事柄と思ひますから、其事に就きまして唯今少しく御話をいたしませう。

米國で使用しまする生絲は日本絲、歐洲絲、及支那絲でありますが、其中毎年一番澤山輸入されるのは日本絲でありまして全輸入高の五割以上を占めて居ります、此等諸外國から輸入する生絲は皆な一旦紐育に集りまして、紐育以外に生絲の取引きをする所はありませぬ、又日本から外國に出る生絲は御承知の通り米國向が最大部分を占めて居りまして、皆横濱市場で取引せられた後輸出されるのであります。

そこで今横濱市場と紐育市場との關係を少し御話せねばなりませぬ、紐育は米國に於ける唯一の生絲市場であるから、生絲輸入商人は皆紐育に店を持つて居る、生絲の需用者則ち絹織物を製造する機屋も矢張り紐育の附近が一番多い、紐育

と河を隔てゝ相對する「ニージョルシー」州には「パタソン」と申しまして米國中最も古く且つ最も盛大なる絹織物の製造地がありまして其處は紐育市から汽車で一時間餘りで行くことが出來ます、其外にも處々に絹物の製造所がありますが、皆紐育から遠くも三四時間以内で行くことの出來る地方にあります、機屋が生絲を買ふには紐育に在る生絲輸入商の店に人を出すか、又は輸入商店から人を出して其得意先を廻り注文を取らせることになつて居りますが、紐育に於ける生絲輸入商は殆んど皆横濱に本店支店若くは代理店を持つて居る、此等の生絲輸入商店がドウして横濱に注文を出すかと申しますると先づ機屋からこれ〳〵の品を幾封度何月何日までに渡して貰ひたいと云ふ注文を取る、それと同時に横濱の店に其品物買付けの電信を打つのでありまず、それが通常のやり方でありますが、これは勿論現物の賣買でない、一箇月も二箇月もの後に荷物受渡しの賣買約束であるが、其外に輸入商が機屋の注文はまだ握つて居ないけれども横濱の市場で荷物を仕入れ之を紐育に取寄せまして時相場で現物即時引渡の注文に應する向も隨分あります。

紐育に於ける輸入商人が横濱で生絲を買付けるのは詰り機屋に賣込む爲でありますが、機屋はドウして生絲の注文を出すかと申しますると、機屋は先づ如何なる織物を何程幾許の値段で何月何日までに拵へて渡せと云ふ注文を取りまして其織物の製造に適當した生絲を注文値段に出遣ふやうな相場で買入れ又其注文品を拵へるに充分な數量をば拵へ上げる期限に間に合ふやうに手に入れねばならぬ、機屋が生絲の注文を出すには斯の如く先づ織物の注文を握つてから出すのが通例でありますけれども、絹織物の景氣が好くて生絲の値段が割合に安いと思ふ時には見込を付け差當要らぬ者も買つて置くことがあります、要するに機屋が出す生絲注文の多少は全く織物注文の出方の多少に依るもので其直段の高下も亦其注文を引受けた絹織物の値段の高低に伴ふのが通則でありまして即ち機屋が高い値段で澤山の織物注文を握つて居る時は高價を拂つても澤山な生絲を買入れますが、之に反し若し織物注文の出方が少く、然も安値で之を引受けて居る場合には機屋は原料が如何に安値でも僅しか買はないのであります。

然らば機屋は毎年ドゥして織物の注文を取るかと申しまするると大きな機屋になりますと銘々に賣店を紐育市内に持つて各地方に人を出して注文を取りますが、通常の機屋が織物の注文を取るのは多く織物問屋の手を經て取るのであります米國では絹織物小賣業者と機屋との間は絹織物の問屋がある其問屋は皆紐育にありまして平素店員を各地方に派出して織物の注文を取らせます、元來米國に於ける絹織物の用途は第一に婦人の衣服地、裝飾用、蝙蝠傘地、男の衣服の裏地及び電氣工業にも大分使はれます、併ながら其中で最も澤山に需要さるゝのは婦人の服地であります、之は毎年春と秋とに流行が變る、其注文を取るには次の季節に流行しさうな品物の見本を織り立てそれを賣り子に持たせて各地方に出す、大きな問屋になると多數の賣り子を使つて、誰は此地方、誰は彼地方と夫れ〳〵領分を定めまして各地方の小さな町まで人を出して小賣屋から注文を取るのであります、そうして春の

注文は春の前に取り、又秋の注文は秋の前に取るのでありますが賣子は皆な其出先きで何處の何町の何某から此見本の品物を何月何日までに幾らの値段で幾匹寄越して呉れとの注文があつたと云ふことを一々問屋の方に報告する、問屋ではさう云ふ報告が方々から集つて來るのを取り纏め各注文品の數量價額受取期日等を指定して其織り立て方を機屋に注文します、機屋は其注文を握つてから之を織るに必要な生絲を買入れるのです、だから絹織物の相場の高低と其賣行の多少に依つて生絲の市價と賣行の多少が定つて來るのであります。

然らば亞米利加に於ける絹織物の賣行の多少は何に依つて起つて來るかと云ふと、是は全く米國内地一般經濟社會の情況に依るので、即ち内地一般に景氣が好ければ絹織物が澤山に賣れ、景氣が惡ければ賣れ口が少ないのであります、其景氣の好惡は何に依つて起るかと云ふと、是は他に種々の原因もありますが、最も重なるものは農作物の豐凶でありますす大統領の改選運動も御承知の通り大分一般經濟社會に影響しますが、此は四年に一度しか無い、所が農作物の豐凶は毎年あるのであります、そこで農作物が豐稔の年は一般に景氣が好いが、農作物が凶い年には不景氣と極つて居る、亞米利加の農作物には種々なものがありますが、最も重要なものは小麥と玉蜀黍と綿てあります、此三品が澤山出來た年には全國人口の大多數を占めて居る百姓の懐が一般に暖くなる、さうなると是まで木綿着物を着て居つた百姓の女も絹の着物を着ることになつて來る、是まで一年に一枚しか絹の着物を拵へないのが豐年であると二三枚も拵へます、又農作物が澤山出來まするとそれを運搬する爲に鐵道會社の收入が殖ゑて、其株式が騰つて來る、株式が騰ると其株主の財産が自然に殖ゑて來る、又配當も殖ゑて來る、そうなると妻や娘に絹の着物を餘計に拵へてやることになります、又た農作物の豐年には獨り農家と鐵道會社のみならず製造家も商人も一般の好景氣により收益が殖ゑますから絹織物を餘計に買ふことになつて來る、それでありますから米國に於ける農作物の豐凶は我生絲貿易と密接な關係を有つて居ります、それで今年は亞米利加に澤山の生絲が賣れるか賣れないか、と云ふことを知るには亞米利加に於ける農作物の豐凶を注意して居らなければならぬことであります、農作物の豐凶はドウして知ることが出來るかと云ふと、米國の農商務省では毎年全國農作物の蒔附反別を調べ、蒔附後は毎月一回づゝ發育の模樣を調べ、又收穫の後は各品の實收高を調査しまして其都度結果を發表いたします、小麥の冬期に蒔附けた分は六七月頃に收穫しますけれども其の他の作物は皆九月十月十一月中に收穫いたしますソコで毎年穀物全體の豐凶は六七月頃になりますれば農務省より發表する作柄の公報によりまして其大勢が判然致しますから、米國農務省より毎月發表する農作物の蒔附反別發育の狀況、收穫模樣等を能く注意して居れば今年は我國の生絲が米國へ良く賣れるとか賣れないとか、云ふことが生絲を拵へる前から分るのであります、現に今年の如きは米國の農作物特に穀類の作柄非常に豐作で烏麥を除くの外は全體に於て今年程多量の收穫は同國の歷史上に前例のない位百姓は非常に懐が暖くなつて或地方では、自動車に乗つて飛廻つて居る

者もあるさうであります、ですから昨今は米國向の生絲が御承知の通り澤山賣れるのでありますが、若し我蠶絲業者が農作物に關する米國農務省の報告を平素注意して居りましたなれば、既に六七月頃から今日の事が分つて居つたのでありませう。

そこで私が紐育に居る間に米國に於ける農作物に關する農務省の報告は毎年發表の都度電信で其筋に報告をして居りました、けれども殘念なことには誰もそれを注意して見る者が無かつた、尤も綿に關する分は我紡績業者に直接の利害關係を有つて居るから、多少注意する者もある樣に思はれますから今日も矢張り引續いてやつて居りますが、小麥とか玉蜀黍に關する報告は誰も注意する者が無い、誰も見ないものを高い電信料を拂つて報告した所が仕方がないから、殘念ながら昨年あたりから止めたのであります、併ながら此後はドウか蠶絲業者たる諸君は亞米利加に於ける農作物の狀況を平生能く注意されたい、若し諸君が注意するやうになれば再び之に關する電信報告を始めても宜いと思ひます。

それから尚我製絲家諸君の御注意を請ひたいのは、生絲の先賣約束をすることであります、是までは御承知の通り毎年繭が出來る季節には製絲家が一時に繭を競つて買入れます、併ながら今日の如き製絲業者のやり方では買入れた繭を以て製した絲が果して引合ふ値段で賣れるかドウか分らずに買入れねばならぬ、だから幸に生絲の値段が好ければ儲かる、其反對に若し生絲の値段が下れば損をせねばならぬ、それですから製絲業は一つの思惑仕事になつて居るやうに思はれます

が、それは製絲業の發達の爲に甚だ善くないことであります若し幸にして製絲家が年々利益を得て行きさへすれば長く營業が出來亦其事業を益々擴張して行くことが出來ますけれども若し反對に見込みが外れて損をした場合は廢業しなくてはなりますまい、數ヶ年間製絲業に從事して居つた者が一朝にして廢業しますれば折角是まで積んで來た經驗が將來役に立たなくなります、それは日本の製絲業の爲に甚だ殘念なことで、生絲改良の妨げになると思ひます、でありますから、ドウかして製絲業の基礎を確實にしたいものでありますが、それはドウすれば宜いかと云ふと、今御話した通り先物賣買をやる、即ち繭を買ふ前に生絲の賣約束をして置いて其約束値段に引合ふやうな値段で繭を買ふことにするか、又は繭を仕入れて後其繭の値段で引合ふやうな値段で生絲の先物約束をするやうにしたならば製絲業に伴ふ危險を減少することが出來ると思ひます、又米國の機屋の方でも先物の約束を希望します、どの機屋でも少し大きなのは毎年澤山な織物の注文を取りますが之を製造するには多量の原料を要します、けれども一時に總ての注文品を造るほど澤山な生絲を仕入れて置く必要はない、それ故に織物の注文値段より割出して引合ふやうな値段で多量の生絲先物の買入約束を結んで置いて必要に應じ一定の期日に之を引取ることにすれば機屋も頗る便利であります、又た機屋に賣り込むため日本から生絲を取寄せる輸入商の方でも若し機屋から先注文を取つて其品物を日本から輸入して荷渡をすれば此亦商業上の危險を避くることが出來る、それで機屋も輸入商人も又日本の製絲家も皆先物の

約定によりて或る度合まで危險を避くることが出來ます。

それから又た御承知の通り我内地で出來た生絲は皆横濱に出て參りますが横濱に持ち出した所で片端から賣れて行けば宜いが、ドウかして賣れないと出せば出すほど溜つて澤山溜れば溜るほど賣れなくなつて來る、そこで價を下げねばならぬ、所が亞米利加の機屋の在る所と横濱とは一萬哩以上も距離があります、けれども横濱に於ける生絲相場の一高一低並に其在荷の增減は毎日手に取るやうに米國の機屋に知れます、そこで今日は横濱市場に荷物が是だけ溜つたから、もう暫く經てば下る、其下るのを待つて、買うと云ふ者が多いのであります、が、相場が下り詰めて再び早く買はねければ買損すると云ふので、澤山注文を出します併ながら餘りに高く上り詰め

十月二十八日總裁殿下御台臨あらせられ無上の光栄を擔ひたる甲府市草薙社製絲場の全景なり

ると其中に取引きが少くなる、荷物は横濱に堆積する、そうすると又た横濱の相場が下ることになります、然るに生絲は織物の原料であるから、其原料の値段が下れば機屋は喜ばねばならぬ譯であるが横濱相場の高低は隨分甚だしいので相場下落の爲め却つて機屋が苦情を云ふことがあるそれはドウかと云ふと、機屋が或値段で生絲を仕入れ注文品を織立てた後に生絲の相場が下落すると自分が造つた品物は後から廉い生絲で他人の造つた織物の競爭を受けることになつて來る、そこでそれを引受ける問屋なり小賣屋なりが其賣捌きに困難します、だから原料の値段の下るのを喜ばねばならぬ機屋が原料が下つたと云つて苦情を言ふことがあります。それで從來のやうに横濱の生絲相場に亂高下があると機屋が大變仕事がやり

惡い、先きに申しました通り亞米利加では日本の生絲が一番多く賣れる、一番多く賣れるからして紐育で日本絲を生絲相場の標準として居る、紐育で日本絲の相場が上れば他の絲も多少上ります、又日本絲の相場が下つて來れば他の絲も多少下ります、所が日本絲の市價の大勢は亞米利加内地の狀況によつて定りますけれども横濱市場の相場が直接に影響します横濱の相場が下ると紐育の相場も下ります、又横濱の相場が上つて來ると紐育の相場も上つて來る、ですから機屋は之が爲め頗る危險を踏ねばならぬ有樣であります、だから日本絲の相場の激變を少くすることが最も肝要と思ひますが、是も亦先約束を澤山すれば其實行が出來ます、なぜならば日本で出來る生絲の大部分を先約束で揃へることになれば出來た品物を横濱に出すと同時に外國へ輸出しますから横濱に荷物が溜りませぬ、横濱に浮いて居る荷物が少くなれば少くなるほど相場を維持することが容易くなる、それでドウか成るべく此先約束を増加する方針を我製絲家が執らねばならぬと思ひます。

我製絲家が先物の賣約束を結ぶに必要なるは揃つた絲を澤山揃へ一定の商標を附けて賣出すことであります、一軒の製絲家で揃つた絲が澤山出來なければ五軒も十軒も二十軒も申合せて共同販賣組合を拵へて其組合の商標を附けて海外に賣出し外國の機屋は其商標を名指して注文を出すことにならぬければならぬ、今日迄米國の機屋が日本の生絲を買ふ場合に我製絲家の商標を指して注文を出すことがないではありませぬが、それは極く少い、それではドウして機屋が注文を出すかと云ふと多くの場合は紐育に於ける生絲輸入商店の商標を目的にして注文を出す、此等輸入商店の本支店又は代理店たる横濱の生絲輸出商店では方々で製したものを買集めまして其函詰となつて居る荷物をばスッカリ解いて製絲家が附けた商標を取り拂ひ一々檢査を致しまして似寄つた絲だけを合せて更らに荷造りを仕直しまして、銘々の店で極めた商標を附けて輸出いたします、若し揃つた品が市場で澤山買へるならば輸出商店も此手數をするに及びませぬだらうけれどもまだ今日迄の處ではそう云ふ譯に行かないのである、ソコで折角内地の製絲家が揃へた品を更に檢査して之を揃へ直さなければならぬ、又折角内地の製絲家が附けた商標も輸出商店の商標と變へなければならぬ、是は甚だ殘念な譯ですから今後我製絲家は揃つた絲を可成澤山拵へて横濱に出し、其商標で亞米利加の機屋の手に渡り、機屋は我製絲家の商標を見當てに注文を出すやうになりましたならばソコで初て先約束も自在に出來ることになりませうさうなると横濱に多量の荷物が停滯することが無くなります。

それで之れを約めて申せば日米貿易に從事して居る者、殊に我製絲家などは平素米國に於ける農作物發育の模樣と其收穫の豫想に關する公報に注意することが頗る肝要と思ひます、それから又製絲家が製絲事業に伴ふ危險を避くる爲め且つ横濱に澤山の荷物が停滯して相場の激變を來たすことのないやうに先物賣の約定を結ぶことが必要と思ひます

———

繭質一定の急務及其法案

通常會員　三谷　徹

世人動もすれば曰く本邦生絲の品位齊一ならざるは蠶の種類の雜駁なるにあり故に蠶の種類にして一定せしめば生絲の品位は自ら齊一するを得んと、吾人も亦蠶種の雜駁を以て生絲の品位を不齊に陷るゝの一因たることを確かに認め、之を憂ふるもの蠶種の一定は固より希望して止まざるところなり然りと雖も蠶種の一定は世人の豫期せるが如く果して生絲の品位を一定せしむる唯一の手段なるか、否な吾人は其決して然らざるを知る何となれば現時稱するところの種類は如何にも幾百千種の多きに及び其雜駁甚だ極まれるが如き感なきにあらずと雖も其所謂種類と稱するものは眞の種類にあらずして其名稱の異なるに過ぎざるべし、換言せば種類の雜駁は唯其名稱の雜多なるに歸せんのみ、試みに今日所謂各種類なるものを一定の場所に集め一定の桑葉を給し一定の飼育を行ひ以て收繭したりとせよ、其穫たる繭は果して各種の名稱と等しく其差異の容易に認識し得らるるものとなすか、否多くは同品質のものにして却て其差異の極めて尠きに驚くものあらん、是蠶種の名稱は製種家が一種の商略上よりして同種類のものに各自思ひ思ひの名稱を附して蠶界に發表せるもの焉んぞ蠶種に此の如き幾百千種の多き種類あらんや、思ふに其大部分は異名同種のものならんのみ、然るに世人往々一名稱あれば一品種あるかの如く、又彼の新奇なる名稱は恰も新奇なる品種あるかの如く妄信したるの結果、蠶種を限定せば生絲の品位は從つて齊一ならしめ得べしと思意し、遂に蠶種一定論を稱導するに至りしなるべし、是れ單に其名稱のみに拘泥して其繭質の如何に思ひ及ばざりしによる、請ふ更に去りて之を事實に徵せ、彼の同一名稱に屬する種類の甲地に於て飼育せられつゝあるものと乙地に於て飼育せられつゝあるものを取り其收繭を比較せよ、其形狀に於て色澤に於いて將た縮皺緊緩纖度强伸力に於て著しく異なれるものあるを見るべし又之れと反對に甲地の或種と乙地の或種は其名稱全く異れるにも拘はらず、其收繭は品質甚だ酷似し否殆んど其差異を認むること能はざるもののあるを見ん、抑斯の如きの現象を來す果して何等の關係によりて然るか、蓋し其今日に於ける蠶種の名稱は概ね製種家の商標にして、蠶の種類にあらず、されば此現象の來る固より當然のことに屬し、敢て怪しむに足らざるなり、從つて此れが名稱の如何は以て其品質を證明するの材料とはならざる炳焉として明かなり、是れ吾人が假令蠶種を一定し得たりとするも到底生絲の品位を齊一ならしめ能はずと云ふ所以なり、此に於てか吾人は世論を排して左の如く云はんとす、生絲の品位を齊一ならしむるの策としては蠶種の名稱を一定せしむるよりも之れが根本たる繭質の一定に求むる極めて要當にして且つ切實なるべきことを若し夫れ幸に其根本たる繭質にして一定せられんか、生絲の品位は期せずして必ず齊一なるに至るべきは決して疑ふところにあらざるなり、然るときは彼の蠶種の名稱の如き幾千百種あるも生絲の品位に對しては何等の關係あらざるなり、否益々多からし

め全く製種家の商標とせしめて以て彼等の信用と德義とに訴へ良種を供給せしひるの手段に供せば却つて蠶界に稗益する點からざるものあらん、此の如きに至れば其名稱の雜多は寧ろ歡迎し奬勵するも亦可ならずや。

夫れ然り絲質の齊一は蠶の種類一定よりも繭質の一定を以て期し得らる可しとせば之れを如何なる繭質に一定せしめて可なるべきかは尋ひて起るべき問題なり、而して之れが方策を講ずるは今日に於ける急務中の急務なるべし、然れども繭質は氣候風土の異なるにより、又桑葉育蠶法等の如何によりて種々なる變化を醸し常に同一ならしひるとは能はざるものなるを以て、吾人は之れを一定せしひるの甚だ容易ならざるを知る、此を以て吾人は之れが方法として、先づ繭質鑑定に對する一定の標準を設け、蠶種を製造するものをして悉く其標準に據らしめ以て種繭の撰別を行はしめんとす、然る時は繭質の一定は恐らく甚だしく至難ならずして行はるゝを得べけん、依つて吾人は試みに繭質鑑定に對する要領を左に示し以て之れが一定標準の參考に供せんとす。

一、色澤、色澤は純白にして齊一なるを要す、若し其色澤些かにても赭色を帶び或は黐色を帶ぶるが如きものなるときは、其解舒惡くして絲量少く、且つ節節多きを通例とすれば、決して斯の如きものを選ぶべからず。

二、形狀、形狀は整一にして楕圓形を爲し且央緊の尤も少きものたるを要す、即ち其形狀整一ならざれば乾繭工程に際しては乾燥に過不及を生じ繰絲工程に於ては煮熟に均一を欠く等の弊を醸し、延ひて絲量を減耗し、生絲の品位を貶するに至るべし、又央緊あるものは其解舒惡しくして繰絲時間を多費し、且つ生絲に類節を生ずること甚しきものなれば、特に之れを避けざるべからず。

三、大さ、繭の類の長さ九分五厘幅五分内外の大さを有するものを以て最も可とす、而して一升の粒數は二百八十顆乃至三百顆を入るものなるを要す、若し大に過ぐるものなれば絲量少きの不利あるのみならず、蠶兒の飼育も容易ならざるの欠點あり、之れに反し小に失するものは繰絲の際屢々添緒及斷緒を行はざるべからざるを以て徒らに其繰作を煩雜ならしめ、而も生絲の品位を劣等ならしひるを免れざればなり。

四、縮皺、縮皺は密なるものより寧ろ粗なるものを選ぶべし、抑も縮皺に粗密を生ずる所以は、概ね蠶兒が營繭當時に於ける振頭の廣狹如何によりて基くものゝ如し、即ち其振頭範圍廣ければ粗となり、狹ければ密となる、而して其廣きものは絲纏の乾燥速かなるが故に、其解舒は佳良なるべきも、之れに反し其狹きものは乾燥鈍きを以て絲膠の固着甚だしく、爲めに其解舒惡しく從つて絲量を減耗し、且つ類節を多からしひるものとす、縮皺の粗密決して忽緒に附すべからざるなり。

五、重量、重量は一顆平均三分七厘以上にして其一升の重量百十匁内外なるを以て可とす、而して其繭全量に對する繭層量の割合は少くとも一割三分五厘以上たるを要す即ち絲量と繭層量とに對する割合の多少は、取りも直さず絲量の多寡に關し、延ひて繭の價値に大なる影響あるものたれば、經濟上可成繭層量の割合多きものを選ぶを肝要とす。

六、絲長、繭絲は檢尺器にて四百回以上の長さを有するものなるを要す、蓋し絲長の短きものは概して絲量乏しきの一大缺點あるのみならず、繰絲の際頻繁に添緒を行はざるべからざるの煩あるに、而も附類も亦取類等を多からしめ、更らに其强伸力を弱からしひるの弊あればなり。

七、纖度、纖度は繭の外層中層内層の區別により、其差異甚だしきものならざるを要す、即ち其差異甚だしきものは生絲の纖度に不齊を來すを以てなり、而して其纖度の平均は二「デニール」半乃至三「デニール」のものたるべし、是れ右纖度より細きものは繰絲に際し一定の生絲を製造するに多くの繭を添接せざるべからざるが故に、徒らに繰絲工程を煩雜ならしひるのみならず、動もすれば其纖度を不齊に陷らしひるを免れず、之に反し其太きものは繰絲の際に於ける一繭絲の添足若しくは斷緒によりて、著しく生絲の纖度に不平均を生ぜしひるの缺點あればなり。

山梨縣東八代郡立山蠶業學校の景

八、强伸力、繭絲の强伸力は九「グラム」以上のものたるべく、其伸度は一割八分以上のものなるを要す、夫れ强伸力の强弱は實に生絲の價値に關し、其價額を左右すること大なるものなるが故に、可成此二力に豊富なるものを選ぶは極めて必要のことゝなす。

九、練減、練減は繭の上層中層内層の區別によりて著しく異れども、各層を通じて平均二十匁以下のものなるを要す、抑も此練減の多少は解舒の難易に關すること極めて大なるものとす、故に絲膠多ければ解舒惡しくして絲量を減じ、類節を多からしひるを通例とす、況んや生絲の練減多きものは需要者の忌むところとなり實貿市場常に不利の地位に立たざるべからざるの損失あるをや。

繭質鑑定上に於ける標準の要領は以上述べたるが如し、只獨り之れが實行上に於て困難を感するものは、多數の製種家が其從來飼育し來りて、多少世人に信用を得たる蠶種を一朝にして擯ち去り、以て此標準に據るを好むや否やにあり、是れ實に至難なるの事情なりと雖も、吾人は此れが手段として左の如き奬勵策を取らば、之れが實行を

期する敢て至難の業にあらざるべきを信ず。

一、原々種の配附を行ふべし

府縣に於ては適當の手段を以て、一定標準に適合せる原々種の製造を行ひ、之れを管内製種家に配布し宜しく製種家を勸誘して以て斯種の蠶種を盛んに製造販賣せしむるにあり。

二、品評上に於ける價値を高からしむべし

博覽會共進會品評會等に於ける繭の審査法は、必ず此標準に則とり以て之れが褒貶黜陟を行はしむべし、然る時は製種家は商略上其標準に據りて以て種繭の選別を行ふに至るべく、又養蠶家も名譽上斯種の繭を歓迎するに至るべければなり。

三、繭の賣值を高からしむべし

製絲家を勸誘し可成斯種の繭を高價に買入れしむべし繭質の改良は養蠶家に於ても固より利すること多かるべしと雖も、製絲家に於ては之れが爲め更に一層の利益を得べければなり、況んや比較的高價に購ふも其繭質の一定せるものは、第一生絲の品質を整一ならしむるは勿論、更に製絲に際し繰絲時間を短縮し絲量を多からしむべく、而も尚其生絲は類節少く且つ强伸力に富むものなれば、彼の區々雖殺なるものを購ふよりも相殺上利する所外ければなり。

四、利害は深く當業者の腦裡に印せしむべし

演說會講話會等に於て繭質改良に關する譬話を爲すには必ず懇々其利害得失を說示し、以て此標準に據るの極めて利益なることを知らしめ、深く之を當業者の腦裡に印せしむるを要す。

五、他機關法を利用して普及を計るべし

府縣郡等に於ては蠶業共同飼育若しくは共同巡回教師等に特殊の補助金を與ふる場合に於ては、宜しく其標準に據る種類の飼育を必ず爲すべきことを限定するを要す、是れ少しく干渉に亘り過ぎるの嫌ひなきにあらずと雖も繭質改良上に於ては極めて有效なるが故に此の如き手段を執る亦止を得ざるべし。

以上の如くにして統勵勸誘怠らざれば、繭質の一定は恐らく五ヶ年を出でずして行はるべく、而も之れが爲に生絲の品質を齊一ならしむるのみならず、生絲家は生産費を減じて而も精良なる生絲を得るのみならず、生絲家は生産費を減じて而も精良なる生絲を得るに至るべく、而して養蠶家に至りては其飼育容易なる繭を得て收繭は徒良にして價格高貴なるが故に、其經濟を益する蓋し今日の比にあらざるべし、實に繭質一定は以上の如く製絲家を利し養蠶家も益する兩全の策たり、宜しく其局に當るの士は勿論銳意之れが奬勵に任じ當業者も亦奮勵一番之れが改良に努力せられんことを望む。

智と德とは必ずしも結合せず木造の家屋中に黃金の宝みを見ること屢々これあり

ガスケル

富士風穴の價値を論して柳澤氏に答ふ

特別會員　荒木武雄

松本測候所長柳澤嚴氏は、本年富士風穴に貯藏せし一部の蠶種の發生不良なりし原因を推定して左の事項に歸せり。

富士風穴は一種の洞窟なれば其内部に通じて微ひ、空氣沈澱して炭酸瓦斯の含量を增し、此處の貯藏されたる蠶種は爲めに呼吸作用の障害を受けて、發生不良に陷りしものなりしと蠶業新報第百六十三號參照）

柳澤氏の所說にして誤謬なしとせんか、富士風穴を始め此種に屬する風穴に、蠶種を貯藏するは尚危險にして、到底蠶種貯藏所として存在を許すべからざるものなり、然るに予輩の所信は全く之と異にして、其の不良なりし原因は風穴其者の惡しきにあらずして、蠶種貯藏工程上の缺點にありとなすものなり。

今本論に入るに先ち本年富士の風穴に於ける蠶種貯藏の方法を左に述ふべし。

蠶種は一定の貯藏箱に容れ、雲母紙にて密閉し最に外氣の流入を防ぎて、之を第一號室（廣穴の入口第二號室、廣穴の入口に近き所第三號室及第四號室（廣穴内に位きしものにして、何れも箱中に容れし蠶種の數量相同じく入穴の時期は一月中なりし。

偖て如上の方法によりて貯藏せられたる蠶種が、呼吸の障害によりて發生不良に陷りしと云ふ、柳澤氏の說は、予輩の信する能はざる所にして以下之に就き一言せんとす。

（一）富士風穴の洞窟内に於て空氣沈澱すとなすは誤れり、富士風穴は洞窟に相違なきも、多少空氣は流通し居るなり、即ち洞穴の入口に於て建築せられたる第一號室は外氣に接したる處なるにも拘らず、溫度四十度内外を即ち、而して下段より上段に至るに從ひ、溫度漸々高きを常とす、之即ち洞穴より進入し來る處の空氣の此室に接すると、其の底部片石の間隙より吐出する冷氣とに感して、此の溫度を保持するに外ならず、現に余輩は該風穴調査の際數時間洞穴内に在りしも毫も呼吸作用に障害を受けたるやの感なく、又蠶種取扱者が入穴若くは出穴の際、毎日若干時間洞穴内に勤作して、少しも呼吸に差支なき處より察すれば、洞穴内に多量の炭酸瓦斯を含有せりとは信すべからず。

（二）更に一歩を讓りて洞穴内にありて多くの炭酸瓦斯を含むとするも、外氣と絶縁したる箱中の蠶種に何等影響を與ふるが如きことなき理なり、又箱中の蠶種貯藏數多きに失したるに非さるかと云ふに、此の貯藏數は從來の數と同しく又第一號室乃至第四號室のもの同一數なれは、若し一部の蠶種にして不良の結果を顯せば、全部之と同一の現象を呈すべき筈なるに、事實全く其事なきは斯ることの原因に非らざるを證するにあらずや。

大さに本年京都蠶業講習所製造の蠶種を、他の普通貯藏の蠶種と同一の方法を以て、洞窟内の貯藏所に貯藏し七月以後九月に至る迄期を隔て出穴し試育したるに、早出晩出の分とも異狀なく發生し又發育せり、若し柳澤氏の說の如くんば早出の分より晩出の分は結果甚だしく不良ならざるべ

からざる理なり、此の一事を以てするも柳澤氏の說の誤れるを知り得べし。

要するに富士風穴が炭酸瓦斯の含量多くして蠶種の呼吸作用を害し、爲めに本年發生不良に陷りしとなすは尙に一つの想像說に過きずして、此の疑團は以上の說明及後段掲ぐる處の試驗の成蹟に據て氷解すべし。

偖て余藏は右の蠶種が發生不良なりし原因を列擧して左の二者となすものなり。

（一）比較的溫度低き風穴に貯藏すべき蠶種の入穴時期（柳澤氏は余報が年期時期云々と云ひしかの如く述べられしも之れは氷解なるべし。蠶業新報第百六十三號所載小生の意見參照）を誤りたるもの。

（二）比較的溫度低き風穴に貯藏したる蠶種を取出す際少しく究理なかりしこと。

右二者の內本年の不良なる結果は主として第一原因に屬し第二原因としては特に列記する程に重大なる關係なきものとす、而して余輩が斯の如き斷定を下せる基礎は實に左の試驗結果に據るものとす。

（一）入穴時期と蠶兒の强弱との關係試驗

三十九年一月十五日以後或る期間を隔て、富士風穴の洞窖內貯藏室に他の貯藏蠶種と同一の方法を以て貯藏し、之れを秋期に取出して飼育し、以て蠶兒發生の良否强弱收繭の多寡及品質等を調査し、風穴入種の好期を知らんとするにあり。

試驗に供したる蠶種は京都蠶業講習所製造の青熟中巢にして、何れも九月一日の採種に係れるものなり、而して入穴の時期を左の四回とす。

	第一回 入穴時期 一月十五日	第二回 同 二月十五日	第三回 同 三月十五日	第四回 同 四月十五日
第一回	一九六	一九一四	三三四	二〇九九
第二回	一九一四	二六三	二〇〇一	一六一〇
第三回	三三四	二〇〇一	九八	
第四回	二〇九九	九八		

	總產卵數	發生蠶數	不發生蠶卵數
第一回	一九六	一九一四	四五
第二回	一九一四	二六三	七一
第三回	三三四	二〇〇一	九八
第四回	二〇九九	一六一〇	一六〇八

右表の如く第四回分は殆んど斃死したりと云へども、第一回乃至第三回分は發生蠶數に對する不發生蠶數の割合に大差なし、然りと雖發生當時に於て其の齊否を檢したるに、第一回及第二回分は發生殊に不齊にして、數日間に亘りて除々發生し、收繭困難なりしと雖第三回のものに至ては尙に良好にして、殆んど一日中に孵化し、之を他の風穴に貯藏せしものに比し優る處あるも劣る處なかりき、而して收繭の容量は左の如し。

	總繭數	上繭	中繭	下繭	屑功繭	計
第一回	一八八	五〇	〇四	〇二	五〇	五六六
第二回	二六三	五五	二〇	一五	七四	六六四

第三回	二五二〇	六四〇	一〇	〇八	八〇	七三八

右表によれは三月中入穴せしもの成蹟最優等にして、第二回のもの之に次き、第一回最も不良なり、而して本年度に於ける富士風穴の貯藏即ち入穴時期の、前記の如く一月中旬なりしと云へば、恰も本試驗に於ける第一回分に相當せり。

本試驗の外本所に於て氷を以て空氣を冷却し、華氏四十度內外の溫度を保てる箱中に本試驗と同一の目的を以て入箱時期を異にして貯藏したる蠶種の結果と比較せるに、其成蹟昨年度及本年度の兩度共此試驗の結果と比較せるに、溫度低き處に貯藏したるものは結果良好なりしが、溫度高き處に貯藏したるものは不良なりしと云へば、亦本試驗の結果と一致せり。

試驗の成蹟は溫度及貯藏室に於ける空氣の溫度の高低に關係あるものなるが如し。

此比較的發生不良なりし原因を知るに、亦秋蠶種の溫度高き處に貯藏したるものは不良なりしと云へば、亦本試驗の結果と一致せり。

次きに本試驗の第三回分を以て他の風穴即ち長野稻扱前田穴、山梨縣葛木風穴等に貯藏せし蠶種を本所に於て殆んど同一時期に飼育したるものに比するに、其の何れのものよりも優等位し、尙富士風穴の第一號室に貯藏したるものに比するも遙かに優等なりし。

（二）秋蠶黑種催青試驗

三十八年二月十五日京都蠶業講習所製造の蠶種小石丸い形の二種を氷を以て空氣を冷却し、四十度前後の溫度を保てる箱中に貯藏し、七月に至て取り出す際一半は箱中より取り出し直ちに蠶室に移して催青し、他の一半は土窖內の溫度稍低き處に置き、所謂硏究をなして除々に發生せしめ以て二者の優劣を試みたり。

究理區　七月十五日箱中より取出し

直出區　七月十八日箱中より取出して土窖に置くこと十日間の後蠶室に移し發青發生せしむ。

直出區　直ちに蠶室に移し催青發生せしむ。

催青中の平均溫度は土窖內七十度五、蠶室七十八度なりし今各種五蟻分に就き發生蠶數を調査したる結果を畢ぐれは左の如し。

	總產卵數	發生蠶數	不發生蠶卵數
究理區小石丸	二九一八	二〇七八	八三九
直出區小石丸	二〇九四	九七五	一一一九
究理區い形	二〇八四	二三三一	七五二
直出區い形	二四一五	一三九六	一〇一九

掃立蟻量は各區二分宛にして收繭の容量は左の如し。

	上繭	中繭	下繭	屑功繭	計
究理區小石丸	四六五	二八	〇六	二六	五一九
直出區小石丸	三三〇	二八	〇〇	三〇	三八八
究理區い形	四八〇	二八	〇六	四〇	五六一
直出區い形	四四〇	三五	〇〇	三五	四一〇

右の成蹟の如く究理を行ひたるものは結果宜しく、直ちに高溫度を以て催青したるものは比較的成蹟劣惡なり、然れども之れは比較的溫度低き富士風穴の如きものにありて必要に

して他の比較的温度高き風穴にありては更に其の要を見さるは別種の試驗成蹟によりて明かなる事なりとす。

以上二試驗の成蹟によりて蚕は余輩の所信の誤りなきこと知られたるべし、而して柳澤氏は(一)良風穴内の温度は常に低温なるべし、(二)其気温は蠶種貯藏期間四十五度以内たるべし、(三)如斯風穴内に貯藏されたる蠶種は其の成蹟良好なるべしとのことを基礎として論せられ、又氏は蚕見に陷る場合の例を挙れば、同じく胚子の發達せざる低温度と雖、蒔氏三十一度と四十度との中に貯藏したる蠶種は自から其の温度に感應し、而して此の感應の相違により成は其の蠶見の優性強弱、結繭の品質等にて差異を生ずることあれば、貯藏及出穴後の取扱ひを多少異にせざるべからざる等其道に比較的精しきものと雖、尚周到なる思慮を費さるが如きことあり、秋蠶種の貯藏は從來行ひ來りたるが如き単純なる思想にて本年富士風穴に貯藏せし部分が発生良好なりとす、要するに原因は風穴其者の界にあらずして蠶種貯藏上一缺點あるに主因するものなれば今後に於ては斯る過ちを再びするなかるべし、同風穴に蠶種を依托貯藏せんとするものは幸に心を安んじて可なり。

終りに臨みて一言す柳澤氏は氣象學者として夙に風穴に就き研究せられ、其の結果を公表せられたること一再に止まらず、余輩は之等報告に接する毎に得る處甚だ多く、常に敬慕する處なきも、然るに顧らず今回互に研究の事項に就き其所信を異にするに至り、茲に意見を交換することを得たるは余輩の徇に光榮とする所なり。

排泄物の量と其危害

人糞一年間に排泄する汚物の量及其人體に及ぼす危害に就ての問に対して毎日子供左の如く答ひて居いた。

日本人に就てはまだ詳細の調査がないやうだが、オタテンローフルと云ふ計算に依れば三四、キロ屎量は四〇〇キロ尿量は一年間大便量一年間大約七十貫あり、と云ふ然して此等汚物の成分は種々雑多であるから其由て起る危害も一概でない就中主なるものを挙ぐれば(一)汚物は空気を汚す一立方メートルの糞尿分解するときは二十四時間に合計十八立方メートルの有害気体を出して居る(二)汚物は地表水を汚染にし界水に危害を與ふ(三)汚物は傳染病毒を保有す汚物中に混在する傳染病菌は極々微少なれども其主なるものは腸チフス、コレラ、赤痢、パスト、實扶的黴菌、結核、藤黴、破傷風、悪性水腫、化膿性黴毒等の類である何んと恐ろしいではありませんか

滿州及芝罘に於ける柞蠶製絲業

通常會員　鹽谷清多郎

第十　滿州に於ける者の注意

起さんとする者の注意

滿州及芝罘に於ける柞蠶絲製造業の狀態は以上述ぶるが如く、芝罘に於て稍々見るべき工業狀態を呈せりと雖、滿州に於ては殆ど委顛として振はず、繭價高かければ之を買ず、絲價貴ければ製絲し或は繭買入の來らざる爲止ひ得ず絲絲を爲すが如き狀態に在り、由來芝罘には出入する物貨の關門を爲し、從つて柞蠶繭に此所に集荷するの便ありたるを以て、斯業衛大隆盛に趨きたりと雖爾後過大の發達をなし、既に原繭の購入上幾分の困難を感ずるに至れり、現狀既に斯の如し、更に將來を卜せんか、遼東沿岸の殷港開放せられ、此所より滿州物貨の吞吐を爲すに至らば、芝罘の繁榮は從來の如くならざるのみならず、寧ろ衰頽に屈く、從つて漸次多額の繭を移入するの便を缺くに至るべし、是れを以て芝罘に於ける柞蠶絲製造業は、今後水遠に現狀を維持するとは容易ならざるべし、之れを以て見れば現時は正に斯業の革命期と稱するも敢て過言にあらざるべし。

今や列强國競ふて滿洲利源の開發を實行せんとするの際志ある士は爲國家滿州に於て有利なる事業の一に算ふる柞蠶発原業に付蓄勵一番を要すべきの秋なるべし、今試に滿州に於て斯業を經營せんとするに當り、注意を拂ふべき主なる要點を列挙し參考に供せん。

(一)土地　滿州の何れの土地に於て柞蠶製絲業を起すべきかは講究すべき問題なり、近時有志者間に芝罘か滿州原料を仰ぐが如く、滿州所産の繭を本邦に輸入し製絲をなさんとする者あり、安東縣と本邦間の直通航路開かれ、尚韓國縱斷鐵道も完成し、且つ職工として本邦人を使用し得べき利益あれば一應理由ある說なりと雖、原料購入の不便と運賃支出の不利益とは不動損耗を來し、寡ろ彼の地に經營を爲すの優れるに如かざるべし、然らば滿洲に之が經營を爲さんとせば何地を選ぶべきか、今次に二三候補地の選定を試みん。

安東縣は滿州鐵道の連絡する要衝の土地に當り、一方水運を以て内外各港と交通し、將來商業地として最も有望の地なり、既に本邦人の居住せるもの多く、殷盛なる市街をなせり此の地は前に述ぶる如く、滿州産繭の三分の一以上を集散し且の繭生産地の新場として將來有望なる地方を控へ、諸物貨の集散亦此の地を中心となせるを以て、原繭購入上便益多かるべく、尚土地及木材低廉にして得易かるべし、然れども從來芝罘製絲家の多くは、此所に原衆を求むる慣習ある爲めと競爭の狀態に陷ることは免れざる處なるべし。

蓋平は東清鐵道に沿ひ、滿州物貨の門戸と稱せらるゝ營口に接近し、且つ滿州唯一の柞蠶絲集散市場たり、又繭生産地の本場たる東山地方に近接せり、而して原衆の購買に當り芝罘商人との競爭比較的間接の地位に立ち得るの便を有す

然れども繭の集散量に於ては遙に安東縣に劣れも。

大連は從來主に軍事上に使用せられたる爲、商業上の機關を缺如し、且つ原繭生産地に遠きは一大缺點とする處なり、然れども東清鐵道の終點に當り、遼東灣一の不凍港として、其若重要の位置を占め、且つ租借地たる爲、我官權の保護を得るの便多きは、事業經營に至大の便益ある點なるべし。

(一)秀作・資本の合同を爲すと爲さざるとに係らず事情の許す限りは事業の幹部に屬すべき者は、概ね本邦人を使用することの便利なるは、偖り意志の相通し易きのみならず、信用上に於て最も安心を爲し得べし、原繭購入の際の如き、又彼等の力を借らざるべからざる場合なきにあらざるも、是れ又要部には本邦人を使用する方便利なるべし、繰糸に從事すべき職工は差當り山東より出稼せる支那人を使用するの外止むを得ざるべしとなすも、將來は本邦の婦女子を養生して之に充つるの急務あるを要するなるべし、又一方支那婦人を使用するの途講ずるも一策ならん。

(四)設備及作業・工場の建築は支那家屋の如き「オンドル」式を用ひず、普通我國の工場に觀る如き建形となし、壁を厚くし窗子戸を用ひ、排氣窓を設け光線の透通と換氣の方法とを講じ暖くの必要あり、又冬季は氣候頗る寒冷なるが故に、室内を温和ならしむる爲蒸汽若くば火烟の吸管を通ずるの要あり繰糸器は大に改良を要すべきものなるも差當り足踏器械を用ゆるを便なりとす、芝罘に行はるゝ佛國式器械を用ゆるも可なり、繰糸、價格比較的不廉にして、實用上索緒製絲の器械と座繰との如き大差なきを以てなり、煮繭釜は差當り滿州若くは芝罘に行はるゝものを使用するの外なかるべし、煮繭の作業は作繭製絲業上最も重要のことにして、尚幾多研究を要すべ

佛國ヒンレー農學校蠶業部蠶室内部の圖

りと雖も、今や安東縣其他各地に於て積々是れが計劃を爲せる者あり是等は既に支那屈指の資産者なるか、或は自國政府の厚き保護の下に成立せしめんとせる外國人なれは、之と抗して事業の經營を爲さんと欲せば、勢ひ規模を大ならしめざるべからず、然りと雖又一面を顧みれば、能く四周の事情に精通し得べき内地の事業すら經營の當初は常に蹉跌のみ多く、種々なる困難を冒めざれば容易に成效の曉光を得ざるは普通の狀態なり、況んや隣邦と疎言語尚相通ぜざる外國に於て之か事業を經營せんとするには、數層の困難に遭遇することあるや必せり、而して其の困難の程度は規模の大なるに從ひ、多きは言を挨たず、是れを以て薄資なるか又は幸して便し得たる如き資力を以て不相應の計劃を爲す如きは甚た不得策のことたるべく、之か經營中僅に一小蹉跌だも挽回するに由なく、遂に倒産の不幸に陷るなしとせざればなり故に如斯場合は最初小規模と爲し、漸次之か擴張に努むるの安全なるに如かず。

資本は本邦人のみを以て之に投下すべきか、又支那人と合同するを可と爲すかは充分に熟考すべきことなり、内部の和合及他日の紛擾を免れんとせば、本邦人のみを以て之か經營を爲すを便なりとすべし、左れど外部の折衝を圓滑ならしめ區々たる虞情より餘出する幾多の障害を排除し、圓滑なる經營を爲さんとせば、支那人と合同するの便利なるや論を俟たず。

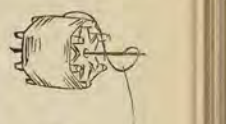
(三)秀作・資本の合同を爲すと爲さざるとに係らず事情の許す限りは事業の幹部に屬すべき者は、概ね本邦人を使用することの便利なるは、偖り意志の相通し易きのみならず、信用上に於て最も安心を爲し得べし、原繭購入の際の如き、又彼等の力を借らざるべからざる場合なきにあらざるも、是れ又要部には本邦人を使用する方便利なるべし、繰糸に從事すべき職工は差當り山東より出稼せる支那人を使用するの外止むを得ざるべしとなすも、將來は本邦の婦女子を養生して之に充つるの急務あるを要するなるべし、又一方支那婦人を使用するの途講ずるも一策ならん。

(四)設備及作業・工場の建築は支那家屋の如き「オンドル」式を用ひず、普通我國の工場に觀る如き建形となし、壁を厚くし窗子戸を用ひ、排氣窓を設け光線の透通と換氣の方法とを講じ暖くの必要あり、又冬季は氣候頗る寒冷なるが故に、室内を温和ならしむる爲蒸汽若くば火烟の吸管を通ずるの要あり繰糸器は大に改良を要すべきものなるも差當り足踏器械を用ゆるを便なりとす、芝罘に行はるゝ佛國式器械を用ゆるも可なり、繰糸、價格比較的不廉にして、實用上索緒製絲の器械と座繰との如き大差なきを以てなり、煮繭釜は差當り滿州若くは芝罘に行はるゝものを使用するの外なかるべし、煮繭の作業は作繭製絲業上最も重要のことにして、尚幾多研究を要すべきものあり、原料の貯藏に付ては之れ又研究を要すべき點多しと雖、現今は芝罘の方法に則るの外止むを得ざるべし。

(五)販路・起業の地は何地を選ぶとするも製出せし作繭絲は從來滿州に行はれたる如く、芝罘市場に搬出せずして直接上海市場に輸出するか、又は直に外國に輸出するを以て得策とすべし、我國の如き近來多額の作繭絲を輸入するにも拘らず、概ね支那人の手に依り本邦人の之に關する者少なきは洵に遺憾とする處なり。

以上述へたる處は極めて皮想の觀察を基礎とし、輙か愚見を記述したるに過ぎず、幾多の誤謬あることは素より信ずる處なり、尚終りに一言すべきことあり日露戰役後支那人の本邦人に對する感情頗る過敏に失し、吾等の爲すこと毎に、彼等の利益を壟斷するものなりと考ひ、常に猜疑の念を抱くもの多し、故に一朝彼等の反感を招かんか、多數の勢力を糾合して、不測の災害を及ぼし、顧慮に値せざる一瑣事より、遂に事業の運命に關係を及ぼすことなきを保せず、今後滿州に於て事業を經營せんとするもの須らく注意を要すべきことなりとす。

(終)



植物凍害に關する學說

農學博士　麻生慶次郎

植物の種類に依りて凍死に難易あるは、各原形質の構造の一樣ならざるに依るべしと雖も、水分の多少も亦た大に關係ありといはざるべからず、種子及冬芽の如き水分に乏しきものは著しき寒氣にも堪へ得べしと雖も、發育作用最も盛なる嫩芽又は植物の柔軟なる部分の如き、多量の水分を含める部分の容易に氷結するは主として此理に依るものとす、又氣溫は氷結する迄に降らざるも風强き時は爲めに水分の蒸發を促して、植物體より溫熱を奪ひ凍死せしむることあり、風道に當る植物の殊に著しく凍害を被る場合あるは此理に依ること少からざるべし、若し又溫度低下する前に强風ある時は豫め多量の水分を失へるが爲め、却て凍死を免れることもありとす、同理に依りて細胞液の濃厚なる組織は稀薄なるものよりも寒氣に堪ゆる所以なりとす……凡て樹木冬芽中に在る未開の小草の能く寒氣に堪ゆるは、數多の鱗片毛茸若くば樹脂樣の物質を以て被はるゝに依るべきも、亦水分を含むこと少きに依るべし、漸次開舒して種葉を生じ、多量の水分を含むに至り、一度凍害を被むるときは、忽ち其生を失ふに至るものとす、余は嘗て桑樹冬芽所含水分の量を秤たるに左の如し。

十文字	一〇％	桑木	一三、三％

尚ほ此時同時期に於ける桑葉所含水分の量は次の如しゃ

市	平	一齡乃至三齡	七七、二％	十文字	三齡	八〇、七％
魯	桑	三齡	八〇、一％	赤	木	三齡	八一、七％
山中高崎		三齡	七九、五％				

雜園の水分に關して明示すること能はざれば讀者なりと雖も四月二十六日採集せる山中高崎の桑は八二、九％廻田の桑は八二、三％十文字の桑は八〇四％の水分を含めり

植物の種類に依りて凍害に對する抵抗力に差違あるのみならず、一株中に於ても免害せる條枝と被害せる條枝とを認むること少からず、余は其條枝の生理的狀態を知らんが爲めに分析せることあり、其一例を示せば次の如し。

水分	被害せるもの	免害せるもの	被害せるもの	免害せるもの
	六、四〇	六、〇〇	粗蛋白質	一、二〇	一、〇八
乾物	九三、六〇	九四、〇〇	粗脂肪油	六、一〇	六、三〇
全窒素	一、九二	一、七四	粗纖維	三三、六五	三四、三〇
蛋白質窒素	一、四九	一、四二	粗灰分	六、八〇	六、八〇
非蛋白質窒素	〇、四三	〇、三二	無窒素エキス	三五、〇五	三五、七二

之に依りて見れば被害せるものは、免害せるものよりも稍〻水分に富み且多量の窒素を含み、殊に非蛋白質窒素の量多し、之れ即ち免害せるものゝ發育程度は被害せるものよりも較〻遲れたることを證するものゝといふべし、一は營養狀態

も佳良にして、冬芽の開舒も亦速かなり、芽の開舒も亦速かなり、ありて凍害に罹り、一は未だ却かる狀態に至て發育せざりしものとす、斯の如く植物の發育時期と凍害とは頗る密なる關係を有するものなり。（農業世界第一卷第八號抄錄所載）

霜害（即ち凍害）問題は實に我蠶業界の大問題なり、學者及實驗家の熱心之れが研究を望むや切なるの折柄實に本論の如きは三讃の價値ありと云へべし。

蠶業革新策

通常會員　芳賀董

芳賀氏は蠶業革新策と題して曰く蠶業創に進歩して年一年に產額の增加せるは誠に喜ぶべきなりと雖も其前途や尙ほ遼遠にして蠶業智識の普及を始めとし、桑園の增植、成品の販賣法等改良發達を促すべきの事項一にして足らざるなり、而して是等が比較的遲々として進まざるの原因多々ありと雖も、近時我が農業界に資本の缺乏せるは、其主因をなせるものならん、實に青蠶家の大部を占むる中產以下の農民は資本の缺乏に苦み、改良蠶具の購入、桑園の施肥等充分に爲すと能はざるの狀態に在り、されば所謂農民救濟策の如きは蠶業革新の根本的一策として農村に生產販賣組合或は販賣購買生產組合の設立せられんことを切望して止まざるなり日進月歩の蠶界に一字内に雄飛せんとするの當業者及之が航路を示さんとして熱心なる當局の士大に猛省せられんことを云々。

松永技師の視察談に就て

通常會員　本角文藏

本角氏は松永技師の視察談に就てと題して曰く大日本蠶絲會報第百七十號所載松永技師の視察談は余の大に同意を表する處なり、然るに島羽氏は論駁大に努められたることなるが氏の議論或は夫れ我蠶業界の輿論に違ふものなきか、余は多年生種と黑種の飼育を爲す者なるを以て最近三ヶ年に於ける平均成蹟を示して反省を乞はんと欲す。

（一）同一飼育時期に於る生種黑種との飼育易

（二）同一飼育時期與種類の生種と黑種との蠶兒發育與試驗

（三）生種と黑種同一蠶量に於る繭量と收繭の割合對比試驗

毎年七月下旬同時に拵立華氏平均溫度八十度乾濕の差六七度の氣候に飼育せしに、黑種は蠶兒强壯にして、氣候の激變あるも毫も故障なし、生種は之に反し常に不活潑にて、些少の變動あれば直に影響し虛弱性となり、飼育甚だ困難にして黑種の飼育容易なるに、到底及ぶべくもあらざりし。

	蠶量	上繭玉繭と中繭を除く	代價
生種	三十七貫五百目	二貫五百目	十貫四五拾錢
黑種	二十九貫八百六十三匁	二貫三百五十目	拾壹圓七拾五錢
差	七貫六百二十七匁	百五十匁	七拾五錢

右は蟻量一匁に對する成蹟にして、之に由て見れば生種は桑葉壹貫目平均代價貳拾錢として、壹圓五拾貳錢七厘の多額

を變せり、去れば繭代に於て十五錢の增收を得るとするも尙ほ桑葉代に於て黑種よりも七拾七錢七厘の損失あるなり。

(四) 同飼育法に於る生種と黑種との氣温濕度及病害に抵抗する强弱試驗

氣温の高低若くば乾濕に對する飼育の難易に就ては第一項にて說明せり病害に抵抗試驗の如きは東西蠶業講習所の病理試驗成蹟に詳なるを以て茲に贅するの要なからん。

(五) 生種と黑種との收繭の多寡及絲量糸質の比較試驗

收繭の多寡は第三項にて明なり絲量絲質の比較試驗は左の如し。

	絲量	絲質
生種(生目百目)	十匁	色澤純白佳麗解舒佳良纖維細く且つ軟柔にして彈力を有す
黑種(仝上)	十一匁五分	色澤良好解舒佳良纖維大なれども手觸は滑かにして粘着の趣味あり

附記 糸質は概して生種優良なれども絲量多き黑種に及ばず

以上は生種黑種共完全無缺の無毒框製蠶種を飼育したる實蹟なるが、今や黑種は水の低きに就くが如く、當業者に歡迎せられつゝあるは余の多言を要せざる所なり、尤も本年の如きは生種の賣行頗る盛にして、價格非常に昂騰したるも這は霜害地方の爲め黑種缺乏てふ一時の現象と見るも敢て妨げなからん、生種產地に於ける鳥羽氏が生種の爲に喋々數千言を費されたるは一應無理なきことに聞ゆれども、當業者實際の飼育成蹟は益々黑種の勝利に歸しつゝあるを如何せん、氏たるもの徒に我田引水論を主張せずして虛心平氣に蠶界の大勢を達觀する處あれ云々。

戰勝國の蠶種とならしめよ

通常會員 馬場 由

馬場氏は戰勝國の蠶種とあらしめよと題して曰く安政六年橫濱港に通商互市場を開くや、人文未開の時にして吏胥其事に精しからず、法制多く其宜しきを失し、商賈其業に暗くして、販鬻常に其度を誤り、或は因循約を違ふものあり、或は製種上詭計奸を謀りたるものあり、其結果外人我を輕視侮慢して百事其籠弄を受くる所となり、因襲の久しき餘弊今尙ほ存し、而して人視て以て之を常とするに至る、是れ商權彼れに歸する所以にして其衰頽を致せし者固より我れに在りと謂はざるべからず、然らば則今にして之を復するも亦唯我が勉强に在り宜しく其業に精しく其言に信ありて剛毅不撓決して空理を論じ虛榮を求め又敢て彼我の小軒輊に區々して以て進取の念を妨碍すべからず、而して更に斯業の共同團體及び信用組合等を設立し官民共に奮勵せよ果して然らんには墨際を驅逐して本邦蠶種業を發達せしめ吾人の祖先が辛苦經營せる優麗の蠶種をば委靡衰頽の中より救ひ以て外侮を防ぎ戰勝國の蠶種として其勢力次第に列國の蠶種を凌ぐに至らん云々。

蠶絲業と國民の獨立

通常會員 春日 鐐三郎

春日氏は蠶絲業と國民の獨立と題して曰く余は茲に數年間、余が郷里の郷土史を編纂せんとして諸種の材料を蒐集せる中に就き、余をして最も感ぜしめたるものは、郷村の盛衰上富の消長集散が、主として生產物の多寡に關連し生產物の多寡は生產力の大小に據り、而して其の村民一般の、獨立的精神の興廢に影響すること大なるもの是れなり、然るに今や進んで有ゆる生產物の種類に就て之れを見るに我蠶絲業ほど郷村の富を增大し、然も獨立的精神を奮興せしむるものは他に在ることなし、誠に之れ興農の最大良法にして國家の富源なりと云ふも敢て過言にあらざるべし。

余は、國家の獨立を欲す、故に一村一家の獨立を欲せり蓋し獨立は國民的精神の異隨なればなり、而して獨立は何に據りて生るゝや、他なし富に外ならず、而して此の富は生產物にして此の生產物中、蠶絲は實に富を作るの最大なるもの孔子曰く衣食足て禮節を知ると蠶業豈尊重せずして可ならんや。

茲に於てか余は曰はんとす、噫獨立!!!、嗚呼富!!!、蠶絲業なるかな!!!我國民たるものは、宜しく一身一家一村一國の爲めに、鋭意蠶絲業の爲に勉め以て獨立自治の精神を養はずんばあるべからず云々。

蠁蛆に二化性あり

通常會員 山崎正齋

山崎氏は蠁蛆に二化性ありと題して曰く渡邊英登氏は本誌第百七十六號に於て、蠁蛆に二化性のものある事を紹介せられたるが、予も亦偶然之を發見したり。

本年春蠶種製造の際、種繭より發生せし蠁蛆を採集せしに餘りに多かりしを以て之を保存し置き、或機會に於て之を衆に示し、蛆害の慘烈なる事及び蠁蛆驅除の忽諸に附すべからざることを知らしめんと欲し、無蓋の壺に入れて、蠶室床下の一隅に放置せり、其壺に蓋を施さゞりしは、蠁蛆は一化性にして、其蛹は年內に再び化蠅する事無しと信したればなり然るに數十日を經て之を見たるに、壺中の蛆蛹中間々化蠅して飛び去り、蛹殼のみ殘留せるもののあるを發見し、又余の家族中には、現に壺中の蛆蛹化蠅して飛び去るもののあるを實見したる者あり、於之か余は蠁蛆に二化性のもののある事を慥め倉皇之を火中に投じて滅殺したり云々。

製絲家の利潤

本年の製絲家は非常の利益を獲得し昨今にては一個に付き百圓の利益あるが製絲家の利潤は市價の上にのみ止まらず新絲及乘買商等に賣拂ひて毫も市場に停滯することなかりしかば倉敷保險料のみにても非常の利得にて原茂木遠藤等の大商店にては倉敷料二三千圓の取損れを爲したる勘定なりと

雜録

藤本善右衛門氏の事蹟

世人は信州蠶業の隆盛を想ふに、又必ずや亡父の藤本善右衛門氏を聯想するであらう、實に信州蠶業界の名士として實に日本蠶業界の偉勳者である、蠶絲業に多少の關係を有せる者が信州の藤本なる名を知らざるを以て、自己の疑問と迄考ふるに至ては、如何に氏が尊常一樣の人に、蠶絲業界に稚れ本會が獲功表彰規則に依り金賞を與し、大日本農會が贈るに値する功績を表彰し、其績を想像するとが出來るであらう、氏は嘗て明治三十年に至つて、二十二年間勤續し、社員中に死者や病者のあるに際しては、出張して慰藉し、又遺族の養育に盡力せられたのである、而し、蠶種故良千代開會社を組織せんとの議起るや、氏は東奔西走殆んど疲食を忘れて之れが創立に盡力せられたのである、而して倉其組織成るに及んで擢されて副社長となり、尋で明治十年には社長となつて、二十二年に至つて、此間常業者の平和を保ち社中の和睦を圖り、種々の改良を講じ、社員中に死者や病者のあるに際しては出張して慰藉し、又遺族の養育に盡力せられたのである、而して明治十七

たから、偶々徴兵に取られた取られた貧人は地獄へても行くやうな心地になり、親達は此世の生き別れと悲んだものである、間も無く此時の手数足かせを打ち破り天晴れ國家の干城として其任務を立つとかして此時の事なれば、多かつたのであるが氏は一の業を立てこれを村会に報ぜさせたいものであるとて種々思案の末明治十五年四月常備役三年の任務を完うして目出度歸郷し保護金として一人に付金百圓づつを給し其の精神を鼓舞せしむる策を講ぜられたのである、又氏は同年の交、再び鹽尻村役人たるを辞し、自ら進んで自費を投じて鹽尻村役人社を組織し、時々会員を集めて其の時事を識し、或は有益なる書籍を購入して其後役人社を改め、此の友人社なるものは、此の友人社なる名称を尚ほ継続して今に存在せしめたのである、氏は森田要雄、古松貞夫、中澤完次郎、長岡角次郎、中澤清氏と共に相謀り明治十一年八月資本金壱百円を以て株式組織とし、養蚕業及紡績業を起すの目的で上田市に於て開業せしめ、氏は自己の不動産を抵当として銀行より金壱千円を借入れ、其の内壱百円を鹽尻村役人社に貸与し、残り九百円を以て氏の門下に集まる者、其人たるを知らずして、苦辛を嘗め百方奮励せしめたのである。

傳習生の養成

各地の蚕業が追々発達するに伴ふて諸方から養蚕傳習生を養成すべし明治九年以来傳習生を来るので、之等の依頼を断はるに忍びないと云ふ事を聞き込まれて氏の門に集まる者、其人たるを知らずして、苦辛を嘗め百方奮励せしめたのである。

氏は、長岡角平等の諸氏と共に相謀り明治十一年八月資本金壱百円を以て株式組織とし、養蚕及紡績業を起すの目的で上田市に於て開業せしめ、氏は自己の不動産を抵当として銀行より金壱千円を借入れ、其の内壱百円を鹽尻村役人社に貸与し、残り九百円を以て氏の門下に集まる者、其人たるを知らずして、苦辛を嘗め百方奮励せしめたのである。

氏は、鹽尻村役人社の書籍を購入して其後役人社を改め、此の友人社なるものを設け、蓄て軍人たるものは、時事を識し、或は有益なる書籍を購入して其後役人社を改め、此の友人社なるものを設け、蓄て軍人たるものは、時事を識し、或は有益なる書籍を購入して其後役人社を改め、此の友人社なる名称を尚ほ継続して今に存在せしめたのである、氏は森田要雄、古松貞夫、中澤完次郎、長岡角次郎、中澤清氏と共に相謀り明治十一年八月資本金壱百円を以て株式組織とし、養蚕及紡績業を起すの目的で上田市に於て開業せしめ、氏は自己の不動産を抵当として銀行より金壱千円を借入れ、其の内壱百円を鹽尻村役人社に貸与し、残り九百円を以て氏の門下に集まる者、其人たるを知らずして、苦辛を嘗め百方奮励せしめたのである。

氏は、鹽尻村役人社の書籍を購入して其後役人社を改め、此の友人社なるものを設け、蓄て軍人たるものは、時事を識し、或は有益なる書籍を購入して其後役人社を改め、此の友人社なる名称を尚ほ継続して今に存在せしめたのである、氏は森田要雄、古松貞夫、中澤完次郎、長岡角次郎、中澤清氏と共に相謀り明治十一年八月資本金壱百円を以て株式組織とし、養蚕及紡績業を起すの目的で上田市に於て開業せしめ、氏は自己の不動産を抵当として銀行より金壱千円を借入れ、其の内壱百円を鹽尻村役人社に貸与し、残り九百円を以て氏の門下に集まる者、其人たるを知らずして、苦辛を嘗め百方奮励せしめたのである。

蚕業試験所

微粒子病の研究と蠶種商會議の再興

氏は、夙に製種上微粒子病の編除に努めんと欲して、明治十七年農商務省に原種検査を申請し、翌年農商務省に原種検査を申請し、翌年農商務省に原種検査を申請し、翌

製絲の改良と組合の解散

明治二十一年五月氏は長野縣小縣郡蠶絲業上田組合員一萬同年一月製絲の改良を企て、足踏器械三千臺を製造して三ケ年之を貸与せしむるの方法を設け、中にも優秀なる者に賞与せしたのである、之れが爲めに上田機絲製造所を改組し、其效果を奏し、機械製絲業は上一革命を見るに至つた其翌二十二年長野縣蠶絲業組合取締所管轄の決議に依つて氏の組合は十九年以降年々組合經濟の剩餘金を以て積立てた金額が七千餘圓の多額に達し居るのであるが、之れを如何に分配するかは一つの大問題であつたのである、ソコで氏は斯う思つたのである、今此の金額を組合員の頭割に分配して仕舞へば僅かの金を銘々の懷ろに納むるに過ぎずして何の働きをもせぬのである、去れば之れを元金にして組合員の一致の働きを以て一の蠶業學校を設立するに如かずと、茲に於てか之れを組合員等は遂に氏の意を容るゝに敢き組合員等は遂に氏の意見を容るゝと能はずして該金の内壹百圓を信濃蠶業同攻會に寄附して蠶絲組合と生絲組合とに分配することにしたのである、而して蠶絲組合は之れを生絲組合に寄附し、分配額の基金としたけれど、普通養蠶家の如きは其を村々に悉く分配して仕舞つたので、氏は大に之れを殘念に思はれたと云ふことである。

氏に頌德表を贈る

明治二十一年五月氏は長野縣小縣郡蠶絲業上田組合員一萬同年一月製絲の改良を企て、足踏器械三千臺を製造して三ケ年之を貸与せしむるの方法を設け、中にも優秀なる者に賞与せしたのである、之れが爲めに上田機絲製造所を改組し、其效果を奏し、機械製絲業は上一革命を見るに至つた其翌二十二年長野縣蠶絲業組合取締所管轄の決議に依つて氏の組合は十九年以降年々組合經濟の剩餘金を以て積立てた金額が七千餘圓の多額に達し居るのであるが、之れを如何に分配するかは一つの大問題であつたのである、ソコで氏は斯う思つたのである、今此の金額を組合員の頭割に分配して仕舞へば僅かの金を銘々の懷ろに納むるに過ぎずして何の働きをもせぬのである、去れば之れを元金にして組合員の一致の働きを以て一の蠶業學校を設立するに如かずと、茲に於てか之れを組合員等は遂に氏の意見を容るゝと能はずして該金の内壹百圓を信濃蠶業同攻會に寄附して蠶絲組合と生絲組合とに分配することにしたのである、而して蠶絲組合は之れを生絲組合に寄附し、分配額の基金としたけれど、普通養蠶家の如きは其を村々に悉く分配して仕舞つたので、氏は大に之れを殘念に思はれたと云ふことである。

蠶卵紙の運賃抵減

從來蠶卵紙は貴重品として取扱はれてあつたから之れを運搬する場合に於て鐵道運賃が頗る高價であつて、蠶種製造家の迷惑為からず、隨て斯業の發達を沮害することを大なるものとして、氏は是非之れが低減の目的を達せんと欲し、内務省の當局者に事情を具陳し大に迫せる處ありしも其目的を達せざりしが、氏は明治二十斯くて上田組合は愈〻解散することゝなり氏は其組長を明治二十一年二月に辭任し夫れと同時に信濃蠶種組合創立委員となり其創立大会に於て一人賦一錢の割合を以て組合員に賦つたれたのである、之れが爲めに上田機絲製造所を改組し、其效果を奏し、機械製絲業は上一革命を見るに至つた其翌二十二年長野縣蠶絲業組合取締所管轄の決議に依つて氏の組合は十九年以降年々組合經濟の剩餘金を以て積立てた金額が七千餘圓の多額に達し居るのであるが、之れを如何に分配するかは一つの大問題であつたのである、ソコで氏は斯う思つたのである、今此の金額を組合員の頭割に分配して仕舞へば僅かの金を銘々の懷ろに納むるに過ぎずして何の働きをもせぬのである、去れば之れを元金にして組合員の一致の働きを以て一の蠶業學校を設立するに如かずと、茲に於てか之れを組合員等は遂に氏の意見を容るゝと能はずして該金の内壹百圓を信濃蠶業同攻會に寄附して蠶絲組合と生絲組合とに分配することにしたのである、而して蠶絲組合は之れを生絲組合に寄附し、分配額の基金としたけれど、普通養蠶家の如きは其を村々に悉く分配して仕舞つたので、氏は大に之れを殘念に思はれたと云ふことである。

五年五月淺田長野縣知事と共に上京せられ今度こそ其目的を達せずば生きて再び郷里の土を踏まずと堅く決心して當局大臣に始め其他有力者の間を奔走して堂々説破せられたのである、宇固抜く可らざる氏の決心は嚴を説き豊の如く、遂に其説容られて、運賃を低減し其取扱ひを便にせらるゝことになつた吾等は實に氏の熱心に感ずると共に今現に受けつゝある、其便益の決して鮮少ならざるを思ひ感謝措く能はざる次第である。

綿綬褒賞を下賜せらる

其他氏は、大日本蠶絲會技藝委員として、又は大日本農會農藝委員として又長野農工銀行取締役として大に盡力あり或は共進會國覽會等の審査官となられたること一再にして公共の爲に盡しつゝ、去明治三十八年十月二十二日五十七歳を以て逝去せられたのであるが、氏の一代中に於て官より賞品又は賞金の下賜を受けられたるもの夫れ幾何ぞや、若夫れ評會、共進會さては博覽會等に出品して名譽金銀銅牌及賞盃褒狀等を受けられたるの數に至つては、唯枚舉に遑まあらずと應ふるより外あるまい。

而して向氏の事蹟に就ては、語るべきことと通ぶべきことが尠くない、然れども去明治三十三年二月貴族院議員より實業勤勉衆民の模範なりとて勅定の綿綬褒賞を下賜せられる一事に徴し他は云ずして知ることが出來てあらう、今其褒章の記を掲載すれば左の如くである。

責性温厚風に先緒を繼ぎて心を蠶業に注ぎ力を傳習生の養成に竭し其教ふるや誠實其待つや懇篤是を以て名聲錆甚遠近賛を執り業を受けたるもの數百人爵めに地方蠶業の發達に禅補する所尠からず又蠶絲の改圃を畫し蹈器械を製して同業に頒ち以て從來の面目を一新し蠶病驅除の方法を講究し顧微鏡檢査を行ひて衆を誘導し其他會社組合長となりて致々唱勉する等向官實業に精勵し衆民の模範たるものとす

依て明治十四年十二月七日

勅定の綿綬褒賞を賜ひ其善行を表彰す

鳴呼名譽なる哉氏の如きは眞に吾人が師傅となすに足るの人物なりと云ふも敢て溢美の言ではあるまい。

生存競爭と動植物

横井時太郎博士の趣味と題して愛國婦人に載つ所ふこと

を掲げたれた如く社會に生存する間は絶へず競爭の當めに力を盡すものであつて、人と勝つて優り人と劣り、人と誘ひ、二大勝中人のみを相手とする生活は、自然品性が劣等となるのである、故に都の人は田舎の人より人氣が悪いのである、併し若し共業務の餘暇を利用して興味ある動植物に接する機會を作つたならばドウであらうか、例令一時間でも精神が革新する効力があるであらう、精神上の快感は即ち健康と品性を増進する基である宗教を尚に成ふべき言葉である。

東亞學校蠶業科に就て

法學士 子爵 谷 益道

今日迄局外者で居られた谷子爵が客月上旬東亞學校を創立して第一に蠶業科を設置せられたから編者は一夕子爵を同校に訪問し其主旨と抱負とを尋ねたことがある何分創立匆々の事なれば格別話すべき事柄もなしとて物語られし談話は時節柄大に注意すべきものがあると信ずるから左に其梗概を掲ぐることゝしたのである

設立の動機

東亞學校蠶業科に就ての主旨や抱負を問はれましても、之れぞと謂つて立派の趣旨太いした抱負が有る譯けでも御座りません、乍併創立した以上は無論主旨もなければならず將來に對する希望もなければならんことですが、御承知の如く清國は隨分養蠶が盛に行はれて國の廣き丈け生絲の産額も世界に冠絶して居りますけれども、マダ其養蠶の方法は頗る幼稚でありますから、ドーか其幼稚な養蠶法を改良し純良なる生絲を生産せしめたく、且つ其の生絲の一部を我市場に輸入して我絹織物等の加工品の原料となし得ることを得たならば兩國の利益少なからずと云ふのが動機になつたのであります

ソコで其養蠶を開發させるに就ては是非とも養蠶上の新智識ある人物を養成せねばならぬ、夫れには幸ひ支那の留學生が一萬五千人以上も本邦に渡來して居るから、其留學生の中より蠶業に多少の考へを有して居る者を收容して蠶業教育を施し之れに關する智識を與へて、彼地に歸つた後ちに專ら蠶業開發の衝に當らしむるやうにさせたいと云ふ目的で、當局者の希望も有り、旁々今回本校内に先づ第一着に蠶業科を置いた譯けであります、若夫れ私が將來に對する希望を述べますれば、本校を卒業した者が歸國して、自ら養蠶製絲の實務に當り、或は各地に講習會を開ひて講演する等の方法を取り、着々改良の實を擧げつゝ、本邦の蠶業家と連絡を通じ、原料と製作品との需要交換の道疎通して、東亞兩帝國が世界市場に生絲並に絹織物の獨占權を得るに至り、兩帝國の利益幷に親交を維持するの一手段となる事を得ば本校の光榮であります本校亦た兩國當業者の爲めに犬馬の勞を取ることを厭ひません。

本多所長の好意と潘志禧君の同情

私は蠶業に付て何等の素養も經驗もありません、併し舊藩地には養蠶も盛に行はれて居り、其他内地を旅行して養蠶製絲の實情に注意を拂ふたことも多き爲め、イッとはなしに多少譯るやうになり、少しづゝ譯るに從て愉快の度合も漸次增して自分の專門の法學以外に座右に蠶業の書なぞを備へてあると云ふ一の道樂となりましたが、今回本校内に蠶業科を創立しまするに當つては、本多東京蠶業講習所長及び辻蠶業部長の多大なる好意を得まして、教師選擇の事學課配合の事一から十迄心配を受け、非常なる便宜を得ましたのは實に感謝して居ります、加之こゝに通譯の勞を取て居らるゝ講習所の潘志禧君なども始より多大の同情を以て本科の設立を助けられ今日までは寧ろ協力して成功させたいと云ふ位の熱心で居らるゝのは本校の光榮であります、從つて更に經驗なき門外漢たる私も割合に困難を感ぜず、大に便宜を得て居るのでありますが、只此上は講師諸氏の熱心に信賴して前途の發達を祈つて居るのみであります。

一片の希望

現在の生徒でありますか、何分創立が本月の上旬で開校したのが十六日であり、今日までの授業日數は僅か十日位に過ぎません、從て未だ能く本校の名も世に知られず、諸般の設備も亦た充分整はないのであります、爲めに今は生徒も僅かに十二名でありますけれど、生徒等が聽講するに熱心なる點から推測しても、追々盛んになることを豫期して居ります年齡は大抵二十二三前後の者が多く、何れも幾分か蠶業の實務に經驗を持て居るやうでもありますから、漸次蠶業學に付ての趣味も會得する樣になろうと思ふて一片の希望を將來に置いて居ります。

生徒は支那の何れの地方から一番澤山來て居るかと云へますれば、江蘇が三人湖南湖北が四人其他は一省から一名計りづゝの割合でありますが、養蠶の最も盛に行はれて居ります四川省の學生が一名もないのは、甚だ不思議の現象です併し今日は開校後僅か十日ですから、未だ統計的の研究は出來ませんが、併し蠶業の學問は有益であると云ふ事が理解し得ましたらば續々入學して來るでありませう。

最良の教授法

教師は只今弘宜諦高橋の三氏でありまして、何れも本多所長の推薦せられたので教授に付ては少しの遺憾もありません併し平易に且つ通俗的に講話するのは甚だ困難な者で各講師も之點に付て不少苦心して居らるゝ樣です、且又凡て何學問に依らず專門になりますと、無味乾燥で興味の尠いものでありますが、餘り面白味がないと云ふことは初學者を指導する最良の教授法でありませぬから、可成興味を持たせるやうに講義をして貰つて居りますが、尚ほ生徒が蠶業の學問て一つの趣味を持つ迄の方便として、幻燈器を備ひて說明してはドーかと云ふ或人の注意もありますから、來春には早々之れを實行する考へて居ります。

實習地の撰定

實習でありますか、養蠶時節には是非實習も遣らする積りて、目下夫々適當の場處を撰擇して居るのであります、校舍ですか校舍も本郷に設備してありますが何分にも夜間生徒の通學する爲めには、電車の便利がなければいかんので御覽の通り不完全ながら生徒通學の便宜を計つて、此處で授業して

居ります、ママ此處は假りの場處ですから、到底實習など遂らする譯けには參りませんに依て實習地は西ケ原附近かの角繭附近と思つて居る次第であります。

根本の主旨

授業は午後の六時から八時半迄遣るのであります、何故夜分にしたのかと云ひますれば蠶業の學問と云ふた處で本校は專門の學者を養成する主旨でありません、只實務の上に學理の智識を利用させたいと云ふ希望が根本の主旨ですから日五六時間の課程を設くるの必要もなく、夫れに壹は他の學問を遂つて夜蠶業の學問を修し普通の智識を養つた上に愛ねて蠶の智識を得て國に歸り故國の蠶業開發に資せしむることは既る便宜の方法と考へまして、夫れ是れの事情を參酌して夜分にしたの譯であります。

要するに本校蠶業科には相當の抱負も希望もありますけれども、開校以來僅かの日數にて未だ何等の實行の伴はざるは不得止の次第で從て御部を致す材料もありませんのは遺憾であります。

蠶絲業研究の目的

藩志憶

清國江蘇省烏程縣の富豪たる藩氏には夫聚和携へて來朝し且下四ヶ月に在りて專ら蠶絲の研究中であるが氏は他の清國留學生と異なり慶學たる資金と熱心なる目的と外有せざらるものであると謂う編者は氏なる四ヶ月に訪問した乃ち左に記するものは氏が編者の質問に對し答へられたる概要である清國蠶絲業に就て多少の考へを有せざらるの七番に一讀の勞を煩ふ者れ

總督と巡撫

私は天津ではありません、江蘇省の吳縣であります、左樣吳縣は戶數約六萬人口約三十萬位ありまして、江蘇第一の都であります、總督ですか、總督は周馥と申して南京に居ります、南京は總督が居りますから、隨分賑かであります、併し吳縣と比較してみれば小さへものです、吳縣には陳小石と云ふ巡撫が居ります、此總督と巡撫とは對等の資格で何れも同じい權力を以て居ますが、周馥總督の評判の宜いのに引代へ、陳小石巡撫は學問がありませんから評判が惡くあります。

教員と教師

教育でありますか、教育は段々發んになります、吳縣のみでも小學校が十七あります、長州、吳縣、元和の三縣の小學校を設けますれば七十位あります、併し此學校は總督や巡撫の力で出來たのではありません、皆本地の紳士の力で出來たのであります、此外に師範學堂中學堂などもありますが其教師は皆御國の人であります。

製絲場と人物

吳縣には蠶繭絲廠と云ふ製絲場があります、之は明治二十

八年に株式組織で設立しましたのですが、株主は皆支那人であります、尤も教師は創立以來伊太利人を雇ふて置きます、釜數は三百二十釜であります、(工賃の仕拂等に關する流動資本が、年々三十六萬圓づゝ掛りますから、北(鍋)釜盛大に繁盛して居ります、支那は原料も安くあります、人物さへあれば製絲業は儲に利益を見ることが出來ます、そは彼の上海の製絲場が人物のないために段々衰類するのを見ても譯ります。

どーしても人物をつくることが大切であります、養蠶製絲の方には進んで之れが教育を受けやうと云ふ人が多いのです、現に御國には一萬五千人計りも支那留學生が來居ります、其中で蠶業教育を受けて居る者は只今御に多いのであります。

商部と蠶學堂

併し支那政府でも農商部へ輸出して金を取り入るゝのは、茶と生絲でなければならんと云ふ處から之に注意を置くやうになりまして、蠶絲の奬勵としては各省に向て必ず一つ以上の蠶學堂を設立せよと云ふ命令を發しました、其命令を發しましたのは、商部であります、商部と云ふのは御國の農商務と同じい性質のものであります、之は御國の明治三十六年に始めて出來ましたのであります。

陸前國水沢町桑園の桑畑
蠶業試驗所は本縣會議氏に依て明治二十三年蠶業委員を置き明治三十四年に設置せられ今日に及ぶ

さて其命令はありましたけれども此命令に基いて十八省に悉く蠶學堂が出來たかと云へますれば、ナカナカ夫れが出來ないので有ます、ママ夫れが出來ないのは、各省に、各一つゝあります、教師は皆御國から雇入れてあります、けれども河南省の教師丈は浙江省の蠶學堂を卒業した者が勤めて居ります、又之等の蠶學堂の外で南京の農學堂に養蠶部がありまして生徒を養成してあります。

蠶絲業研究の動機

私が此蠶絲業に目的を立てました動機を御聞になるのですか、夫れは斯う云ふ譯けであります、私の宅は吳縣に在りますけれども別莊が光福に在りますので、其處へ屢々行きます

して其附近の農民の養蠶するのを見て居りたのであります。私共の處で其飼育法が舊式であるために、年々年に病蠶が續出になり、遂には滿足に繭が取れないやうなことゝなつて來たものですから、片端から養蠶をやめるやうになつて何んとも仕方のないことになりました。尤も土地は彼の有名な南京米の澤山出來る處でありますから、蠶を養はなくても農民は米さへ作つて居れば宜しいやうなもの、茶と生絲とを大に外國へ輸出せうと云ふ矣先で、病蠶の爲めに腐敗して仕舞ふと云ふことでは、如何にも國の爲めに痛歎のことであると考へまして何んとか病蠶の出ない方法がありさうなものである、其方法を一つ研究して農民に敎へて再び養蠶を盛んにしたいと思つたのが即ち身を蠶業の研究に投ずる動機となつたのであります、而して其考へを起こしましたのは六年以前のことであまして、當時は伊太利から佛蘭西へ行かうと思ひましたが、段々調べてみますと御國の方が伊太利よりも寒さ過して居ると云ふことでありまして、遂に昨年の十月此西ヶ原へ參つた譯けであります、尤も御國へ參つたのは丁度大隈博士の時でありましたからモー四年計りになりまして、西ヶ原へ入學する前には專ら入學の準備をして居りました

目的は蠶業教育

只今では御國の言葉も少しは覺えまして、日々講習所で夫妻共に養蠶製絲の研究をして居ります、私の妻でありますか滯英と云へます、年齢は三十三歳でありまして、私は三十一歳となりました、子供は男子が二人女子が二人都合四人ありまして、長男丈けは吳縣に居て學校へ通つて居ります、私共の學費でありますから、一ヶ月平均百圓づゝ掛ります、御國へ來まして從りまして三十ヶ月餘になりますが約四千圓計り消費しました、今三年も居りまして國へ歸る積りでありますが、歸つた處で敎師にはなりませんし自分で學校を立て蠶業敎育を施し、生徒を養成致します、生徒は無月謝にしますれば、澤山あらうと思つて居りますが、光輝の如きは父の感化が遺つて居りますから、其附近の農民は直に私の云ふことを信用しまして、其改良は容易であります。

吳縣地方の蠶絲業

養蠶は只今の處風穴など云ふことを知りませんから、春蠶と夏蠶との二回遣る計りであります、桑は骨桑でありまして以前は皆立木でありましたものを御國の方法に遵ひまして根刈に改めました、桑取人夫の賃銀は安いものです、一ヶ月二圓位でありますから、一日平均十錢にも當りません、無論食費は人夫の自辨です、併し價が安くありますから何んでもありません、鷄卵一個が五厘内地へ入るに從つて安く一錢に五個位であつて、鷄一羽が高くて二十錢位であります、斯う云ふ次第であるから賃銀も安いことゝなります、此安い勞力を利用して養蠶をしますれば、利益のあることは云ふ迄もございません年併飼育法を知らずして只神さんに祈りを掛けて繭を取らうとして居りますから、病蠶計りこさへて當然取るべき利益を空しく棄てゝ仕舞ふやうのことゝなるのであります、而して其繭は十粒も十五粒もくつけて「ダニール」に

繭はずの太い絲にしたものですが、吳縣に製絲場が出來まして からは絲に繰らずに其繭を賣るやうになりました、斯う云ふ育樣であるから養蠶の改良は大に致さなければならんことて、私は祖國の爲めに其の改良に向て邁進する考へで居ります。

伊太利の生絲狀勢

元樣讓市ロ九十雷の鈴市で最近九十三雷の絲方であつた在美國の「ナヤヨンニー」氏から龍水商店へ寄られた通信は世界の生絲の大勢を覗ふことが出來るとて登載御座に原文の儘左の通りに書いておりました。

伊太利の國のカイコリコンネン、アヌヤマシヌ、ソレアモネダンハコクアカヌマシタ、シナモノヘキト（小しもの意）ソコヲマモン、ヒカイハ、ヒイト、カクヒトボ、ボンアエマス（ありますの意）カラ、ジチヌハハ、ヨラヂイタリイデス

講筵

製絲のことゝも

通常會員　金厚つた

第五、添緒につきて

添緒は製絲の技術上尤も妙技に達せねばならぬ事でありまして、若し此方法にして拙劣でありますれば、たびたびこれを投げ附けねばなりませんから、時間を費すのみならず其間に遂に緻度の均一を欠く事になり、又ッケツケンを大ならしめて、生絲の品位を劣らしむるものであります、故に能く其方法を會得して而して充分の習練をなし、以て妙技に達せねばなりません、此方法も種々ありますが、世間一般に多く行はるゝのは「キヅケ」と「ナヂッケ」の二法であります其内最も良好なるは「キヅケ」と稱ふる方法であります、今

「マキヅケ」の方法につき大略を記しますれば、先づ右指に添足すべき繭をつまみ之を繰られつゝある繭の側に投げ出すと同時に其絲緒は左手の食指にてひかへ、而して右手の食指頭と左手の食指の外部に接近せしめて、緒絲を押へまして其儘指頭をしてツロリと食指頭の横腹部より腹部にまわらしめ、其腹部と母指の腹部との間を通りぬけると同時に左手の食指の腹と母指の腹とにて、右指の先端にかゝりある緒絲を押へ、而して左手の両指頭に少しく力を入る時は右手食指の先端に絲緒が壓せられて切断せらるゝと同時に其絲端を右手食指頭の先端にのせて、其指を仰向になし、集緒器の下部絲縷の集りある處へ、絲端を投入して以て添緒するのであります、其際絲端の切り方長き時は大なる「ツケブシ」を生じますから、先づ五分位より長くせざる心持にて之をなさねばなりませぬ。

島根縣鹿足郡青野山風穴

第六、断緒器につきて

断緒とは生絲の纖度を均一にせねばならぬと云ふ必要より太き絲縷一本を添へ足して細きもの一本をもぎ取るとか、又は細き絲縷一本を添へ足して、太きもの一本をもぎ取るとか何れにしても兎に角繰絲せられつゝある絲縷を切り断つ事を云ふのであります、又繭の層が崩れて顆の上らんとする場合或は薄皮になりて、今やもつれ上らんとする場合等にも之をもぎ取らねばならぬ事があります、此際に於て絲緒を切断する方法が拙劣でありましたならば、生絲に大なる顆節を生じ且又絲の強伸力を減じますから、よく／＼注意せねばなりません、今其方法に就て述べますれば繰られつゝある絲縷を右手の食指の横にのせて集緒の直下の部分に於て食指と母指との間にて之を切り取るのであります、若し此際集緒器に遠ざかりて切断するか、又は無理に引き張りて切断するが如き事ある時は其切断せんとする絲縷が緊張しますから、其他の絲縷に緩みを生じ「ビリブシ」を生じます又其切断せられたる糸縷ははね上りて本條に卷き附き大なる顆節を生じますから能く／＼注意し、且つ巧妙の技に達せねばなりません。

第七、集緒器につきて

集緒器とは繭の纖維を合せて一條の生絲となすに、之を集むる部分でありまして、通常「フシコキ」と稱へて居ります之を取り附ける位置は生絲纖度の細太又は繭の大小によりて

其高さを異にしなければなりません、即ち細絲なれば湯面より約二寸五分位とし太絲なれば三寸位として宜しい、若し此適度より高過ぎた場合には添緒の際絲の切り口が甘くからまりませんから、「ツケブシ」の大なるものを生じます、又低きに失しますれば添緒が困難となりまして、繰絲時間を永く費し且つ纖度を不齊ならしむるのであります、故に此位置は繭の大小と纖度の細太に鑑み、高からず低からず、適當の位置に置く事が肝要であります、尚集緒器の効用につきて其要點を述べますれば左の通りであります。

一、纏絲の水分を取り除くこと、

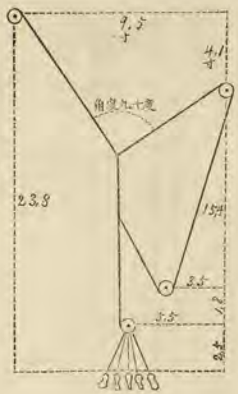
二、絲縷の抱合を良くすること、

三、顆節を少くすること。

集緒器は前記第二及第三の効用によりて、精良なる生絲を製造するには實に欠くべからざるものであります。

第八、繳掛装置につきて

繰絲の際各繭より紡ぎ出さるゝ絲縷、數本を合せて一本の生絲となすには、是非共繳掛の装置を備へて絲縷の抱合を計らねばなりません、此方法には「トモヨリ」と「ケンネル」の二種ありますけれ共、「トモヨリ」は未だ其利害につきて深く調べた事もありませぬ、又經驗もありませぬから、爰には「ケンネル」の方法につきて申上げます、「ケンネル」は一筋の絲にて繳を掛くる装置でありまして、其各部の寸法が大切であります、若し之が適當でなかつたならば、適當の繳數を施す事が出來ない計りでなく、絲の順路によりて生ずる角度が急になり過ぎて爲めに絲を切斷させますから、其適度は左の圖の如くになし、繳數を凡三百位即ち七八寸の長さにかけねばなりません。



第九、繰枠の回轉につきて

繰枠の回轉の早さと遅さとは、生絲の色澤及強伸力等に關係を及ぼす斗りでなく、繰絲中解舒の良否、切斷の多少に關係しますから、其適度を得なければなりません、最も回轉の多少は生絲纖度の細太と繭の解舒の良否によりて斟酌せねばなりませんけれ共、通常周圍二尺位の小枠でありますれば、凡一分間に凡三百回位が適當であります、而して纖度の細き絲を繰る際幷に解舒の悪しき繭を繰る時には回轉を少しく緩かにし、之に反する時は少しく急にしても差支ありせ

ん。

以上は絲絲上につきて心づきたるくさ〳〵を、ホンの大略に申上げた次第でありますから、充分に御分り難いふしもありましやうと存じますけれ共、他日又稿を改めて御話し致す事とし、今回は是にて切上げと致します、誠につまらぬ事を申上げて失禮致しましたが、何卒御容赦を願ひます。

（大尾）

獣肉の鑑定

アヽ嘶い〳〵サー肉でも一つ頂きたうございませんかと肉食の盛んに行はるゝ折柄肉の話をするのも滿更無用であるまい處で肉と云つても鳥肉もあれば獣肉もあり、併し單に肉といへば先づ獣肉のことになりと云て差いて、其鑑定法の講釋をしてみれば斯うである。甫順で肉を煮して其肉に彈力性があつて、惣て跡の消ゆるものならば其肉である其色が淡色の滑潤なのは幼肉であつて暗色であるのは老肉である、腐敗した肉は灰白色を帶びて彈力性が無く粘着性を帶びて一種不快の臭氣を放つもの　ある

桑樹の栽植其他に就ての質問

長野縣　通常會員　塚本清一郎

（一）中等の土質に桑を植ゆるには、ドノ位の巨離に植えたが良いでせう、根刈と高刈とに就て教ひて下さい。

（二）豆粕を肥料として施すには何れの時季でも宜しいでせうか。

（三）上簇室は光線を導くの必要がありませうか、光線がなくとも、空氣の流通が宜しければ、差支ありませぬか。

（四）蠶糞を溜へ入れて、適度に水を混じ雨水の入らざるやうに蓋をしたならば良いでせうか、雨水が這入つてもまた差支のないものでせうか。

答　學藝委員　土屋泰

（一）根刈仕立であれば畦間四尺五寸乃至五尺、株間三尺乃至三尺五寸、即ち一反歩に付、八百株乃至六百十七株が適當である、又三尺以上五尺位の高刈仕立であれば、畦間六尺乃至七尺、株間五尺乃至六尺、即ち一反歩に付三百六十株乃至二百五十七株が適當である、蠶木仕立であれば畦間十尺、株間八尺、即ち一反歩百三十五株位とするとよいである。

（二）豆粕は他の肥料と同じく春季發芽前及刈取後直ちに施して宜しい。

（三）空氣の流通充分なれば、特に光線を入るゝの必要はないであらう。

（四）蠶糞を溜に入れて溶解腐醇せしむるには北向に屋根を搆へ雨水と日光とを防ぐを良とする。

實生魯桑の病害に就ての質問

岩手縣　通常會員　佐伯源八郎

私の實生魯桑遂成桑園は、一昨秋の新墾地であつて昨春栽植したる高畝（畑地である、然るに本年秋季に入りて葉の裏面に白流の點々（發生したるを見たのですが、日を逐ふて漫延すると同時に黄粉を發ひ、葉の表面に赤黄綠色を呈するに至つた、右は本誌第百六十一號所載小林新一氏の秋蠶の專用桑に就て云ふのに說明するものではあるまいか、病名・病原・防法・詳細・御解說を願ひます。

但實物三葉送附します。

答　農學藝委員　理學士　堀正太郎

尺五寸、即ち一反歩に付、八百株乃至六百十七株が適當である、又三尺以上五尺位の高刈仕立であれば、畦間六尺乃至七尺、株間五尺乃至六尺、即ち一反歩に付三百六十株乃至二百五十七株が適當である、蠶木仕立であれば畦間十尺、株間八尺、即ち一反歩百三十五株位とするとよいである。

（二）豆粕は他の肥料と同じく春季發芽前及刈取後直ちに施して宜しい。

（三）空氣の流通充分なれば、特に光線を入るゝの必要はないであらう。

（四）蠶糞を溜に入れて溶解腐醇せしむるには北向に屋根を搆へ雨水と日光とを防ぐを良とする。

實生魯桑の病害に就ての質問

岩手縣　通常會員　佐伯源八郎

私の實生魯桑遂成桑園は、一昨秋の新墾地であつて昨春栽植したる高畝（畑地である、然るに本年秋季に入りて葉の裏面に白流の點々（發生したるを見たのですが、日を逐ふて漫延すると同時に黄粉を發ひ、葉の表面に赤黄綠色を呈するに至つた、右は本誌第百六十一號所載小林新一氏の秋蠶の專用桑に就て云ふのに說明するものではあるまいか、病名・病原・防法・詳細・御解說を願ひます。

但實物三葉送附します。

答　農學藝委員　理學士　堀正太郎

質問の病害は裏白流病と稱するもので、秋季落葉期に近ければ到る處の桑園に其發生を見ざるはなく、特に降雨頻繁なるときは一層發生の多いものである。

室素質肥料の施用多きに過ぐれば、發病し易いのである。

蠶病菌に就ての質問

靜岡縣　通常委員　渡邊仁助

微粒子病・黴菌・軟化病菌及硬化病菌の生活力は、寒暖乾濕に依つて差のあるものとは思考しますけれども、通常蠶室・蠶具に附着せるものは、何年位繁殖力を有するものでせう。

答　學藝委員　農學士　石渡繁胤

微粒子の二ヶ年を經過せしものを試驗せるに傳染したとのある之より以上は未だ試驗をせぬから不明である細菌に就ては各種の試驗がないけれども卒倒菌は七ヶ年經過のものも能く其生活力を有して居つた白彊病菌胞子は二ヶ年を經過するものも傳染力を失はない。

貯桑と饐蠶とに就ての質問

千葉縣　通常會員　奥村藤吉

貯桑場は土室で、深さ五尺位堀下げた所ですが、ソコへ五日間貯桑して取出したるに外見更に變りないやうに見いたか

ら、四化蠶三眠起の桑附及第二回の給桑をなし、第三回目には摘立の桑葉を給與せしに、更に食欲がなく給桑の際には網上に壹部の蠶見中四五十頭位しか上らずして他は皆斃蠶となり、三十時間位の内に全部斃死して仕舞ひしが、右は貯桑の實でしせうか、他に原因があるでしやうか。

答　學藝委員　農學士　林驛作

質問の如く、急激に蠶兒を斃すのは、恐く笹倒病菌と云ふ病氣に襲つたのであらう、果して然れば是れは笹倒病菌と云ふ「バクテリア」の爲めに起るのである、併し其れが何處から傳染して來たかは判からない、思ふに土室の内に五日間貯へた桑に給與したのは誤りであつたのであろう、其桑葉が柔軟で水分を多く含んで居れば貯藏中に害せられ、直接間接に病の原因となるものである。

斃死せる蛆蛹に就ての質問

鳥取縣　通常會員　岡山豐次郎

吾地方の床下に蟻伏せる蛆蛹を視るに家に依り全部見本の如く、蛹の外白粉を以て被はれ硬化斃死したるものがあり、而して之等は主も床下の乾燥せる鬆沙土に斃死したものである、之は蠶見の白僵病に於けるが如く、白粉を生ずる微菌の爲めに死したものでせうか、勢過乾のために斃死し爾後微菌の寄生により白色を呈したものでせうか、佐々木博士の御明教を乞ふ。

答　學藝委員　理學博士　佐々木忠次郎

蛆の蛹に白粉を生じたるは、微菌に相違なるも、未だ果して蛹を斃死せしめる病原菌なるや否やは調査したことがない、從來銀の蛹を養蠶箱に入れたる土の中に飼育するに往々白粉即白菌を生じて斃死したものを見ることがある而して特に右白粉を生ずるは、土の乾きたる時に多き樣に見受くるから、余は蛹は乾燥の爲に死し其死したる後に發生する菌であらうと信ずる、若し右にて誤りなからんには病原菌と見做すことが出來ない。

諏訪製絲の好況

中央東線全通の結果運賃の差額にても多大の利益を收めたる信州諏訪地方の製絲家は本年國の保護宜しき爲め昨年に比し約五割の増絲を見るべく隨て本年の利益は優に三萬三千圓を出すべしと云ふことである。

絲況

横濱市場

十一月中に於ける横濱生絲市場の光景は、歐米に於ける生絲需要の旺盛に伴ひ、彌が上にも順潮となりて、頗る活潑の賣行を呈したり、即ち全月中の手合一萬三千百三十九個、賣了二萬二千百八十五個半に達し、之れを昨年の同期に比すれば手合に六千九百〇十五個、賣了に一萬千〇六十五個を増し價格の知きも又た時に高低なきにあらざるも結局月末に及んで細筋十中一千二百三十四、麈繰上一番一千二百十五圓、器械太上一番一千九十五圓、折返一頭馬一千四十五圓ム三十二年以來の珍重を顧はしたり、斯くて市場の好調は内地織物用生絲は續々横濱に向ふの趨勢となり、新絲以來の入荷數十二萬個以上の多きを算し、而かも賣行の迅速なる、在荷は常に拂底し、今や支那滿さへ輸入して製絲せられんとするが如き狀態にして實に未曾有の現象なりと言はざるべからず、而して附屬品たる屑絲の知きも、歐洲紡績業者の買收に依り、近年稀有の大賣行を爲し、又羽二重の知きも歐米よりの注文頻繁なるのみならず、印度蘭貢方面へ輸出せらるゝものの頗る多ければ、之に要する原料の増加すべきは自然の理にして、產地に於ける所が原料生絲の在荷は潤渇の一方なりとあれば早晩其供給を横濱市場に仰ぐに至るべし、隨て近ち將來に同市は種々なる方面よりの買ひ注文入り重り、或は品攻めの厄に遭遇せんもまた知るべからざるものあり、更に角我生絲貿易史上空前の大活況を呈して、一月以降の總輸出額一億圓を超え、福運市場に充つるに至つては、爾後第一年の祥事として滿腔の祝意を表せざるを得ず。

然れども順ふに此原因たるや屢々述べたる如く、米國農作物の豐穰と、銀價の騰貴により支那生絲の輸出の杜絶せるとに依りて、偶然の利勢能く我生絲の輸出を好況ならしめたるものなりとは思ふべからざるの事實なれば、今後も永く此天惠に據り得るものなりとは思ふべからず、若夫れ此天惠に據らずして永く此好況を持續せしめんと欲せば、一に只其價格を低廉にするの外あるべからず、而して其價格を低廉にせんには、單に營業者の勉練と勞銀の低廉とをのみ恃むべからず、所謂製絲資金の潤澤を圖りて低利の資金を運用し、慎重に製絲經濟の妙を盡して以て競爭場裡に立つの備ひあるを要す、滿俄の春風を孕んで洋々たる海を航するが如き順境に立ちて、崎坂に車を押すが如き逆境の存することを忘れず、勝て兜兜の緒を緊め、豫じめ前途の警戒を爲す處あらんを望む。

而して本月中に於て最も高價に賣行きたるは靜岡縣横須賀祉太の一千二百三十圓にして最も低價なりしは福島縣共同三馬折返の一千〇四十圓なりとす今一月以來の最高價と前年の夫れと對照すれば左の知し。

生絲最高價月別前年對照表

	明治三十九年			明治三十八年			價格之差
一月	愛媛縣	河野製絲太	一、〇九〇圓	愛媛縣 島根縣	三河製絲太 雙水社響	一、〇五〇圓	四一圓
二月	神奈川縣	兄弟社細	一、〇九〇	島根縣	東雲館太	一、〇一〇	八〇
三月	京都府 山梨縣	郡是製絲太 風間社鋼込	一、一二〇	山梨縣	矢島組太	九八〇	一四〇
四月	山梨縣 埼玉縣	風間製絲太 埼玉製絲太	一、一二〇	三重縣	度會製絲太	九九〇	一三〇
五月	愛知縣	國寶社細	一、〇八〇	埼玉縣	埼玉製絲太	一、〇一〇	七〇
六月	愛知縣	國寶社新細	一、一〇〇	靜岡縣	宮野製絲新細	一、〇二〇	八〇
七月	愛知縣 埼玉縣	國寶社細 前稲製絲細	一、〇八〇 一、〇八〇	山梨縣	草澤社太	一、〇五五	二五
八月	山梨縣	矢島組太	一、〇九七半	愛知縣	三榮社細	一、一〇〇	二五〇
九月	靜岡縣	川澤生絲細 城南社細	一、一一五	山梨縣	矢島組太	一、一三〇	一五
十月	山梨縣	矢島組金太	一、一五〇	神奈川縣	兄弟社太	一、〇八〇	七〇
十一月	靜岡縣	横須賀社太	一、二三〇	神奈川縣	兄弟社	一、〇八〇	一五〇

	持越	入荷	賣了	地方積戻	總越
器械	九、八〇六俵	一九、八四二俵	一七、〇〇二(?)俵	八四三俵	一一、八〇一俵
座繰	三、七〇二	四、一三一	三、四五一半	一七三	四、二〇九半
折返	一、九八〇	九四八	一、七三一	一〇三	一、〇九四
雜絲	一八〇	七七	—	六一	一九六
合計	一五、六六八	二四、九九八半	二二、一八五半	一、一八〇	一七、三〇〇半

備考

一、表中單位俵は九貫目を指す

二、持越とは客月より本月に持越したるものにして本月一日の調査總越とは本月より翌月に總越すべきものにして本月末日の調査に係る

三、前月分の總越と本月分の持越と其數一致せざるは商談中のものありしに依る

四、總越以外に商談中のものありと知るべし

五、賣了中米國に輸出せるものは九千八百六十九俵にして歐洲に輸出せるものは三千九百六十五俵なりとす

但一俵は拾六貫目なり

今左に本月中の生絲集散種別表を掲げて參考となさん

明治三十九年十一月自一日至三十一日生絲集散表

尚左に生絲集散日別表を示すべし

明治三十九年十一月自一日至三十一日生絲集散日別表

（器械太 +　同中 ×　同細 ○　座繰 △　折返 □）

日次	入荷	手合	賣了	引戻	輸出	地方積戻	國名	社名	種別	最高價直	最低價直	摘要
一日	一、一一一俵	七八七半俵	九七九半俵	—俵	—俵	四七俵	但馬 岩代	但馬共同社 共同二馬	○ +	一、一二五	一、〇四五	引續き相應に手合出來適品五圓高を示したり
二日	七七三	三二六	六三六	四三	七一七	一三一半	駿河 岩代	保土澤製糸 共同一馬	○ ×	一、一三〇	一、〇六〇	競馬會へ東宮殿下御臨場午後各館休業の向あり新規手合多からざるも又々五圓高なりし
三日		—	—	—	九二六	—	—	—	—	—	—	大祭日
四日	二、六六七（四日・五日）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	日曜日
五日		一、〇六三	一、四〇四半	五六	—	二一四半（五日・六日）	相州 岩代	川口製糸 共同姫路	○ +	一、一五〇	一、〇七五	相場休日前に比し二三十圓方高直に手合出來細絲物抄々しき商談なく漸く十圓方高直を示したり
六日	一、〇二五半	八七八半	一、七〇四	—	一三一		上州 岩代	甘樂社揚手 共長二号	× +	一、一五五	一、〇五五	總て氣配あらく太絲標準物は遂に又々十五圓高を示したり
七日	四六一	三三四	一、四七八	四〇	—		甲州 岩代	矢島一組 共同長銀	□ +	一、一七〇	一、〇八〇	氣配依然堅固にして十圓高の成行を以て先々襲先口へ取引あり
八日	八六一	—	一、三七七半	—	—	八五	上州 岩代	碓氷社五人組 共同姫タルヘ	× +	一、一八〇	一、〇九〇	本國へ照會中の返電達せざる爲めか諸館共捗々しき商談なく見送り姿なりし
九日	一、〇七三	一三一	四二七	一〇	三、二二二	一〇一	甲州 信州	昇進館 信社	□ □	一、一八〇	一、一一〇	歐米とも郵船の積切なると一體見送りにて休日の模様なりし
十日	七三二	一〇	三九七	—	—	二二	武州 全	富國館 鶴見川立館	□ ×	一、一七〇	一、〇八五	引續き靜穩にて加へて競馬會なると土曜等の爲め僅たる商談なし
十一日		—	—	—	—	—			—	—	—	日曜日
十二日	一、八四一（十一日・十二日）	二一五	一、一四五	七六	—	一七	甲州 岩代	矢島組金 共同三戸	□ +	一、二二〇	一、一四〇	座繰及折返しの外然たる商談なく休日前に比し十圓方安直の成行なりし
十三日	八五七	五〇	七八六	五六	—	二八	信州 武州	泉行社 荒谷製絲	□ □	一、一六〇	一、一二〇	太絲一物直段により多少買氣あり相場信州上一番格千百二十圓見當なりし
十四日	五八六半	七六六	七五三	三四	一、一八一	—	上州 三河	甘樂社字 吉太赤館	× □	一、一八〇	一、一一五	新規注文達したる向ありて關三商館へ手合出來相場五七圓方高直を告け氣配引締りたり
十五日	八六一	一、五六六	一、〇四六	一七二	—	四〇	近江 信州	本庄製絲 東行社館	□ ○	一、一六〇	一、〇四〇	晶に依り同直或は十圓高二三十圓高を告け意外の括動を來し中には見送り向もありしかも結局相應取組を見たり
十六日	七三一	二、二三三	六四二	二〇	—	一二半	甲州 信州	矢島製絲 入〇製銀	□ └	一、一八〇	一、一二五	太絲及細絲とも引続き新規注文達し多數實ると見へ乾して一二十圓方高直
十七日	七一三半	二三六	五四七	一二	一、二八八	三九半	甲州 岩代	廣盛 共同二馬社	□ +	一、二二〇	一、〇七五	行きたりとも返電待ちの爲めか成行靜かにて諸館とも相場變りなく保合

十八日		—	—	—	—	—				—	日曜日
十九日	一、五五七	一六一	六一二	一一	—	九七	豊後 信州	南豊館 信光館	□□	一、二〇〇 一、一二〇	未た入電跡せざる姿にて各館とも新規手合皆無なりし
二十日	五九一	一〇九	一、〇三〇半	—	一七	五〇	信州 岩代	俊明社金 共同三馬	+○	一、一八〇 一、〇六五	捗々しき注文跡せずと見へ本日も少數の手合出來せしのみ
廿一日	八〇一	八一	一、二六五	三七	—	一九	上州 岩代	碓氷社羽子板 共同二馬	+×	一、一九〇 一、〇八五	前日同樣格別變りなし
廿二日	一、一六六半	一、一二〇	七五一半	一三	—	二五	駿河 岩代	駿陽社 共同姫鶴摩	+□	一、一九〇 一、一一〇	米向の品新注文跡したる向あり生絲會社三井物產會社へ商出來し最近の出來直よりは十圓方高直なりし
廿三日	六七三半	—	—	—	二、一三二	—				—	大祭日
廿四日	一、二八一	八九六	六三三	三〇	—	五五	上州 武州	甘樂社手 開林掘館	□×	一、二一〇 一、一二五	引續き閑三館へ商ひ出來し相場は更に十圓方高直なりし
廿五日		—	—	—	—	—				—	日曜日
廿六日	一、六二三半	五九六	一、二一六	六四	—	—	信州 駿河	東行社 岩本製絲	)□	一、二〇〇 一、一七〇	休日前同樣先づ保合の成行なりし
廿七日	八五九半	二五九	一、一三二半	六六	—	二三	上州 近江	下仁太社一橋 海井製絲	□<	一、二二〇 一、一五〇	捗々しき注文の見へざる爲めか一般に落付相場は變りなし
廿八日	六九四半	二六六	七八七	三一	—	四九	信州 近江	白鶴社隆 本庄製絲	□□	一、一九〇 一、一六〇	前日同樣變りなく座繰の外目星しき商ひ出來せざりし
廿九日	八七〇半	七六七	七八〇	—	一、九一二	四五	上州 下總	碓氷社五人娘 細江製絲	□<	一、二二〇 一、一八〇	少しは新規注文跡したる向ありて三井物產其他へ商ひ出來し相場手堅く保合
三十日	五八六	二八八	六五五	一五五	一、二一八	七九	遠州 武州	横須賀社 鶴見川社立鶴	×□	一、二三〇 一、一六五	返信得たる向にて弗々適當品に商談あり買氣多からざれど賣氣は手堅く保合
合計	二四、九九八	一三、一三九	二二、一八五半	九二六	一、八三四	一、一八〇					

尚左に本年一月以來の生絲集散の狀況を明らかならしめん爲め月別表を示すべし

生絲集散前年對照表

年月日	持越	入荷	賣了	積戻	繰越	輸出數量	輸出價額
三十九年一月	三四、九五五斤	七、六一二斤	一四、六二六半斤	一、二一二斤	二六、七二七斤	七九一、〇一二斤	七、八〇三、〇二〇圓
三十九年二月	二八、二二四半	二、九六三	一四、七五四	二、一〇七	一三、七〇一半	七五〇、六二二	七、三四三、七三七
三十九年三月	一三、七〇一	五、四九五	九、五八三半	一、九〇一半	七、七一一半	七九五、七八七	八、二九四、九〇三
三十九年四月	六、四一五	七、一六三	四、三九六半	六九四半	八、四八七	三七一、四三七	三、七〇八、八六七
三十九年五月	七、〇九二	五、〇六四	七、二一一半	一、五三五半	三、四〇九	四四四、八五五	四、五三四、五八七
三十九年六月	二、六九八	五、六〇五半	二、八〇一半	一、〇九一半	四、四一一	二一〇、八三六	二、一九〇、七一四
三十九年七月	三、八八六	一九、五一八半	一三、一三九半	五七六	九、六八九	六六四、〇二五	六、八一七、〇六二
三十九年八月	九、五〇四半	二五、〇二二	二〇、[illegible]六六半	三四六	一四、一一三半	一、一八六、八九六	一二、三三六、四四六
三十九年九月	一五、七五九	一九、四五三	一八、一一九半	二六五	一六、八二七	九九八、三三五	一〇、四三二、六六六
三十九年十月	一九、九二〇	二七、〇六六半	三一、五五七半	八五六	一四、五七三	一、八一六、六九四	一九、四一七、七七三
三十九年十一月		二四、九九八	二二、一八五半	一、一八〇	一七、三〇〇	一、二九六、〇六七	一四、七五四、六七一
計	—	一四一、九六〇半	一五八、四四一半	一〇七、〇二五	—	九、三二六、五六六	九七、六三四、四三六
三十八年同上	—	一三三、三五七半	一〇五、九四八半	九、〇六三	—	五、九九三、四一八	八一、一九九、六一四

里昂市場（九月廿二日發）

前報後當地市場に顯はれたる市況の一班は横濱市相場一時は稍低落に傾きしが其後大注文歐米兩地方より彼の市場に入込し爲に、市價は更に景氣を挽回し、底堅く引締れりと、日本の生絲市場の變動は右の如くなりしも、今週當地市場に於る歐州生絲に對しては左迄の影響を與へざりき、伊太里生絲は今週は取引稍不振を示せしも、相場は差して變りなし、同國の製絲家は多少の製絲注文を手に握れるより、市場の賣行は活潑なるにも拘らず持久し得る有樣にして佛國生絲は是又手合不活潑なり。

叙里及「ブルシヤ」の產絲は買人多數現はれ相場も手堅き底意を示せり。

又同地駐在山口領事よりの電報左の如し。

生絲市況は稍緩みたるも依然高調にして在荷手薄く相場頗る堅固なり（十一月十七日發電）

紐育市場

紐育に於ける生絲市況に付、在同地總領事館事務代理領事官補永井氏よりの電報左の如し

生絲市況は横濱相場低落の爲め稍沈靜器械一番四弗五十五仙より六十仙見當迄下落（十一月十四日發電）

（參照）前信九日發電は器械一番四弗七十二三仙とありたり

生絲市況稍や沈靜横濱強氣の爲め高直見揃りの爲器械一番四弗七十五仙より八十仙（十一月廿一日發電）

生絲市況沈靜本日器械一番四弗九十仙內外（十一月廿七日發電）

生絲商況靜にして氣配稍し先物注文弗々本日器械一番四弗九十仙より九十七仙（十二月四日發電）

上海市場

拼絲况爲換相場下落の爲め引續沈靜にて、僅かに需物に於て當用口の買物あるに過ぎず、從て相場も幾分下押しの氣味なりし、其の取引相場左の如し

嘉興綠絲、桃花印一番四百八十兩同二番四百六十兩

無錫單繰五百十七兩五匁、双蝶一番四百九十七兩五匁二番四百七十七兩五匁

交龍一番五百十七兩五匁二番四百九十七兩五匁三番四百七十七兩五匁

黃絲にありては緒州三百七十兩緒陽一番三百七十兩二番三百五十兩位

七里絲是れも幾分下押し直にて取引は上等のみ僅なり相場は、

ＳＳＳＳ小水牛一番六百二十五兩ＳＳＳ一番六百十五兩安徽印一番六百〇五兩

繭

機械絲は多少の取引引續き行はるゝも、目下現物皆無なり、是れ收支償はさるの結果、一般工場休業の姿なればなり。

昨年度今日迄の出來高は三萬二千七百俵なりしも、本年度今日迄の出來高は僅か一萬七千俵位なり。

ブラツクウエル

無智不正なる者が惡を爲すよりも教育あつて正直なる者が何も爲さゞるは尙ほ惡し

外報

千九百五年度の伊太利産繭額

美蘭の生絲協會は其會報を以て、伊太利に於ける千九百五年間收繭額に關する統計表を發表せり。

同年度に於ける收繭額は三千八百九十五萬七千基にして其前年度は四千二百七十四萬三千基にてありし、之れを地方別にせば不作の分量は各々之れを異にするも前年度に比して小額なりしことは各地方を通じて同一なり但し「マルシユ」及「オムブリー」のみは之れが例外なり乞ふ左表を見ゆ。

但表は千基單位なり

地方名	一九〇一年	一九〇二年	一九〇三年	一九〇四年	一九〇五年
ピエモン	六、八四二	七、一六七	四、〇四八	七、五〇〇	六、四五〇
ロンバルヂー	一五、五三九	一六、四二三	一四、三五五	一六、〇〇〇	一四、三〇〇
ヴエネシー	三、三一五	八、五二三	六、二六〇	九、〇〇〇	八、三二〇
リギユリー	二〇〇	二一五	一八〇	二二〇	二一〇
エミリー	二、八二五	三、〇二三	三、三八二	三、四〇〇	三、〇八〇
マルミエ及オムブリー	二、四二〇	二、六四六	二、八三六	二、七〇〇	二、八一五
トスカーヌ	一、七七八	一、六〇一	九六〇	一、五〇〇	一、四六〇
ラチウム	一一〇	一二〇	一五〇	一五〇	一六〇
南部各地即アブリアナツタ	一五〇	一五五	一七〇	一八〇	一七〇
地中海地方	一、八四〇	一、七五〇	一、五二三	一、七九〇	一、七一〇
シシール	三〇〇	三一〇	三〇〇	三〇〇	二八〇
サルデーニユ	二	三	三	三	二
合計	四〇、三三〇	四一、九三五	三四、一六七	四二、七四三	三八、九五七

千九百五年度の減收は全く天候の不順に原因せり、何となれば同年度に於ける掃立數は之れを前年度に比して寧ろ多量なればなり、即ち之を具體的に言明ぜば千九百五年度の掃立數は百十一萬「オンス」にして、其前年は百〇五萬五千「オンス」に過ぎざりき、而て平均產繭額の如きも千九百四年度に於ては繭一「オンス」に付四〇基七〇なりしが、千九百五年度に於ては三七基〇九に減少せり。

天候の不順は啻に其害を產繭額に與へたるのみならず、繭質にも亦之れを及ぼしたり、隨て製絲の結果も亦前年に比して著しく不良なりし、即ち前年度の製絲額三百七十萬六千基に對し千九百五年度は三百三十三萬基に過ぎざりし、但し製種用として使用すべき繭は此の内に算入せず、尙ほ之を繭種別に細別するときは左の如し。

純粹黃繭絲	七一三、〇〇〇基
掛合黃繭絲	二、五五七、〇〇〇基
掛合綠繭絲	六〇、〇〇〇基
合計	三、三三〇、〇〇〇基

然れども前數年間の統計に依て、尙ほ細密に精算するときは、最近三年間に於ける伊太利の收穫は左表の如くなるべし。

年次	繭	生絲
一九〇五	五一、九四〇、〇〇〇基	四、四四〇、〇〇〇
一九〇四	五六、七六〇、〇〇〇	四、九〇〇、〇〇〇
一九〇三	四四、一〇〇、〇〇〇	三、五二六、〇〇〇

外國より輸入したる繭を以て伊太利に於て製絲したる生絲を加ふるときは、千九百五年度の生絲は五百六十六萬基にして、千九百四年度は五百六十七萬五千基に達すべし、即ち外國より輸入したる一萬五千基内外の繭は、伊太利の不作を補ふに足れり。

尙ほ更に數年以前に遡て調査するに、伊太利に輸入する外國繭は伊太利に於て產出する繭と共に增進せり、左表は之を證明するものなり。

年次	伊太利產出 繭（千）	伊太利產出 生絲（基）	伊太利製絲撚產出（基位）
一八八九	四六、〇〇〇	三、〇三三、六	四、一七五
一八九〇	五四、〇〇〇	四、五五九、八	四、七二五
一八九一	五一、〇〇〇	四、二一七、七	四、三八〇
一八九二	四五、〇〇〇	三、八五九、〇	四、〇七〇
一八九三	六一、〇〇〇	五、一三〇、八	五、四三〇
一八九四	五八、〇〇〇	四、六六一、九	五、〇七〇
一八九五	五六、〇〇〇	四、二六九、八	五、一〇五
一八九六	五五、〇〇〇	四、一一七、四	四、九六〇
一八九七	四九、〇〇〇	三、八九〇、五	四、四〇〇
一八九八	五三、〇〇〇	四、〇〇三、二	四、七三五
一八九九	五六、〇〇〇	四、五二八、五	五、一〇〇
一九〇〇	五七、〇〇〇	四、五三五、八	五、一四〇
一九〇一	五三、五〇〇	四、二九〇、〇	五、〇六〇
一九〇二	五六、〇〇〇	四、四七七、〇	五、四四〇

										四、五三五	
										五、六七五	
										五、六六〇	
一九〇三									三、五二六、〇		
一九〇四									四、九〇〇、〇		
一九〇五									四、四四〇、〇		
				四、四一〇〇							
				五六、七六〇							
				五一、九四〇							

伊太利製絲場に於て外國繭より得たる生絲は、千九百四年度の七十七萬五千基に對し、千九百五年度は百二十二萬二千基に達したり。

千九百六年佛國產繭額概算

里昂生絲商組合は佛國七百四十八市場に於ける千九百六年度の繭の總收獲額を左表の通り概算せり。

縣名	市場數	一九〇五年度	一九〇六年度	一九〇六年度と一九〇五年度との比較
ガール	一八二	一、四〇六、九三九	一、三五〇、二六三	減 一、一二三
アルデーシュ	一三一	一、三八五、四四五	一、二七九、五四八	減 七、八五
ドローム	一三四	八五八、八九六	八四〇、三九四	減 二、一五
ヴォクリューズ	九一	七七一、七八八	七四九、〇一四	減 二、九五
ブーシュ、ド、ロース	四〇	一九七、一九七	一八五、四五四	減 五、九五
ザ、アル	四七	二六一、九二九	二六九、五一七	減 八、五五
イゼール	八〇	一八四、六三六	一九一、〇六三	增 三、四八
エロー	四二	一一四、三三六	一一五、七一八	增 一、二〇
合計	七四八	五、一八一、一六六	四、八四七、九七一	減 六、四三

此の百に對する六、四三の比例を、千九百五年度全體の收獲（八百萬九千百五十八基）に適用するときは、千九百六年度の收獲は七百五十萬（總數を切り捨て）基となるべし。

亞耳然丁共和國の蠶業

亞耳然丁共和國の蠶業は、數年以前よりも顧る注目すべき進歩を來したり。同國サンタ、フェー縣の如きには目下約五百萬本の桑樹を有する由聞がある。同縣では今を距る二十年乃至五年の間に桑樹二十萬本以上を有し、數年ならずして年々二十萬基の繭を產出するに至るべしと。「カヤ」縣のみにても五萬本の桑樹があり、亦少なからざる桑樹園がある。「コルドバ」縣に於ては目下約五百萬基の繭を產出する由。

又「チュクマン」縣は今日既に三十年乃至四十年の桑樹三十萬株を有するから、年々百五十萬基の繭を產出する亞耳然丁の氣候は最も蠶業に適するのである。

其他「サルタ」「ジュジー」「サンチャゴ、デル、エスクロ」及「チュクマン」の諸縣は約三百五十萬基の繭を產出する、亞耳然丁に始めて蠶業を開いたものは伊太利の殖民である。

蜀山人

世の中はいつも月夜に米のめし
借又申す金のほしさよ

會務錄事

定款の認可

十月廿八日甲府市に於て開催したる臨時總會に於て、議決したる本會組織變更に關する改正定款は、十一月八日付を以て其筋へ認可申請書を提出したるが、十一月廿四日付を以て左の如く農商務大臣より認可せられたり。

農第一六八四號

大日本蠶絲會會頭
理事　男爵　松平正直

明治三十九年十一月八日付申請大日本蠶絲會定款變更の件認可す

明治三十九年十一月廿四日
農商務大臣　松岡康毅閣

改正定款

第一款　總則

第一條　本會は民法の規定に從ひ主務官廳の許可を得て社團法人と爲す

第二條　本會は皇族を推戴して總裁とす

第三條　本定款は總會の決議を經たる後主務官廳の許可を受くるに非されは之を變更することを得ず

第四條　本會に法定の解散事由あるに非されは解散することなし

解散の決議は總會員四分の三以上の同意あるに非されは之を爲すことを得ず

第二款　目的及事業

第五條　本會は本邦蠶絲業の改良進歩を圖ることを以て目的とす

第六條　本會は前條の目的を達する爲左の事業を行ふ

一　蠶絲業に關する諸般の調査を爲し又は會員の質問に應答すること

二　會員間の交際を親密ならしむることを圖ること

三　本邦生絲の海外販路擴張を圖ること

四　海外に於ける蠶絲業の團體と氣脈を通ずること

五　蠶絲業に關する集會講習會品評會を開設すること

六　蠶絲業に關する教師技術者等の紹介を爲すこと

七　蠶絲業に關する書籍を編纂著述又は翻譯して會員に頒布すること

八　蠶絲業に關する共同事業の發達を圖ること

九　蠶絲業に關係ある者の功勞を調査し及表彰すること

十　會報を發行すること

十一　前各號の外蠶絲業の改良進歩に必要なる手段方法を講究又は奬勵すること

第七條　本會の事業年度は毎年一月一日に始り十二月三十一日に終る

第三款　名稱及事務所

第八條　本會は大日本蠶絲會と稱す

第九條　本會は事務所を東京市神田區美土代町三丁目二番地に設置す　但し評議員會の決議に依り之を移轉することを得

第四款　資　産

第十條　本會の資産は左の如し

一　本會の所有に屬する動産及不動産

二　會員の醵出金有志者の寄附又は遺贈に係る金錢及物品

三　本會の事業又は所有財産より生ずる收入金

第十一條　資産の管理及處分に關する規則は評議員會の決議を以て之を定む

第五款　會　員

第十二條　本會員は左の三種とす

名譽會員　特別會員　通常會員

第十三條　名譽會員には皇族を推戴す

第十四條　特別會員は本會の主旨を贊成して入會し一時に金十圓以上又は四年間毎年金三圓以上を出すものとす

左の各號の一に該當する者は特に本會より特別會員に推擧す

一　本會に對して功勞ある者

二　蠶絲業に關する學術技藝に達したる者

第十五條　通常會員は本會の主旨を贊成して入會し一時に金壹圓五拾錢以上を出すものとす

第十六條　本會は前三條の會員に對して徽章を交付す

本會の爲特殊の功勞ある者及巨額の金員を寄附したる者には有功章を授與す

第十七條　會員退會せんとするときは其の事由を記し本會より死亡したる時は相續者より徽章を添へ本會へ屆出へし

第十八條　會員にして本會の名譽を毀損するときは之を除名し徽章を返納せしむるものとす

第六款　理事及監事

第十九條　本會に理事七名を置き理事中より會頭副會頭各一名を置く

第二十條　理事は特別會員中より會頭副會頭は理事中より評議員會に於て之を選擧す

第二十一條　會頭は本會一切の會務を處理し總會及評議員會の議長となる

第二十二條　副會頭は會頭を輔佐し會頭事故あるときは其職務を代理す

第二十三條　本會に監事二名を置き評議員會に於て特別會員中より之を選擧す

第二十四條　會頭副會頭理事及監事は名譽職とし其任期は三箇年とす

第二十五條　會頭副會頭理事及監事中闕員を生したる場合に於て必要と認めたるときは補闕選擧を行ふ　但し補闕員の

任期は前任者の殘任期間とす

第七款　委　員

第二十六條　本會に左の委員を置く

學藝委員　通信委員　地方委員

第二十七條　委員に關する規程は評議員會の決議を以て之を定む

第八款　評議員會

第二十八條　本會は經費の豫算會頭副會頭理事及監事の選擧其他本會の目的を達するに必要なる事件を評議する爲評議員會を置く

第二十九條　評議員は三十名とし總會に於て特別會員中より選擧し其任期は三箇年とす

第三十條　評議員會は必要と認むるとき會頭之を招集す

第三十一條　評議員會は評議員三分の一以上出席するに非れは議決することを得す　但し同一事件に付再招集の場合に於ては出席員の數に拘はらず議決することを得

議事は過半數を以て決し可否同數なるときは議長之を決す

第九款　總　會

第三十二條　本會は業務の成蹟及收支の決算を報告し評議員を選擧し蠶絲業に關する要件を議決する爲總會を招集す

第三十三條　總會は毎年春季に於て之を招集す　但し會頭に於て必要と認むるか又は十分の一以上の會員より會議の目的たる事項を示し請求したるときは臨時招集することを得

第三十四條　總會の招集及會議の目的たる案件其他決議事項の通知は會報及特に指定したる新聞紙を以て之を爲すものとす

第三十五條　總會に於て表決を爲すは出席會員に限る總會に出席せざる會員は書面を以て表決を爲し又は代理人を出すことを得す

第三十六條　總會の決議に付ては第三十一條第二項を準用す

第十款　支　會

第三十七條　本會に於て必要と認むるときは地方に支會を設立することを得

第三十八條　支會に關する規則は評議員會の決議を以て之を定む

附　則

第三十九條　本定款改正實施以前に入會せる特別會員及通常會員は第十四條第一項又は第十五條規定の出金を爲せるものと看做す　但し第十六條に依り交付する徽章の代價は之を納付すへし

第四十條　本定款の改正條項は明治四十年一月一日より之を實施するものとす

評議員會

十一月廿一日午後二時東京神田錦町三河屋に於て、本會明治四十年度經費豫算の件、其他重要事項に付評議員會を開催し、正副會頭を始め左の諸氏出席せられたり。

副會頭　酒勾　常明
農學博士　林　驛　作

會頭男爵　松平　正直

今西直次郎　本多岩次郎
八田　達也　伯爵
星野長太郎　正親町實正
加賀山辰四郎　吉池　慶正
高木　三郎　辻　楊太郎
土屋　泰　丸岡寛三郎
理學博士　佐々木忠次郎　佐野　理八
北村　七郎　紫藤　章
下田伊左衛門　（いろは順）

而して當日議題に附せられしもの左の如し

一　明治四十年度經費豫算の件
二　支會規則の件
三　地方委員部規定の件
四　有功章及徽章佩用規程の件
五　功勞者及篤志者待遇内規の件
六　功績調査委員選擧の件
七　米國市場に於ける生絲延取引に關する件
八　其他重要事項

第一第三第四の三問題は滿場異議なく直に可決し、第二及第五の兩問題は一二字句の修正を爲したる上にて可決し、第六問題たる功績調査委員選擧の件は、會頭指名説に決し、次て第七問題たる米國市場に於ける生絲延取引に關する件は夫々意見の陳述もありたれど、結局之れを宿題とし、北村、伊藤高木の三氏に於て米國の情態を充分調査ま其報告を待ちて後ち議することに決したり、斯くて其他重要事項に就き數件の報告ありて散會せるは午後十時なりし。

功績調査委員

別項記載の如く功績調査委員は會頭に於て左の五氏を指名囑託せられたり。

林　驛　作　羽田桂之進　加賀山辰四郎
高木　三郎　下田伊左衛門

支會規則

第一條　支會設置の地域は道府縣の區域に據る
各支會の下に委員部を置く
第二條　支會の名稱は其道府縣名又は所在地名を冠すへし
委員の部名稱は其郡、市區名を冠すへし
第三條　支會に左の職員を置く　但し幹事長は之を置かさることあるへし

支會長　一名　副會長　三名以内
幹事長　一名　商議員　若干名
幹事　若干名　事務員　若干名

第四條　支會長は會頭の推薦に依り總裁之を囑託す
副會長及幹事長は支會長の推薦に依り總裁之を囑託す
商議員は支會長の推薦に依り之を總裁に稟申して會頭之を囑託す
幹事は支會長之を囑託し事務員は支會長之を任免す
第五條　支會長は會頭の委任に依り支會一切の會務を統理す

副會長は支會長を補佐し支會長事故あるときは其職務を代理す
幹事長は支會長の命を受け諸般の事務を主掌す
商議員は支會長の諮詢に應す
幹事は上長の命を受け庶務會計の事を掌る
事務員は上長の命を受け事務に從事す
第六條　委員部に左の職員を置く

委員部長　一名　委員　若干名

事務多繁なるときは事務員を置くことを得
第七條　委員部長は支會長の推薦に依り總裁に稟申して會頭之を囑託す
委員は支會長之を囑託す
事務員は委員部長之を任免す
第八條　委員部長は支會長の命を受け其所轄區域内の部務を處理す
委員は委員部長を補佐し委員部長事故あるときは其職務を代理す
事務員は委員部長の命を受け事務に從事す
第九條　支會の業務は左の如し
一　本會の旨趣を遵守し會員を募集し本會事業の擴張を圖ること
二　會員の名簿を備へ支會區域内の會員籍を明確ならしめ異動を本會に報告すること
三　支會區域内會員の會費、寄附金及其他の本會に收納すへき金品を收集し本會に納付すること
四　支會の會計を經理し及所管財產の管理を爲すこと
五　毎年一回以上支會區域内會員の總集會を開設すること
六　時宜に應し講習會品評會集談會等を開設すること
七　前各號の外支會に於て必要と認むる事項
第十條　支會は毎年二月末日迄に前年度に於ける會計及庶務の成蹟を本會に報告すへし
第十一條　本會は支會に對して徵收せる會費の二割を交附す
第十二條　本會に於て必要と認むるときは會報代の徵收を囑託することあるへし此場合に於ては其徵收せる會報代の二割の手數料を交附すへし
第十三條　支會に於て金員及物品の指定寄附を受けたるときは其指定の用途に充つへし　但し其金額品名及寄附者を本會に報告すへし
第十四條　支會は本則に抵觸せざる範圍に於て支會細則を定め本會に之を屆出へし其改正のとき亦同し

附　則

第十五條　本規則は明治四十年一月一日より之を施行す
支會設置規則は本規則實施の日より之を廢止す
第十六條　既設の支會は本規則發表後二年間第一條第二條に據らさることを得

地方委員部規程

第一條　本會は事業の擴張を圖る爲支會の設置なき地方に地方委員部及支部を置く
第二條　地方委員部及支部には左の職員を置く

地方委員長一名　地方委員副長二名以内　地方委員支部長若干名　地方委員長、地方委員副長、地方委員支部長及地方委員其地方を離れたるとき又は支會を設置せるときは其職を解除せられたるものと看做す

第三條　地方委員長及地方委員副長は會頭の推薦に依り總裁之を囑託す

地方委員支部長は地方委員長の推薦に依り總裁に稟申して會頭之を囑託す

地方委員は地方委員長の推薦に依り會頭之を囑託す

第四條　地方委員長は會頭の委任に依り其地方の會務を統理す

地方委員副長は地方委員長を補佐し地方委員長事故あるときは其職務を代理す

地方委員支部長は地方委員長より分任せられたる地方の會務を處理す

地方委員は地方委員長及地方委員支部長の命を受け會務に從事す

第五條　本會は地方委員部に對して其徴收せる會費の一割を交附す

第六條　地方委員部は本則に抵觸せざる範圍に於て地方委員部細則を定め之を本會に屆出へし其改正のとき亦同し

附　則

第七條　本規程は明治四十年一月一日より之を施行す

地方委員規程は本規程實施の日より之を廢止す

有功章及徽章佩用規程

第一條　有功章及徽章は本支會總會、本支會品評會又は各集會の節佩用するものとす

第二條　有功章及徽章の佩用は服裝に制限なしと雖も左胸に附くるを要す

有功章及徽章を併て佩用する場合には有功章を右に徽章を左に附くへし

第三條　有功章及徽章は他人に貸與若くは讓渡することを許さず

第四條　有功章及徽章を毀損又は紛失したるときは請求に依り再交附することあるへし　但し此場合に於ては請求者より實費を徴收するものとす

功勞者及篤志者待遇内規

第一條　本會に對して特殊の功勞ある者、會員百名以上の入會紹介者及金百圓以上の寄附者には支會長又は地方委員長の申請に依り有功章を授與す

功勞の實績、紹介會員の數及寄附金額の多寡に依り有功章を五等に區別す

一等有功章　金二千圓以上寄附者、二千名以上會員紹介者、之に準ずる特殊の功勞ある者

二等有功章　金千圓以上寄附者、千名以上會員紹介者之に準ずる特殊の功勞ある者

三等有功章　金五百圓以上寄附者、五百名以上會員紹介者、之に準ずる特殊の功勞ある者

四等有功章金　二百五十圓以上寄附者、二百五十名以上會員紹介者、之に準ずる特殊の功勞ある者

五等有功章金　百圓以上寄附者、百名以上會員紹介者、之に準ずる特殊の功勞ある者

第二條　有功章を有する者にして更に上級の有功章を授與せられたる場合には前の有功章は之を還納するものとす

第三條　本會に對して功勞ある者、金三十圓以上寄附者、會員三十名以上の紹介者には支會長又は地方委員長の申請に依り特別會員に推舉す

第四條　有功章を授與せられたる者は其氏名住所及事由を簿冊に登錄し永久之を保存し特に會報に廣告す

第五條　物品及第三條規定以下の金員を寄附せる者には謝狀を送付す

第六條　寄附金は總て之を基本金と爲す　但し費途を指定したる場合は此限に在らず

第一號　賞狀樣式

本會の旨趣を贊成し特に會務に盡瘁し會費を奮發し其功勞顯著なるを以て茲に何等有功章を授與す

年　月　日　　何　某　殿

總裁　名

第二號

本會の旨趣を贊成し會務に盡力せられ其功勞絶からざるを以て

總裁殿下の台聞に達し特別會員に推舉す

年　月　日　　會頭　名

謝狀樣式

拜啓　何　御寄贈相成正に領收御芳情ノ段感謝致候此段及御挨拶候也

年　月　日　　會頭　名

宛

會頭及學藝委員の出張

宮城支會にては十二月二日別項記載の如く仙臺市に於て總會を開催するに當り、會頭及學藝委員の出張を請求し來れるを以て、松平會頭土屋學藝委員出張せられ、會頭には同月五日に歸京せられたるが、土屋學藝委員は同月四日より向十日間同縣伊具郡角田町に於て開會せる宮城支會主催蠶業講話會に講師として出張し十五日に歸京せられたり。

理事の出張

新潟支會には十二月二日新潟市に於て總會を開催するに當り、會頭の出張を請求し來りしも會頭は宮城支會總會に臨席せられたるを以て、吉池理事之れが代理として出張せられ翌三日歸京せられたり。

生絲檢査所擴張に關する回答

曩に米國絹業協會より照會し來れる生絲檢査問題に關しては、本會に於ても本邦生絲檢査所の擴張は最も必要と認むるに付、農商務大臣に對し、本年の帝國議會に更に豫算を提出し擴張の目的を貫徹するやう盡力相成度く希望し置きたる趣本會々頭より去七月三十一日附を以て答ふる處ありしが、同協會は更に生絲檢査所擴張に關し、米國絹業統計世界生絲の生產力等に關する調査を掲載せる半年報を添へ九月十一日附を以て左の如く回答し來れり。

拜啓陳者去七月三十一日附の貴翰拜誦横濱生絲檢査所擴張若くは改良に關する問題に付確乎たる結果を收められ候儀喚ち御見込無之にはあらざる趣敬承仕候今般出版に相成候半年報には其第六頁及第七頁に米國絹業に關する最近の統計を掲載有之候間御注意を願はり度存候現時に於ける絹業の生產力に關する拙者の所見は同報の第三頁に陳述致置候是亦現今の設備にて幾許の生產を爲し得る乎の問題を知らんと欲する者の一考に供し度存候

世界の各市場に於ける生絲の比較的生產力及其各衆國の絹業を寄與する關係は同報第四頁乃至第五頁に記載有之申候當期世界中生絲の生產力は同報第九頁に示せる如く實に未曾有の高度額を舉し候へ共拙者共に於ては日本の蠶絲業は往時に比し將來頗る多大の増加を見るべしと相信じ申候而して之れを世界最大の各絹製造國に於ける絹業の有ゆる狀勢に徴するに日本は之に依て大に其國家の富力を増進するならんと信すべき理由ありと奉存候敬具

一千九百〇六年九月十一日

紐育市米國絹業協會
書記役 フランクリン、アルレン

日本東京
大日本蠶絲會會頭 男爵 松平正直殿
閣 下

製絲家商標帖送付に對する謝狀

本會曩に海外輸出を目的とし、百人繰以上の釜數を有する全國製絲家の商標を蒐集して商標帖を調製し、之を米國紐育佛國里昂、伊國米蘭、瑞國「チユーリッヒ」の四ケ國に於ける斯業に關する團體に送付し、以て彼地當業者の觀覽に供し併せて本邦より輸入せる生絲にして織物に使用する場合に缺點ありたるときは、其商標帖の番號を記載し、且其缺點生絲の標本を送致ありたき旨申送り、之れを動機として需要者と製絲家との間を親近ならしめ、彼我の便宜を圖り、販路擴張の一端に供する處ありしが、米國絹業協會よりは十月十日附を以て左の謝狀到來したり。

拜啓陳者去七月十七日附貴翰拜誦貴國輸出の生絲中米國製絹業者にして其品質不完全にして豫定の標準に達せざるものを發見したるときは將來の改良を促す爲め該商標を指摘して詳細貴會へ御通知可申旨提議相成敬承仕候拙者は茲に米國絹業協會執行委員の請求に依り右御厚意に對し御禮申上候

最有効の商標を貼附せる五冊正に拜收仕候本會は此緊要事項に付ては不日直に御報告可申上候得共本會は貴會の友誼的御提議に對し不取敢滿腔の贊成を表し併せて御厚禮申述度草々如此に御座候敬具

千九百六年十月十日

紐育市米國絹業協會
書記 フランクリン、アルレン

日本東京
大日本蠶絲會會頭 男爵 松平正直殿
閣 下

粗製絲に關する照會

本會より米佛伊瑞の四個國に於ける斯業關係團體に送付したる、本邦製絲家の商標帖に對し、米國絹業協會よりの謝狀は別項記載の如くなるが、之れに遅るゝこと僅に十日即ち去十月二十日附を以て、紐育市「ヘッスゴールドスミス」會社よりは某製絲家の輸出せる生絲は甚だ不良のものなりとて、其商標に左の書面を添へ本會に照會し來れり。

拜啓陳者米國絹業協會よりの通知に依れば貴會に於ては貴國に於ける生絲の改良を御希望あらせられ候趣に付若し實際不滿足なる生絲ある場合は其商標を御通知申上候に於ては有益なるべき旨承知仕候就ては玆に揚絲の際本社に多大の手數を煩はさしめたる貴國輸出に係る生絲の商標を其儘加封供貴覽候該生絲は元來下級品に有之本社は相當の値引を承諾せしめ候得共甚多數の節ムラを有する爲め非常の困難を以て辛ふじて之れを繰枠に掛渡すことを得候次第に御座候敬具

千九百六年十月二十日

紐育市デーン街五十三番
ヘッスゴールドスミス會社

日本東京
大日本蠶絲會御中

右に對し本會は「ヘッスゴールドスミス」會社に向け、尙今後斯かる不良の生絲ありたる場合には、直に其標本を送付し缺點を指摘せられたきやう回答し置き一面某製絲家に對しては、同會社より本會へ申告し來れるもの、全く繰絲上の缺點に依るものと認めらるゝに就き、自今一層製造上に注意し、熱心改良を期すべき旨通牒したり、然るに某製絲家は本會の警告に對し大に省みる處あり、斷乎之が改良を爲すべき旨回答し來れり、其勇氣や嘉すべく其心掛や賞すべし、希ば職に輸出生絲の製造に從事するの士は、國家の爲將本邦製絲業の爲某製絲家の如く過ちを改むるに憚る處なく着々改良に努めて歐米需用者に滿足を與へ、以て益販路を擴張せられんことを切に望む處なり。

宮城支會總會

大日本蠶絲會宮城支會總會は、去十二月二日仙臺市五城館に於て開かれたり、龜井知事を始め縣郡會議員其他會員の來會する二百餘名、午前十時開會を報じ一同着席、早川幹事長登壇、今回總會開催の目的は、會務の大刷新を圖らんが爲めにして、其案は既に諸氏の手許に迄提供し置きたれば、充分審議ありたしと述べ、次て丹羽幹事會務の報告を爲し、夫より早川氏議長席に着き、會則の變更を議したるが、多少の修正を爲したるのみにて滿場異義なく原案の如く可決したるを以て、更に早川幹事長は其新會則に基きて、龜井知事を會長に推薦し其承諾を得直に松平會頭の裁可を經たり、乃ち龜井會長は壇に登り、蠶絲業は本縣に於て年來奬勵し來りたるものにして、將來に於ても縣是として、一層之が改良發達を劃策せんとしつゝあることなれば會員諸君は益努力あらんことを望む云々と述べて就任の挨拶を爲し、亞て副會長以下役員を指名せられ轉じて協議問題に入りたり。

一 蠶害豫防の件
二 養蠶組合設置の件
三 蠶種並に繭質一定の件
四 座繰製絲共同揚返の件
五 普通養蠶家をして蠶紙製造を勵行せしむるの件
六 蠶絲業調査委員設置の件
七 桑園の増殖並に整理の件

八、縣下蠶絲業證明會開催ヶ條に承認する件

右八問題を協議したるが、何れも既後經營上急要の問題なるを以て一瀉千里原案の如く可決確定し、更に堀田氏より提出したる。

（一）明治三十七年二月二十五日發布農商務省第七號蠶絲業法施行規則第四十一條第二項及之に伴ふ規程制限の件を其筋に建議する事

（二）直家加賀錢取締規程廢布の件を其筋へ建議する事

の建議案は佐藤氏の發議にて、次會迄宿題とすることに決し茲に議事を終はりたるの時、正午となりたるを以て休憩したり。

午後一時より講演となり劈頭松平會頭登壇せられ、本日茲に宮城支部總會を開かるゝに際し、臨場するを得たるは大に光榮とする處にして、正副會長に其人を得たるは又本支會の幸福と謂はざるを得ずと述べ、夫れより昨年の因作は海外に支て同情を受けられしも、諸君の非常なる奮發は禍を轉じて福となし今や諸種の事業發達し就中我蠶絲業の益物興せんとする傾向あるは喜ぶべき現象なりと說き、更に進んで本會の事業經過を陳べ、會員の奮起を促して降壇せられたり次に土屋學藝委員は蠶業談と題し、米作と養蠶との調和を論じて富力の增進を企畫せよと警告し、一轉奉夏秋蠶の關係を說て春蠶よりも寒ろ夏秋蠶を適當とすと述べて壇を退き、吉野氏の堆積肥料に關する演說に亞で、早川市長は宮城縣の蠶絲業に就てと題し、適切明快なる所信を述べて閉會の辭に代へ散會したるは午後四時半なりし。

斯くて閉會後會頭及土屋學藝委員を主賓とし、公園揚翠館に大懇親會を開かれたるが、會する者無慮百餘名にして献酬談笑の間各自十二分の歡を盡して午後十時散會したり。

宮城支會役員氏名

支會長　亀井英三郎　副會長　早川智寛

幹事長　丹羽駒太郎　幹事　中塚庄蔵

仝　　吉藤泰助　仝　　佐藤勝三郎

仝　　金成金彦

新潟支會臨時總會

大日本蠶絲會新潟支會は、去十二月二日新潟市物産陳列館棧上に於て臨時總會を開催したり、縣官縣會議員新聞記者其他會員の來會するもの百餘名にして午前九時開會、松田支會長の式辭吉池理事其他來賓の祝辭に亞で、會員總代齋藤嚴六氏の答辭ありて式を終り午餐後議事に移り、役員選擧規則改正其他の件を議し、夫れより吉池理事の講話ありて、午後三時閉會したり、而して午後五時吉池理事を招待して、島清館に於て懇親會を開かれたるが是亦頗る盛會なりし、追て詳細なる狀況は次號に掲ぐべし。

會員動靜

本年十一月中に入會せられし者左の如し

○特別會員

入會者　紹介者

長野管　正鎧　信濃支會　長野林　潤平

同　下村魁　同　尾澤琢郎

○通常會員

入會者　紹介者

東京　西川伊左衛門　石川國太郎　東京　立川友次郎　町田悅太郎

京都　岩崎吉左衛門　京都支會

同　木村龜藏門　同

神奈川　恵岡彭太郎　恵岡龜三郎

同　木下良助　同

新潟　大塚茂吉　波邊保忠

同　南魚沼郡蠶絲業組合

同　桑原貫三郎　同

同　山田其吉　山崎其吉

同　佐藤武三九　同

同　鈴木豊太郎　今井長蔵

同　松井利作　同

同　小杉啓太郎　同

同　豊太郎　同

同　豊本喜久平　同

同　宮所潤造　同

同　井口源吉　竹内虜松

同　酒井源十郎　新潟支會

同　新野三助　大屋智雄

同　相澤松三　松山徳次郎

同　關圭三　松田彦平

同　佐藤直治　波邊敬二

同　穂口慶太郎　同

同　馬瀬松次郎　加藤知正

同　雲藤豊太郎　同

同　松原賀人郎　直接入會

同　坂口正雄三　同

同　神田福太郎　武田武平

同　長島和助　同

同　長島勇　安松策藤源太郎

同　野馬　馬場安松策藤源太郎

同　内田愛太郎　同

同　野馬　濱島鑑次郎　須賀源太郎

同　堀口馬次郎　同

同　小泉茂太郎　藤間大治郎

同　木下良助　藤間大治郎

同　多胡友五郎　佐藤孝一

同　清水菊次郎　坂井廣吉

同　清水菊次郎　坂井廣吉

同　内山茂平　郡馬地方委員部

同　靖聚同　同

同　小金澤孝平　大河原茂平

同　須賀良八郎　高橋愛之助

同　原寅吉　同

同　鮫田二郎　同

同　藤巻藤三郎　佐藤孝一

同　佐藤長太郎　佐藤長太郎

同　其砂傳次郎　佐藤長太郎

同　青木栄吉　栄吉

同　永井源吉　同

同　鎌原惣平　佐藤長太郎

同　須川喜二郎　御吉

同　鎌原廣平　同

同　岩田岩次郎　桑島信吉

同　多和田政太郎　同

同　山本金三郎　同

同　大久保佐一　直接入會

同　辻信松　同

同　武藤喜作　新井健作

同　佐藤鷲平　同

同　平石多蔵　同

同　井野彌平　同

同　長谷川常吉　同

同　金子賢治　同

同　内田明市　同

同　長岡生三郎　新井健作

同　細越宋太郎　須賀源太郎

同　小泉茂太郎　藤間大治郎

同　千葉富治郎　加藤二宮鶴松

同　富澤庄蔵　加藤二宮鶴松

同　木村安次郎　直接入會

同　大塚貫太郎　直接入會

同　永瀬藤太郎　立花藤

同　金澤與太郎　同

同　片岡榮　長瀬地方委員部

同　細越宋太郎　須賀源太郎

同　山崎喜一郎　中村作次

同　大西政權　駒田大郎

同　角屋源蔵　同

同　中西政之助　神武米蔵

同　重一寺本繁一

同　藤田伊七郎　同

同　辻正一　同

同　矢富五郎　同

同　寺次郎　同

同　谷口千三郎　鈴木茂助

同　谷源四郎　同

同　長七　眞川源太郎

同　山本金三郎　同

同　知生川魚會長　大井傳之丞　大竹作之助

同　綱永純一　同

同　長島利吉　同

同　小田村島會　大井定吉

同　稲林虎雄　同

同　相澤藤治　同

同　中村治郎吉　同

同　守田源吉衛門　流口忠次郎　同

同　三浦　濱地安兵衛　流口忠次郎

同　五ヶ所村島會　同

同　森岡佐八郎　同

同　櫻川才兵衛　同

同　大塚貫太郎　直接入會

同　受知栗田直一　栗田岡蔵

同　大塚貫　產榜　直接入會

同　鈴木三二　夏目鉱信

同　村田幸八　同

同　太野田寅市　同

同　山口卯蔵　同

同　河村吉次吉　横山大郎

同　鶴田徳太郎　二宮鶴松

同　靜岡　伊藤誠太郎　直接入會

同　小林種次　岩浜藤治

同　高山市郎　直接入會

同　吉川豊次郎　二宮鶴松

同　山梨　川合定利　川合菊次郎

同　萩原源市　田中種吉

同　望月萬太郎　小澤孝太郎

同　日野原　藤作　磯野柔次郎

同　藤原孝平　山梨支會

同　和吉　直接入會

同　宮木秀久　内藤藤兵衛

同　内田安兵衛　中島鶴平

同　川口源兵衛　同

同　仲澤治平　同

同　丸山金太郎　同

同　雨宮五郎　廣瀬其勝

同　山田勘知　同

同　實作　同

山梨　鶴田　金作　廣瀬　其齊
岐阜　安藤　鉄次郎　寺田　浸吉
長野　村山　庄太郎　町田　弘
水方　次丸郎
三村　茂十郎　信濃　支會
瀬黒　寺市郎
曾根原　敬太郎
若林　米作郎
金山　寫眞　藤澤　藏次郎
市川　助治郎
中島　善次郎
北野　増藏郎
息子　柴繁一郎
小林　治郎作　直接　入會
福澤　恭江　信濃　支會
唐木　安太郎
鈴木　芳太郎
島田　金五郎
小林　鉄之進郎
宮下　留吉郎
清水　幸内郎
山本　吳太郎
平林　正邦　尾澤　啄郎
尾澤　柴次郎　牛山　竹次郎
林　今朝太郎
林　竹五郎
林　柔次郎
林　勇藏郎
金子　長内郎
鶴　初平郎
長野　濱　旅藏　尾澤　啄郎
伊藤　靜平郎　牛山　竹次郎
羽生　幸之助郎
新井　喜助郎
小口　國藏郎
玉木　牧治郎
笠原　龜藏郎
小河原　次郎郎
小河原　順藏郎
林　近三郎郎
濱口　虎四郎郎
河西　實吉郎
小口　松五郎郎
片倉　久兵衛郎
片倉　光治郎
片倉　俊太郎郎
片倉　三郎治郎
横内　龜三郎郎
篠塩　兼義郎郎
北原　萬一郎郎
川上　和人郎郎
大榎　貞雄郎郎
山浦　耳平郎郎
青島　隼太郎郎
波邊　愛次郎郎
藤澤　勝知郎郎
武居　善次郎郎
茂澄　俊二郎郎
長野　藤森　榮作　尾澤　啄郎
立木長左衛門　牛山　竹次郎
有賀　今朝一郎郎
伊藤　喜作郎郎
玉木　牧治郎郎
北原　桂藏郎郎
小河原　順藏郎郎
篠塩　正雄郎郎
金子　金三郎郎
三宅　喜三郎郎
佐々木　修太郎郎
堀川　五彌郎郎
藤森　宮太郎郎
溝口　多三郎郎
丸茂　米作郎郎
清水　茂三郎郎
矢崎　鶴五郎郎
高木　林次郎郎
林　勝助郎郎
横沢　長右衛門郎
中村　百太郎郎
林　豊吉郎郎
林　兵太郎郎
松　平重郎郎
林　要吉郎郎
加藤　清郎郎
小口吉左衛門郎
宮坂　清之藏郎
宮坂　健次郎郎
矢島　忠兵衛　尾澤　啄郎
今井　勢次郎　牛山　竹次郎
宮坂　春平郎
吉田　和藏郎
山田　杉三郎郎
小松　小一郎郎
横内　半次郎郎
藤川　登喜治郎
笠原　喜八郎郎
片倉　島吉郎郎
山崎　富士太郎郎
山崎　米郎郎
小口　龜彌郎郎
金原　五藏郎郎
小松　靜左衛門郎
細川　幸重郎郎
尾澤　彌太郎郎
尾澤　金左衛郎郎
小林　濱之助郎郎
小口　龜藏郎郎
小口　政藏郎郎
小口　喜三郎郎
藤森　高彌郎郎
四尾　長太郎郎
太田　吉太郎郎
藤森　米作郎郎
河西　喜三郎郎
小口　金一郎郎
濱　岡之郎郎
矢崎　六平郎郎

長野　吉田　捷吉　尾澤　啄郎
通田　堅　龜八郎郎　牛山　竹次郎
小平　鬼藏郎郎
市川　孫吉郎郎
長田　五郎作郎郎
竹内　榮太郎郎
牛山　嘉代吉郎郎
小尾　三郎郎郎
長田　孝之助郎郎
市川　仲次郎郎
市川　吉彌郎郎
柿澤　米雄郎郎
小林　米作郎郎
伊藤　吉五郎郎郎
吉川　又太郎郎郎
長田　重次郎郎郎
伊藤　茂雄郎郎郎
伊藤　玉平郎郎郎
伊藤　清作郎郎郎
伊藤　與三郎郎郎
小林　留藏郎郎郎
伊藤　喜太郎郎郎
伊藤　卓郎郎郎
伊藤　忠助郎郎郎
松田　宮藏郎郎郎
原田　又吉郎郎郎
原田　政吉郎郎郎
長野　丸茂　惠雲　尾澤　啄郎
丸茂　寛十郎郎　牛山　竹次郎
丸茂　眞次郎郎郎
上原　喜新郎郎郎
丸茂　彌三郎郎郎
上原　喜代松郎郎
上原　喜五郎郎郎
牛山　佐平郎郎郎
牛山　榮助郎郎郎
牛山　長藏郎郎郎
牛山　柔次郎郎郎
牛山　又左衛門郎郎郎
丸茂　源次郎郎郎
三浦　有衛門郎郎郎
伊東　馬藏郎郎郎
清水　梅五郎郎郎
牛山　清重郎郎郎
清水　吉太郎郎郎
伊藤　與三郎郎郎
小島　榮次郎郎郎
小島　榮次郎郎郎
小林　源次郎郎郎
平林　平次郎郎郎
平林　長重郎郎郎
林　作藏郎郎郎
茂木　宗治郎郎郎
祥金　横治郎郎郎
長林　實吉郎郎郎
長野　清水　太助　尾澤　啄郎
清水　勉藏郎郎郎
小林　勉五郎郎郎
藤森　智惠藏郎郎
圓利　右衛門郎郎郎
四澤　惠三郎郎郎
小島　鑒吉郎郎郎
田中　磨五郎郎郎
藤森　定五郎郎郎
金子　要吉郎郎郎
原　惣市郎郎郎
金子　勘之藏郎郎郎
原　雲吉郎郎郎
藤森　俊吉郎郎郎
原　彌五吉郎郎郎
野口　磯彌郎郎郎
關　順吉郎郎郎
金子　金重郎郎郎
藤森　作右衛門郎郎郎
金子　勘太郎郎郎
牛山　增太郎郎郎
牛山　增太郎郎郎
花岡　民之助郎郎郎
小山　新和田源一郎郎郎
小林　藏三郎郎郎
桑原　民治郎郎郎
古山　榮治郎郎郎
千葉　金作郎郎郎
宮坂　春　龍雄　宮坂　文會郎郎郎
猪俣　卓治郎郎郎
水戸　勇太郎郎郎
岩佐　庄七郎郎郎
入巻　寫平郎郎郎
加川　正郎郎郎
湯村　修三郎郎郎
本田　勉　直接　入會郎郎郎
千葉　金作　二宮　勉松郎郎郎
柳沼　常入　武藤成右衛門郎郎郎
橋本　高右衛門郎郎郎
笹谷　清吉　伊藤　義一郎郎郎
波邊　平助　常松　實太郎郎郎
丹治　伊之介　神代　澤身郎郎郎
波邊　榮助　安壽七三郎郎郎
鳴原　治兵衛　鳴原　德太郎郎郎
朽木　久次郎　直接　入會郎郎郎
小林　一　河沼　輕役所郎郎郎
笹子　新太郎郎郎
平野　文次郎郎郎
張沼　忠太郎郎郎
川俣　信治郎郎郎
佐藤　喜代次郎郎郎
鈴木　一雄郎郎郎
高橋　新之介郎郎郎
五十嵐　吉多郎郎郎
平野　貞次郎郎郎
小池　傳入郎郎郎
白井　亨吉郎郎郎
鈴木伊勢次郎郎郎

福島	鈴木昌吉	河沼郡役所
同	熊谷源七	福島支會
同	鈴木善作	同
岩手	水野甚左衛門	直接入會
同	村下清源	岩藤馬太郎
同	佐々木長一郎	同
同	村上豊治	同
同	石川昇	同
同	小野篤治	同
同	小畑齋	同
同	太田代作太郎	同
同	岩淵虎松	同
同	浦田イナ	同
同	石川克郎	同
同	馬場亀一郎	同
同	細川徳治	同
同	鹽澤隆篤	二宮鶴松
青森	石田吉太郎	同
山形	橋間久作	秋保傳四郎
同	鈴木倉之輔	山川金三郎
同	石山徳正	齋藤孝太郎
鳥取	米廣政次郎	直接入會
同	春日鏡三郎	同
島根	水渓治右衛門	島根支會
同	植木文三郎	同
同	野津孝一	同
同	角長太郎	同
岡山	倉本卓二	直接入會
廣島	千葉開右衛門	武田倉一
同	安原平三郎	同
廣島	山口馨	武田倉一
同	芦品郡農會	同
山口	河上花太郎	藤井鼎太郎
同	岡其吉	同
同	益田伊三郎	山口支會
和歌山	小谷平治	西居正夫
徳島	山口五郎	高橋寛厳
愛媛	木原組一	吉永信
高知	武市登志彌	茨城定毅
佐賀	田代讀造	三谷登一
熊本	森新蔵	細谷久一郎
同	上村彈蔵	同
同	米々田豊喜	同
同	栗原新蔵	同
同	牧元治	同
同	宮田庄平	直接入會
鹿兒島	瀬戸山眞敬	川村常三郎
同	別府新助	同
同	柴立角二	同
同	橋木眞幸	同
同	深野道吉	同
同	久留祭太	同
同	曾木秋秀	同
同	前田俊彦	同
同	満田重徳	同
同	若松武二	吉利新熊
同	今村吉之助	同
同	揖宿急登	同
同	山口篤眞	同
同	西串村農會	同
朝鮮	部宇相林	響作

計　四百二十六名

又同月中通常會員より特別會員に變更せし者左の如し

群馬縣　川島濱三郎

又同月中に死去せられたる者左の如し

○特別會員

岐阜　小倉久

○通常會員

滋賀　八木重太郎　埼玉　加藤勝三　宮崎　山下好正

秋田　近松五郎　大分　四岡幸三郎

（七月中）

本會々員現在數

會員總數　一萬二千〇十四名

内譯

名譽會員　十三名

特別會員　三百七十九名

通常會員　一萬一千六百十六名

蠶桑雜觀

生絲格付認可

横濱四品取引所より農商務省に申請せる生糸格付案は、大麥の格付案と同時に三十日附を以て愈々認可となりたり、右に就き東京商品取引所に於ても、二月限より右格付に據り賣買を開始す可しといふことゝなるが、元來生絲の格付に關しては、買方の利便なりしを賣方に轉ずるの結果現物買方は却て定期取引と遠ざかり、延て賣買の衰頽を來さゞる可きやを懸念せる向きもありしに、發表せられたる格付表に據れば從來横濱五品取引所に於て賣買の內規として行はれたる商習慣を單に成文案たらしめしに過ぎざれば、何等の懸念を要せざる事となりたり、而して其認可せられたる全文如左。

蠶業細則中追加　蠶業細則第五十二條蠶絲の部第二項の次に左の一項を追加す。

前項の各格品に付格付表に依り格付をなし受渡を爲すものとす

格付

一　器械製絲太一番の標準品は原料佳良にして色澤の差異少なく東參整齊、荷口一定し蠶業細則第五十二條規定の器械檢査に適合するものとす

二　器械製絲太一番は其余格品に付標準品に對し百斤に付左の格付を以て受渡を爲すものとす

格上　二圓五十錢、二圓五十錢、二圓五十錢、二圓五十錢、二圓五十錢、二圓五十錢、

格下　二圓五十錢、二圓五十錢、二圓五十錢、

本項の格付は取引所之を決定す此の決定に對しては賣買者双方共異議を唱ふることを得す

三　器械製絲太一番は毎年七月限以降は新絲（其の年の蠶繭を以て製造したるものを云ふ）を以て受渡を爲すへきものとす但其年六月三十日までに受渡濟となりたる古絲（前年度の蠶繭を以て製造したるものを云ふ）は八月三十一日迄新絲代用として受渡を爲すことを得へし

四　古絲を以て新絲の代用となすときは第二項格付の外に左の格下けを爲すものとす。

受渡直段百斤に付	格下	受渡直段百斤に付	格下
七百圓未滿	十五圓	九百圓以上	三十圓
七百圓以上	二十圓	千百圓以上	四十圓
八百圓以上	二十五圓		

以上百圓未滿を增す毎に十圓宛格下をなすものとす

五　新絲は毎年六月限受渡に限り古絲の代用として受渡を爲すことを得へし此場合に於ては新古同格とす

六　取引所に於て器械製絲太一番の格付を決定したるときは爾後毎々受渡に供せらるゝも檢査當時取引所が付たる封印に異狀なきときは總て最初決定の格附に據るへきものとす

七　格附より生する受渡直段との差金は受渡結了の際取引所を經て之を賣買者間に授受すへきものとす

八　本格附表は明治三十九年十二月一日發會する明治四十年二月限賣買より之を施行す

九　本格附表を改正するの必要あるときは農商務大臣の認可を得施行の翌月賣買發會前之を掲示すへし

全國農事大會

第十四回全國農事大會は、去月二十八日より同三十日迄東京赤坂溜池三會堂に於て開會せられ、一道三府四十三縣の代表者百餘名出席し夫々議する處ありたるが、其決議に基き農務省獨立の件及び農事蠶絲改良の件は其後夫々其筋へ建議せられたる由なり而して同會に於ける松岡農相の演説は、頗る味ふべきものあるを以て左に其要旨を掲げん。

我國農業家が勤勉着實にして、日露戰爭に於て壯丁百萬干戈を採りて外征に從へること二年の長きに亘れるに拘はらず、其間老少奮て自から壯丁の缺を補ひ、遂に非常の收穫を見、一面特別賦税を納めながら猶且つ耕地整理荒蕪地開拓着々改良の實を舉げたるは洵に以て誇るに足れり、然かも農業界の現狀改良すべきもの施設すべきもの一にして足らず、今試に米麥に付て觀るに明治二十八年以降十年間に於て、米の作付反別は僅に九萬六千町歩、麥の作付反別亦た僅に六萬町歩を增したるのみ、而して一面其輸入額を見るに米は三十六年には四千七百萬圓に達し、三十八年には千萬圓に垂んとし、麥芽、麥粉、小麥の輸入額は合して三十八年に千四百萬圓を超へ、又蠶業は我國輸出品の首班に位し、本年の如きは輸出額一億圓を超へんとす、而して近來

新に夏秋蠶専業の弱病せんとするの勢あるは洵に寒ぶべしと雖も、桑園は之が爲めに減退を來さんとす、加之一般農産の基礎肥たる料を考ふるに、人造肥料輸入額二千二百萬圓の多きに達す、殊に畜産事業に至りては尚ほ頗る幼稚にして、到底國民の需用を充たすに足らず、之を獨逸に比較するに人口相如けるに拘はらず、手馬の數に於て彼の十分の一に及ばず、右の事實に依て觀れば、我農業界の開發は前途甚だ大なるものあり、荒蕪地の開拓と共に耕地整理に依て作付反別を增加し、勞力を節して多くの收穫を得るの道は最も奬勵すべきものゝ一なり、其他其種を選擇し害蟲を豫防し、或は耕地の方法を改善し、或は綠肥堆肥の製造を盛にし、或は夏秋蠶の專用桑園を設け、産業組合を普及して共同經濟の方を採る等皆一日も忽にすべからず、特に畜産業は農業家の副業として最も適當なるを以て、一面其種の選擇其宜しきを圖り、一面原野草の改良牧草の栽培を奬勵せざる可からず、思ふに我國農業家の習慣を保守して進步の趨勢を顧みざる弊に陷り易し、之が智識の開發と實行の奬勵とは一に農會の任なりと謂ふべし云々。

新潟縣蠶絲業大會

第六回新潟縣蠶絲業大會は本月二日新潟縣物産陳列館内に於て開催せられ、來會者一百餘名にして左の問題に就き協議する處ありたり。

一、十年計畫案

二、縣試驗場擴張の建議

三、蠶絲同業組合に對する希望

而して何れも皆滿場一致を以て原案の如く可決したるが同會より同縣知事に建議したる事項中所謂十年計畫案なるもの左の如し。

一、蠶業講習所を設置し地方當業者の指導となるべき人物養成の機關とすることにて初年は一萬九千圓を支出し殘九年は每年七千圓宛の經常費を支出すること

二、蠶病消毒器一個十圓を大凡百戶を一組としたるに補助し以て蠶病消毒の勵行を期する爲め一年丈け五千圓を支出すること

三、蠶種貯藏器五百圓を二年に配布し一個五十圓と見做して二ヶ年即ち二萬五千圓を支出すること

四、養蠶傳習所を設け年々これが爲めに三千圓づゝを支出し五ヶ年間にて打切とし一萬五千圓を支出すること

五、桑園品評會の奬勵を圖る爲めこれも五ヶ年間每年三百圓宛を補助することゝ而して一千五百圓を支出すること

六、桑園整理として巡回教師を招聘し各郡に就き實地指導せしむる爲め每年二千二百五十圓を三年越即ち六千七百五十圓を支出すること

七、桑園增殖上縣下の原野荒蕪地の中一萬八百二十六町步を開拓せしむるに一反步五圓宛を補助し一年五千百十三圓づゝ十ヶ年五萬四千百三十圓を支出すること

八、共同掃共同催青所を大凡百三十個所とし一ヶ所百圓宛三ヶ年間補助する爲め每年一萬三千圓として三萬九千圓を支出すること

九、製絲指導の爲め教師一人平均給料旅費共二百圓づゝとして五ヶ年間三人を招聘することゝし一年六百圓即ち三千圓を支出すること

支那繭の輸入

絲價頻に暴騰せるより、製絲家は極力製絲を急ぎ昨今殊に著しく原料の空耗を告げたるより、支那本繭の輸入約定談行はれ、既に第一回信州製絲家渡し一萬斤は春日丸にて、第二回一萬五千斤は弘濟丸にて輸入せられたるが、製絲費の割合に高からざると、解舒の良好なるとにより一般の希望者多く約定高は結局十萬斤位に達すべき模樣なりと云ふ。

蠶海涓滴

▲世界の平和は各國の武裝解除に非ずして重なる强國の聯合にありと英人リチャード氏熱心に世界統一說を主張す、理屈は兎に角實行の難さを如何せん。

▲米國大統領が議會に與へたる教書は曠然として旭日の天空に懸れるが如くル氏の高義は眞に之れ感謝に値えざり去れど國際上の事、時に機變ありてふの諺あり外交の當局外面に顯はれたる好意に酔倒され悔を後日に貽す勿れ。

▲外交上の折衝更に表裏あるを免れず而して今や華盛頓州又我勞働者を逐

▲明年度總豫算の歲出經常部と臨時部合せて總額五億八千萬圓本年度に比して約八千萬圓の增加なりと云ふ斯くて年々國費相嵩みて停止するなくんば。

▲國家經濟の前途や寒心すべし國民擧て生産の發達に努むるは愈焦眉の急務、壯議業より發知たるを許さず紳士子供搦杓子迄共に渾身の勇氣を鼓して働け。

▲古川家東北九州二大學に百萬金を寄贈し安田家亦十萬金を癈兵院に義捐せんとす富豪社會が其心を經世の要義に用ひ來れるは誠に是れ國運隆昌の兆。

▲各種の實業は皆是れ國家的事業たらんも就中蠶絲は其魁にして海外貿易品中の大王也本年の輸出累計一億圓を超過したるもの證し得て餘りあらずや。

▲全國本年の蠶種産額普通製紙製合して八百五十五萬六千七百十二枚之を昨年に比す百五十四萬四千七百六十二枚の增加蠶業勃興の氣運推するに足る。

▲信濃支會曩きに松本町に役員會を開き國立夏秋蠶專門講習所に就て決議する處あり、斯くて皆々支會の活動を見ば同縣の蠶絲業や更に一層發達せん。

▲岐阜縣下の製絲年々盛旺に流れて信用地に墜ち之が矯習策として大會を開きたるの淘に其奏去れど寇る勿れ信用挽回の途唯各自の勵精に存在するを。

▲本年度に漸く開始せる福井縣生絲檢査所に對し同縣參事會員檢査の必要なしとて明年度の補助金を削減せりとは誤か頑隨幕府の政策は是實業の仇敵。

▲鳥兎匆々明治四年の怪談も將に一旬にして辭し去らんとす春來兎角不穩なりしも生絲市場は先づ空前の好現象たり永く史上に特筆して之を傳へん哉。

樂園

花の本華翁宗匠撰（三允へ禁）

佳調

餅搗や坪井をからす笑ひ聲　幹田　友松

背を向ける親しみぬくき榾火哉　常陸　波山

鳥の啼く深みも嬉し冬木立　牛込　梅里

近道に下駄を啼はるゝ十夜哉　埼玉　一扇

出放れて我家のちさし冬の月　小樽　悠々

踏む音や顏に登る霜柱　伊勢　竹露

筆なめた暮寒し冬の梅　下谷　孤堂

楊柳花屋奇麗な師走哉　臺北　羽値

枯あしや近く見せたる向河岸　深川　白鷗

泄水に星の花見る寒さかな　同　樵左

水の月搖れ止どまれば氷けり　愛知　沙洲

雪來るやいよいよ鷺鷥の睦ましき　大阪　袷水

寒き夜や一人が言へば皆もいふ　岩代　大樵

我息に向ふの晴し冬の月　三河　山綠

鐵も火にだまさるゝ師走哉　同　老泉

冴に乘る闇の調子や鴫の聲　牛込　松宇

秀逸

榾焚くや蠶飼の蓆座編なから　牛込　龜丘

見る物のなき野も冬の姿かな　讃岐　多山

寐るにして雪見る脊戸の紙燭哉　仙臺　藤下

我足の運びまだるし年の暮　同　覺夢

雪車挽た跡やぽちぽち溢れ豆　神田　枝鳩

庫裡見れば矢張浮世の師走哉　出雲　陽堂

梅の鳥見る度春の待たれけり　神田　園花
埋火や手製の香も試る　安藝　斜籠
雪催ふ泊りの早し旅功者　葛飾　嵩水
水仙や日影に睦む笑ひ振り　下谷　菊見

人　位

一枚も夜の賑ひや餅むしろ　福島　故輿

地　位

今更の樣に物いふ師走哉　同　逢水

天　位

大雪を祝ふ序や年忘　番町　晴月

追　加

窓閉て面目もなし冬の月　撰者　花翁

懸賞俳句募集

選者　花の本華翁宗匠

題　初荷　門松　屠蘇

（入花無料原稿〆切明治四十年一月五日限り）

懸賞

天　（一人）　會報一ヶ年分
地　（一人）　會報半ヶ年分
人　（一人）　會報三ヶ月分

規則

一題一句一人ニ付三句限り　○用紙郵便端書に限る　○便宜上東京市麻布區六本木町三十一番地松林華翁宛送らるべし　○應募者は本會々員に限る　○必ず住所姓名を明記さらるべし

新刊紹介

衣笠蠶友會報　（第二號）

京都蠶業講習所在學生諸氏の手に依て組織せられてある衣笠蠶友會では、從來一年に一二回の會報を出して居つたのである、處て時勢の趨勢はと察て十月から月刊にせられた、先づ以て其勇氣を愛せざるを得ない、學課の傍ら造らるるのだから、何ほど手腕があるとしても充分之れを損ふの餘裕はあるまいが、兎に角紙數僅に二十頁の小冊子たるに過ぎざるも表紙の意匠に余の入りたる處など頗るハイカラ的に出來て居る、而して本誌に收むる處松永所長の懷舊談、石渡學士の世界桑絲生産額の最近調査、水野氏の桑樹の調査、荒川氏の現今座繰製絲に於ける弊風、椿沼氏の桐生地方に於ける織物の織方、下井氏の島根縣蠶業に就ての卑見、藤井氏の布袋製線佚等、主として同所職員諸氏の意見が載せられてあつて當業者に直接稗益を與ふるものも尠くない、古い演戯催記やなど纏めて年一二回報告するものよりも餘程此方が氣が利いて居る、が併し序で乍ら職員諸氏に望みたいのは、責め塞さぎに止むを得ず的筆を取るてはなくて進んでドシ〳〵高見卓説を寄せられ折角の氣込より成れる本誌をして多々益々趣味の多きものたらしめられんことを本誌の發刊を祝すると共に一言希望を述べて置くこと如件である、（一冊郵稅共金五錢發行所京都蠶業講習所內衣笠蠶友會）

明治三十九年度共同養蠶組合事績　愛媛縣第三部刊行

養蠶業の發達を圖るには小組合を組織して着々改良せしむるに若かずとは識者の夙に唱導する處であつて、近來各地にボツ〳〵其實行を見るに至つたのは斯業の爲めに喜ぶべきことである、乃ち本年愛媛縣に於ても之を實行せられたのであるが、本書に依て之れを見れば大に其成蹟は頁かつたのである、而して其成蹟の頁いと云ふのは當然なので吾等は諸種之れが組織を望むのであるが之れを組織せんと欲する者の爲めには本書の如き好個の參考となるであらう。（非賣品）

第五回中蒲原郡養蠶々種同業組合事蹟報告　新潟縣中蒲原郡養蠶々種同業組合刊行

本報は新潟縣中蒲原郡養蠶々種同業組合が明治三十八年度に施行したる事績の一般を蒐集攝纂したのである、近時同業組合に就て兎角の議論と批評とを聞くの折柄同組合が如何に活動し如何に當業者に稗益を與へつゝあるかを本報に依て窺ひ知ることが出來るのである。（非賣品）

最新蠶業教科書　養蠶編　磯部龍次著

本書は甲種若くば乙種程度の農學校や蠶業學校の教科用に充つる積りで編著したのであるとは著者の前置きである。多くの蠶業教科書中本書の如きは先づ其體裁を得て居るものと云つて宜しからう、今編を總論以下二十五篇に分ち稍簡に失するの嫌ひはあるけれど、兎に角之に依て養蠶に關する一通りの方法を教へることが出來るのである、而して本書を用ゆるものゝ爲めに教師の採るべき手段方法の大要を示めされたる教授例の如きも、教師其人の爲めに頁き參考たるを失はない。（定價金五拾五錢發行所東京市日本橋馬喰町二丁目一番地興文館）

明治三十九年度稚蠶共同飼育成績　奈良縣刊行

本書は奈良縣で本年奬勵せられた稚蠶共同飼育の成績を收錄せられたものであある、昨年の組合員數六百七十五名であつたのが、本年一躍一千三百八十名に及んだと云ふ同縣の實蹟に徵しても、稚蠶共同飼育の利益が着々當業者に認められつゝあることを知ることが出來るのである、各府縣の當局者も飽迄之れが勸奬に努められんことを望むのである。（非賣品）

寄贈書目

衣笠蠶友會報	第一―二號	衣笠蠶友會
蠶害事情調査報告		福島縣蠶業學校
東京淺草商工會々報	第一―二號	東京淺草商工會
中蒲原郡養蠶々種同業組合事蹟報告	第五回	新潟縣中蒲原郡養蠶々種同業組合
耕地整理施行一覽	第三次	農商務省農務局
商界革新號		三田商業研究會
日本蠶友會報	第十六號	日本蠶友會
農樂談	第一號	農樂談社
齋藤農友會報	第一號	齋藤農友會
道俗	第三號	道俗社
蠶業講義錄	第一期第五號	中央蠶業學會
共同養蠶組合事蹟		愛媛縣第三部
蠶病豫防事務成績	第一號	靜岡縣第三部
明治三十八年度繭及蠶絲類統計表		農商務大臣官房統計課
會報	第六號	帝國農家一致協會
日本農業雜誌	第二卷第四號	讀賣新聞社
實業指針	初卷第三號	帝國實業學會
三田商業界	第二卷第十一號	三田商業研究會
武德誌	第一卷第六號	武德會
大日本農會報	第三〇五號	大日本農會
大日本山林會報	第二八八號	大日本山林會
動物學雜誌	第二一七號	東京動物學會
中央農事報	第八〇號	全國農事會
蠶業新報	第一六四號	蠶業新報社
東洋學藝雜誌	第三〇二號	東京學士會院
教育公報	第三一三號	帝國教育會
染織時報	第二四〇號	大日本織物協會
大日本私立衞生會雜誌	第二八二號	大日本私立衞生會

組織雜誌	第一〇號
兵庫農業會報	第六九號
造酒業界	第六一—七二號
統計集錄	第三〇八號
農事雜報	第一〇三號
學士會月報	第二二五號
工業雜誌	第三五一號
新潟縣農業會報	第三巻第一二號
斯民	第八號
山梨農業時報	第一三號
農業教育	第六五號
京都府農會報	第一七二號
岐阜縣農會報	第一六四號
廣島縣農會報	第三七號
新潟縣農事會報	第三五號
福岡縣農會報	第九一號
横濱貿易月報	第一一月分
月報	第一二二號
大蔵彙報	第二〇六號
何鹿農業月報	第九三號
中外商業新報	第一一月分
生糸日報	第一一月分
防長實業界	第三七號
北海道農會報	第七一號
勝西之蠶業	第一九號
土佐蠶絲時報	第四八號
愛國婦人	第一六號
興農雜誌	第一四三—一四四號
農書月報	第一三號
農業世界	第八號
大日本蚕桑學會	第四五號
兵庫縣蠶業會	第二〇號
外務省通商局	第七號
東京統計協會	第五八號
德島縣農會報	第一三號
農事雜報社	第一〇四號
學士會	島根縣農會
工業雜誌社	Trimestre Tra et Due Sederiziss. No. 1532-1537
新潟縣蠶絲會	Bevers, bebdomadaire Lyonnaise indépendante
報德會	Bollettino di Sericoltura Nos. 36-43 Pubblicata a cura dell'Associazione dell'Industria e del Commercio delle Seta in Italia.
農事雜報社	
學士會	島根縣農會
工業雜誌社	第一〇四號
新潟縣蠶絲會	島根縣農會
報德會	長野縣蠶種同業組合
農事雜報社	長野縣蠶種同業組合
學士會	第一三號
工業雜誌社	第一〇四號
新潟縣蠶絲會	島根縣農會
報德會	第四五號
東京農業教育研究會	第二〇號
岐阜縣農會	第七號
廣島縣農會	第五八號
新潟縣農會	第一三號
福岡縣農會	第一〇四號
横濱商業會議所	島根縣農會
帝國農業一致協會	長野縣蠶種同業組合
何鹿郡蠶業會	博文館
原合名會社	
商況社	
山口縣農會	
北海道農會	
勝西之蠶業社	
土佐蠶絲同志會	
愛國婦人會	
興農團	
東京書籍商組合	

人事彙報

▲佐々木忠次郎氏　本會學藝委員にして農科大學教授なる同氏には從四位に叙せられたり

▲平岡定太郎氏　本會福島支會長にして福島縣知事なる同氏には正五位に叙せられたり

▲馬淵鋭太郎氏　本會山形支會長にして山形縣知事なる同氏には正五位に叙せられたり

▲土居伊太郎氏　本會浦常會員にして高知縣技師なる同氏には從七位に叙せられたり

▲宮川助一氏　本會浦常會員にして茨城縣立農學校教諭なる同氏には三重縣技師に任せられ同縣農事試驗場長拜命年俸百圓下賜せられたり

▲藤本春二氏　本會特別會員なる同氏には福島縣技師に任せられ年俸參拾圓下賜せられたり

▲攝待初郎氏　本會通常會員にして岐阜縣技師なる同氏には年俸千百圓下賜せられたり

▲須田金之助氏　本會學藝委員にして札幌農學校教授なる同氏には高等官六等に陞叙せられたり

▲前田復二郎氏　本會通常會員にして秋田縣北秋田郡長なる同氏には四級俸下賜せられたり

▲西村陸奥夫氏　本會通常會員にて福島縣事務官なる同氏には高等官三等に陞叙せられたり

▲安東潛氏　本會特別會員にして三重縣技師なる同氏には正七位に叙せられたり

▲菊地士之助氏　本會通常會員にして山形縣立置賜農學校長なる同氏には新潟縣中頸城郡立農學校長に轉任八級俸下賜せられたり

▲牧野環氏　本會通常會員にして山梨縣蠶業學校長なりし同氏には山形縣置賜農學校長に轉任せられたり

▲足立元太郎氏　元本會三重支會長なりし同氏には藤田組農業顧問に聘せられたるが在任中の功勞多大なりとし同支會より感謝狀に銀瓶壹個の附與を受けられたり

▲加賀山辰四郎氏　本會監事にして農商務省蠶絲課長なる同氏には高等官三等に陞叙せられたり

▲石居一郎氏　本會學藝委員にして東京蠶業講習所技師なる同氏には高等官五等に陞叙せられたり

▲石川準太郎氏　本會特別會員にして京都蠶業講習所技師なる同氏には高等官六等に陞叙せられたり

▲深野一三氏　本會特別會員にして愛知縣知事なる深野一三氏には正四位に叙せられたり

▲酒匂常明氏　本會副會頭なる同氏には從四位に叙せられたり

▲小倉久氏　本會特別會員にして岐阜縣知事なりし同氏には二豎の犯す處となり此程永眠もらる洵に哀悼の至りに堪へざるなり而して同氏には特旨を以て位一級進められ正四位に叙せられ一級俸下賜せられたり

▲加藤勝三氏　本會地方委員たりし同氏には多年本會の爲めに盡瘁せられ其功績粉からざるが此程病魔の襲ふ處となり藥石其效を奏せず遂に死去せらる洵に痛歎の至りに堪へざるなり

▲野村彦太郎氏　本會學藝委員にして久しく歐洲に留學せられて今奉歸朝せられたる同氏には今回ベビヤ王國大學の推薦に依りて同大學名譽教授となられたり而して同國文部大臣の命令書左の如し

文部大臣

教授彦太郎野村君ハベビヤ王國大學植物病理學員外教授（Lektor honoris causa）ノ學位ヲ得ダノ請願ニ對シ

證名セル適當ノ書類ニ關シ

文部ニ於ケル高等評議會ノ決議ヲ諮問シ

千八百五十九年十一月十三日ノ法律三千七百二十五條ニ照シ及千九百五年八月二十一日ノ勅令ニ由リ裁可セラレタル大學審査法律ニ照シ

千九百三年五月二十八日ノ法律ニ照シ

命令

教授彦太郎野村君ヲ法律上ベビヤ王國大學植物病理學ノリセアル、ドサエノ學ノ資格ヲ有セシム

命令

上記大學ノ組織ハ其命令ノ施行ヲ待セラレタル
千九百六年十月七日勅令ニ於テ

文部大臣自署名

交詢餘錄

●蓙織新器械　群馬縣地方には百八十枚位の蓙を織下す新式器械ありと聞く實況所其他詳細御承知の方は御教示を乞ふ　山形縣東置賜郡沖郷村小野田豊吉

●桑蠶種分讓　本縣特產又昔（佐渡）原種用純良蠶種五千蛾限り實費を以て分讓す要望者往復端書にて照會あれ　鳥取縣岩美郡富桑村山田龍太郎

正誤

第百七十三號長谷川泰氏の人口の増殖と養蠶と題する記事中宮の程度如何とある項（三十九頁十八行目）に佛國は四千四百潛氏撮影の六字を誤脱し同壁二十七貫の補繪を信州岡谷林製糸場とせしは岡谷製場の誤り同號十頁特別廣告中一金一〇圓足澤琢郎君とあるは足澤嗣太郎君の誤植

又同號廣告欄（十八頁）中撰產館廣告二圓以上云々とあるは二十圓以上の誤植に付訂正す

特別廣告

拜啓益御清康奉賀候陳れは去十月二十八日山梨縣甲府市に於て開會の本會臨時總會に於て定欵改正致候に就ては從來の會員は同定欵附則第三十九條に依り第十四條第一項又は第十五條規定の出金をなしたるものと見做し依然會員たる資格を有する義に有之候へ共現在の會員にして會費未納ある者に對しては改正定欵實施前に於て現行定欵第十八條に依り夫々整理を遂くべき筈に有之候間若し會費未納の爲め會員の資格消滅するが如きこと有之候ては甚だ遺憾の次第に有之且一旦會員の資格を失ひ改正定欵實施後（四十年一月一日後）更に入會せらるゝときは定欵に規定せる一時金の納付を要すること、相成可申候條右御了承の上此際御未納相或居候會費至急御送付有之度尚又改正定欵實施後に於ては會報は前金御送付無之ときは發送せざる規定に候間是又御了知相成必す前以て御送付有之度併て此段申進候也

明治三十九年十二月二十日

大日本蠶絲會

當業者の座右一日も缺くべからざる寶典

東京蠶業講習所技師　土屋　泰先生著

明治三十九年二月初版
四月再版
九月三版製本發賣

實驗養蠶法

本書は東京蠶業講習所技師土屋泰先生の著述に係るものにして十數年間西ヶ原に於ける幾多試驗の實績を基礎とし之れに加ふるに先生多年の經驗を以てし且全國各地を巡視せられたる事情に鑑み最も嚴新にして有利なる育蠶の要義と其方法とを懇切叮嚀に何人にも了解し得らるゝ樣詳述せられたるものなり各章常に理論を避け主として方法と順序とを說述せられたるものなれ所故に讀者一たび本書を繙かば恰も面り先生に接して實地に指導を受くるが如き感あらしむるなり寔に當業者の座右一日も缺くべからざる寶典なりとす今や干戈の戰は空前の榮譽を以て萬歲聲裡に終結し將に平和の戰爭酣ならんとするに際す此秋に當り繭出品の巨擘たる蠶絲の產出に從事せらるゝ養蠶家諸賢本書の記する所に則り其指示する所に從ひ養蠶法の改善に努め以て蠶絲の増殖を圖られなば更らに光榮ある平和の戰捷を期すること難からざべし幸に御愛讀あらんことを

全一冊　總クロース金文字入洋裝美本　小包郵稅金十錢　定價金七十錢

東京蠶業講習所講師坪井啓作先生著
實驗フォルマリン鹽定法　實價金三十錢　郵稅金四錢

前東京蠶業講習所技師農學士廣瀨次郎先生著
養蠶教示　實價金卅五錢　郵稅金六錢

桑樹高田刈仕立元祖高田重右衛門先生訂正金成金先生編
實驗桑樹栽培改良法　實價金六十錢　郵稅金八錢

農學士廣瀨次郎先生著
實驗蠶體生理　實價金一圓　小包稅十錢

發兌元　東京市神田區美土代町三丁目十四番地　明文堂

短期講習會の最適教科書

農蠶業學校生徒諸君の最良參考書

魯桑 種子並に實生苗の本場たる 土佐國中土佐 苗木仕立の最も好適地たる 野市村

我土佐國に於ける各種桑苗が漸次に益々内外の好評を博し之れが生産は常に其需用に伴ふ能はざるの實況あるは特に顯著なる事實にして且つ近年各府縣を通じ桑園増殖の計畫施設せらるゝと共に本縣の特產たる魯桑種子並に實生苗の如きは俄然急激なる多額の需用に接するに至れり此に本會社を組織せる各社員は孰れも多年桑樹種苗の生產販賣を以て其の專業となし幸に内外需用者各位の愛顧を忝ふすると久し今や時勢の要求に對し大に感奮する所あり相謀つて此に本會社を設立し今春來既に應分の設備を整へ着々業務の擴張を期圖し純良正確の種苗を撰擇し最も廉價に之を供給して以て年來深厚なる各位の恩顧に酬ひ併せて一層本縣桑樹種苗に對する既得の名聲を完ふせんことを期す希くは全國當局各位に倍舊の愛顧を賜らんことを

（苗木の精撰）

苗木は總て本會社に於て究分の責任を負ひ仕立中に於て嚴密に査察留意し其純良と強健なることを保證す

（發送の安全）

苗木の荷造發送方に付ては且多年の經驗に由り最周到なる手段を以て遠隔地方にても安全の到着を期す

本會社營業品目

◉魯桑實生苗
◉魯桑種子
◉魯桑接木苗
◉其他接木桑苗各種

土佐特產 魯桑實生苗

○苗木之價格 は御照會の次第早速詳細御回答可致多數の御注文に對しては大に勉強勘引可仕候

○苗木之引渡 は御注文の順序により最も迅速に御引渡し可申上候

○苗木之發送 は本會社に於て確實なる運送會社に托し汽船又は汽車便を以て迅速に發送方取計可致候就ては御注文の際可成其荷揚所、仕向港名、驛名、取扱運送店名等を御指示被遣度候

○苗木之運賃 は苗木の大小運送の便否等により不同なる故御申越に應じ早速取調御回答可仕候

○苗木之種別 大小等により區別あり詳細は御問合により明細御回答可仕候

○苗木之代金 郵便爲換は土佐野市局、銀行爲換は土佐高知國銀行の内へ御振込願上候

○其他 魯桑實生苗の生產販賣方に關しては御問合により何なりとも早速御回答可仕候

（注意）

一、本會社營業品に關する事項は御問合に應じ早速御回答可申上候
一、本會社に對する御照會は宛所會社名等明瞭に御記入願上候

小生儀多年桑樹種苗生產販賣を以て專業となし一意正實と廉價とを旨とし江湖各位の優渥なる恩顧により幸に漸次に營務を擴張致居候處今般同業有志者と相謀り野市苗木改良合名會社を組織仕り候につきては今後同會社内にありて一層勉強仕り種苗の改良撰擇等充分の實の擧り候樣各位の御援助相謀り可申候間何卒御用命の程伏して希上候

香美郡野市村東野 佐野常吉 謹白

高知縣香美郡 無限責任 野市苗木改良合名會社 電略「ノコ」 野市村字東野

特許

譽田式乾燥器

○本式の效用著大なるは多くの顧客何れも激賞する處にして漸く天下の人目を惹き多數の注文を受くるに至りしは本式の光榮とする處なり

○本式は嶄新なる覆板式の裝置なるが故火災の患なく鐵類の腐蝕、乾燥不均一、等の欠點なく火熱乾燥の通弊を遺憾なく除去したり

○本式は燃料の少なき事實に驚くべく而かも容易に二百度以上の高熱度に昇し得、復た數分間に低熱に降し得る等調節管の作用にて自由自在なり

一室五石入 一晝夜三回	全乾燥一回七時間	一晝夜工程十五石	鐵具一式	代價參百圓
一室四石入 一晝夜三回	全乾燥一回七時間	一晝夜工程十二石	鐵具一式	代價貳百八拾圓

説明書御申越次第進呈

橫濱市辨天通六丁目百四番地

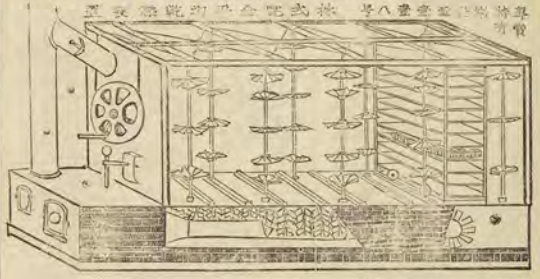
特許譽田式乾燥器販賣所

拾年間一貫之趣旨

光澤解舒良好にして死能り繭の繊出なきは温度の低き熱空氣に觸れしむるを以て唯一の主眼とするに依る

此目的を達するには空氣交換作用甚の爲め多量なる熱量を要す隨て其結果焚口の龜裂焔管錆解保存期限の短縮火災の危害等を生す

林式は四回の專賣特許にて前項の弊害を全く除却し完全に其目的を達したり



專賣特許第二六號

完全均熱乾燥裝置

出願人 林 庫次郎

本願裝置ハ其構成甚ダ巧智ナルモノニシテ平等乾燥上特徴アルモノト認ム可キモノニシテ正ニ發明タルベキモノトス而シテ本發明前同一發明ノ存在ヲ認メザルガ故ニ本願ハ特許法第一條ニ規定シタル最先ノ發明ニシテ適法ナルモノト認ム本願ニ對シテハ査定特許ヲ與フベキモノトス

明治三十九年十月十五日

特許審査官 塚本信次 ㊞

特許審査官 織田了 ㊞

東京市芝區三田豐岡町壹番地

林工場主 林庫次郎

電話新橋千九百五十四番

◉四十年式消毒器及フオルマリン發賣廣告

◉大改良保險付四十年式最強噴霧器改良噴霧口豊個噴霧用ゴム管十二呎附 壹個正價金六圓

◉大改良四十年式輕便蒸發消毒器（一名小四號壹具正價金拾三圓五十錢）乙號壹具正價金拾圓

右噴霧器及蒸發消毒器に關する詳細説明書、使用法及定價表等は御申越次第進呈可仕候

本器には安全罐の裝置あり

◉新輸入元封純四十%含有フオルマリン液

三十キロ（六十六磅）入 壹磅の含有量壹%に付壹錢

二十キロ（四十四磅）入 以内にて御需用に可應候

尚十キロ（貳十貳磅）入も多數入荷有之候

今回新輸入の元封純四十%のものは東京蠶業講習所に於て分析し所優に三七、一%を含有なるを表する爲各位節購入の際検定を受けられ其成績の結果實際含有したるものの有之候ては弊店が發賣の公明東京蠶業講習所各官廳の候就せるプロセン基き前記の價格即壹%壹錢以内にて差上可申候間時季切迫せざる今の内に詳申込被下度候

トに可申候間各位の御便利を計り代金の十分の一捕込にて孫約の便法も有之候、詳細は御照會次第御回報可申候

迅速購入

◉販賣品詳細目錄及定價表は御申越次第直に送附可致候

東京下谷東黒門町二十九番地

蠶病消毒器元祖 農商務省東京蠶業講習所 御用達 紙本商店

丼に諸官廳各農蠶學校

附言 來春上野公園に開催せらるゝ東京博覽會の好機も有之事、什候店臨時營業部を右所書の所へ移し層一層の勉强と誠實とを以て營業能在候間爾後は同店へ御用命有之度候也

新河村式消毒用噴霧器販賣廣告

本器は如何に構造堅牢使用輕便價廉にして而も其成蹟佳良なるかは大方の公評認知せらるゝ處なり從て曩日農商務省に開設せられし各府縣勸業主任會に於てすら當局大家の講話にも目下我邦にありて蠶病消毒器中其首位を占むるものは河村式強力噴霧器なりとの事口頭に上り以來聲價倍々揚がり需用頓に加はり既に昨春の如きは高評の揚がり注文過多に對して遂に缺品を生じ遺憾なりが十に一の比例に缺乏を告げ遺憾者なるの悲を來せり是皆諸彦の御愛顧優渥なるに詫ぶ外なし現ならず製品の信用漸く豈に至り模造する續々出る實否如何に目今論なく只管其形式を窃用し種々の姦手段を以て靠客を悲嘆に陥るの多しの比例に多し此際本器の優良なる品質を以て汎く御高需に應せんとす希くは倍舊の御愛顧を賜はらんことを

特許實用新案 實用力噴霧器

●改良二ツ口自働噴霧器　金六圓八拾錢
●普通製　金五圓五拾錢
●布入ゴムホース六尺金具附金壹圓貳拾錢
●消毒用フォルマリン各種（相場時々變動ヨリ御相談申ス乞ム）

他其

以上各品共一時に多數御購用の向は特別大割引可仕候也

備後國福山新町裏通り

河村工場

製絲機械器具並蠶業器具一式
其他諸機械製作

發電略號（カワコ）
（本場製品銘入の偽造品に注意し特に六十錢種の偽品に御入用の御方は往復はがきにて御申込を乞ム）

受領 大日本蠶絲會第八回品評會銀杯

●有効銀牌　●進歩銅牌　●二等褒狀　●有効牌

特許 新案 百木式噴霧器改良謹告

改良百木式噴霧器使用ノ圖

受領

第四回内國勸業博覽會　進歩銀牌
第四回内國勸業博覽會　進歩賞牌
第五回内國勸業博覽會　金賞牌
第五回内國勸業博覽會　參等賞牌
第六回内國勸業博覽會　壹等賞牌
大日本蠶絲會第八回品評會　貳等賞銀杯

特許新案 百木式噴霧器ハ卅九年七月以以前共噴霧口ニ特徴ヲ有スル等大改良ヲナシタルヲ以テ實ニ輕便且堅牢無比トナレリ

現今蠶業界農業界ニ於テ輕便且ツ堅牢無比ヲ以テ大ニ賞揚セラレツヽアル噴霧器ハ改良百木式足踏噴霧器ナリ

●實用新案 百木式農業撰種用比重計

其他各種鹽類比重計乾濕計及諸器械等總て發賣致於候間多少に不拘諸種御用命之程偏に奉願候

●消毒用 純粉 フォルマリン液

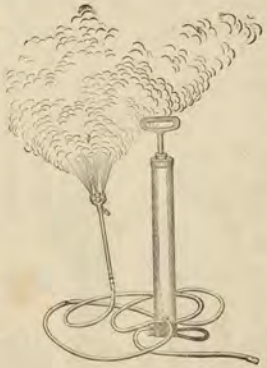
本品は當所の專賣品にして輸入品に必ず發賣致候間智所に出して それが迂遠分有々諸のひの其眞品と云ふ上の如き故に注意致候間 其他 各種 品共 正確なること 既に世上の公認せる 處なり 最も 整理 行き 届 き 多 に して 正確 なること 既に 世上 の 公認 せる 處 なり

其他各種 各商店 品 共 正確 なること 既に 世上 の 公認 せる 處 なり

機械器具 硝子 器 各種 各種 各種

◉進木式實用噴霧器大改良廣告◉

進木式實用噴霧器の堅牢完全にして實用に適切たるは既に天下の公認せらるゝ處たり加ふるに昨三拾八年八月以降外筒氣室ピストン脚部其他各局部の大改良を加へ益々完全無欠實用無比の良器となるに至れり



今や季節に際し機遇するなく御贈入あらんことを昨春の如きは實用適切にして成蹟佳良價廉なるの高評を以て實に過多の注文に接し遂に製品に欠乏を告げ其だしきに至りては三十に對し僅々六七の個を以て漸く需めを詫ぶるの不得止の遺憾を來せり當春は大に之れに鑑み如斯遺憾なからんことを期す希くは倍當の愛顧あらんことを

詳細說明書一報次第呈す

價格

◉進木式實用噴霧器三方噴出口 附着 一臺金七圓五拾錢
◉同上 害虫驅防除用 一臺金七圓五拾錢
◉四方噴出口 ホース六尺附着附 一ケ金壹圓
◉噴用布入ゴムホース接金附 一節六尺 金壹圓
◉小包送料參拾五錢 伯州倉吉局
多數御購入の向へは御引可申特に大日本蠶絲會員諸君へは特別割引可申

伯州倉吉町

進木工場

（發電局號 シンキ）

最新發明學理應用實驗良績

特許佐藤式乾桑器

◉本器は東京蠶業講習所講師三谷徹先生及同所講師松下憲三郎先生の嚴密なる鑑査訂正を經たるものなり

◉本器は本年九月廿五日農商務省特許局に於て特許すべきものと査定せられ第一一〇〇六號を以て特許原簿に登錄せられたり

◉本器は過般埼玉縣大和田町細沼政吉方及び東京府千駄ヶ谷村（新宿停車場傍）竹村政吉に建設し秋繭を實地乾燥して其成績最佳良なるを認めたり

◉本器は火熱乾燥式にして危險の惧なく價額低廉最經濟的を主眼とし乾燥に際しても室内空氣を攪拌し又は運轉等を要せざるを以て此等に要する動力は一切不用なり

◉本器は室内に於ける熱の分布佳良にして溫度は極めて均一に保ち得られ、給氣作用及排氣作用完全に行はれて生繭を八時間に乾燥し然も乾燥に過不及なし、而して其乾繭は光澤を損せず解舒極めて佳良なるは實驗者の驚嘆する所なり

發賣所 東京市下谷區上杉町一番地 佐藤商會

特許證主 佐藤熊治

過般貴縣出張の際は種々御厚情に預り感謝の至りに不堪候本月五日無事歸京致候間誌上を以て御禮申上候敬具

明治三十九年十二月

大日本蠶絲會
會頭 男爵 松平正直
書記 澁谷典二

宮城縣

大日本蠶絲會員
並有志諸君 御中

秋蠶種需要者と社友諸君に謹謝す

本年之秋蠶業は果然多大の發展をなし各府縣蠶家は秋蠶種製造の實地を視察し共同購入を申込に至れり之れ予輩の理想として唱道せし實現にして斯業上の一進歩と認むべし殊に其結果豫期の如く繭量一反に對し三貫餘の收繭あり飼育家を滿足せしむる事を得たは本社の幸榮とする所なり謹んで諸君の熱誠なる看顧を感謝し帝國蠶業界のため益々勇健を祈る

◎二化蠶原種用　大白龍 千代鶴 其他 數種
右本社夏秋蠶原種餘分あり御入用の方は一蛾につき三錢の割合を以て送金此際御注文を乞ふ

長野縣東筑摩郡本郷村横田松本郵便局下
信蠶社　主幹　鳥羽久吾

廣告依頼者に稟告

本會々報廣告料表紙裏面料金表の通改正し明年一月より施行致候條此段稟告候也

明治三十九年十二月

大日本蠶絲會

東京蠶業講習所試驗飼育の標準

春夏秋蠶蟻量壹匁飼育標準表

壹枚金壹錢
郵税拾八枚迄
毎に金貳錢

大日本蠶絲會

◎精良春蠶種販賣廣告

●冥白一名鳥村長大巢　一升二百二三十顆
●大巢白龍　大巢　一升二百顆内外
●大　又　中巢　一升二百五六十顆
●丸　志保　中巢　一升二百六七十顆
●改良又昔　長中巢　一升二百五六十顆
●白玉一名白姫蠶中巢　一升二百五十顆

前掲蠶種は天理の原則に法り自然の道理に基き大氣の清通を旨として四十餘日間利根川沿岸の良桑を以て飼育し殊に精巧の顯微鏡撰種法とトリラー式消毒法とを以て專ら日進の學術を應用し病毒を除き抗疫性に富む完全純良の蠶種に御庶幾猶種類の義は多年の經驗を以て飼育し易く繭質善良繊維均一絲量最も多きものを改良撰擇せしものに御座候間多少に不拘御試育相願度此段養蚕家諸君へ拝告仕候

代價金壹平附壹枚　金壹圓四拾錢　●框製壹枚生金貳錢五厘

割引●平附拾枚原種用壹千餘以上壹割引●農會其の他團體等に於て一手に多數御購求の節は特別に御相談可仕候

●郵便爲替は上野國佐波郡鳥村局へ御振込みのこと

●蠶種郵送料箱代は幣園の負擔に候也

桑柘園　群馬縣佐波郡鳥村勸業社
田島彌平蠶事部

特許蠶上簇藁折疊機　專賣

一個　定價金六圓
（五個以上割引あり）

右器械を用ゆれば藁三たけを接續し得て一個となし一日に四百個以上五百個を製作し得るなり之を從來の手折に比すれば四人前以上の手間を省き蠶箔一枚は一個にて足り藁を元費せず能く筋目の正しく整然たるか故箔上に布列するに倒るゝの患なく手數殆ど三倍を減じ特に玉汚繭等至て少し且つ器械の重量僅か二貫五六百目なれば運搬自在にして婦女子と雖も容易に使用し得べき輕便堅牢の器にして實に方今に於ける養蠶上一大好發明たることを疑はず其效用に至ては片紙の能く盡し得べきにあらざれば各位速に需められ浪費を省きて經濟上の利得を計られん事を奉冀上候誌具

信州下伊那郡下川路村
製造發賣本舗　國益社
電信略號〇エキ

春秋蠶種販賣廣告（商標金兜）

一、春蠶種　又昔　一升顆數二百三四十粒 絲量豐富解舒佳良 一升顆數二百二三十粒 資質强健收穫多量

一、風穴秋蠶種　白龍　但五月より八月迄出穴貴需に應じ候

一、代價（原種用框製 百蛾分 二圓五十錢　製絲用框製 百蛾分 二圓　全面付普通製 一枚 一圓五十錢）

明治初年故長野濬平舊熊本藩主細川侯爵に建白し藩內に九ヶ所の養蠶試驗所を設置せるに際し本部を當社現今の所在地にトし爾來參拾有餘年養蠶に製絲に其業跡を擴張し目今蠶業隆運の大勢に遭遇し聊か初一念を報ゆるの秋に近けり

明治九年同志と秋蠶社を組織し肥前國島原溫泉岳風穴に秋蠶種貯藏の業を開始す

同廿六年熊本製絲合資會社設立に際し一般原料繭改善の必要を唱道して養蠶部を獨立經營となし續て當會社を組織し同卅五年熊本製絲株式會社（三十九年度蠶種三百個に殖加）組織后愈々兩業連接の必要を感じ當社の業務を擴張し關西斯業の雄鎭として廣く天下の同志と提携し益々當業の發達に貢獻せむことを期す

熊本製絲株式會社の生絲が橫濱埠頭第一位の高價を占有するの事實は當社製種より產出する原料が如何に優越なるかを立證する者なり

無限責任　熊本縣飽託郡大江村演武場　合名會社 長野製種組（熊本市坪井郵便電信局管內）（電信略號ナ又はナガ）

春秋蠶種販賣廣告

一、春蠶種　又昔　一升顆數二百十五 絲質優美解舒良好 一升顆數二百卅五 飼育容易收穫多量

一、風穴秋蠶種　白龍　但五月より八月迄臨時出穴貴需に應ず

代價（原種用框製 百蛾分 二圓五十錢　製絲用框製 百蛾分 二圓　同 全面附 一枚 一圓五十錢）

一明治三十三年六月五日熊本縣德久知事より功勞賞として木盃一組下賜ありたり

一明治三十九年四月一日松岡農商務大臣より功勞賞として金貳拾圓下賜ありたり

一明治九年一月居を當地に移し故長野濬平に從ひ養蠶術を傳習輸出蠶種を製造し爾來卅有餘年專心一意蠶種製造に從事したり

一明治九年一月富岡製絲所長淳尾忠氏の指導によつて縣下の同志卅餘名と團結秋蠶社を設立し縣下の高山數ヶ所肥前國溫泉嶽の風穴を發見して春蠶種を貯藏したるに貯藏箱の不完全なる爲め十年迄は濕氣の害を受け失敗に歸したり十一年度には內外の二重箱を造り其間隙四方二寸餘の處に粉糠を詰め溫氣を防ぐ爲め其外箱を藁張して一月末旬風穴に貯藏し八月十日出穴したるに發生に異狀なく發育良好に之れありたり爾來如上の通にて貯藏し來りたるに十八年度に至て不幸にして秋蠶社を解散するの悲運に遭遇したれども生は信ずる所あつて酷苦經營斯業を今日迄接續したり

大日本蠶絲會地方委員　熊本縣飽託郡大江村元演武場　弘蠶館　古莊之（熊本坪井郵便局區內）（電信略號フ又はフル）

土佐特產 魯桑實生桑

謹啓 陳は江湖各位の深厚なる御愛顧を蒙ふし業務日增に擴張致候段奉鳴謝の至りに有之候然るに昨年以來本縣特產の魯桑種子並に實生苗が大に全國の信用を博し續々需用せらるゝに際し動もすれば不正の商人其間に顯はれ粗惡雜駁の品を供給して需用者各位を迷はし延ひて本縣特產の信用を傷ふものあるよりして當局其他有志諸氏より弊店に於て之れが取扱を開始せんことを勸告せらるゝ少からず依て今春來斷然決心仕り弊店內に種苗部を特設し直營の園圃は勿論其他博く特約桑園に就き最も嚴密なる監督をなし不取敢大方各位よりの御高需に對し本年夏季中精撰魯桑種子の販賣取扱をなせるもの凡そ十石餘に上り而して其成蹟幸に孰れも良好なりし趣を以て態々謝狀を寄せられたるもの尠からざるは弊店の大に光榮とする所に御座候尙弊店よりは東西兩蠶講習所を始め其他各農蠶學校農事試驗場等へは大抵少量づゝ種子配呈御試驗相願置候につき自然御時ね後遺候はゞ其成蹟判然可仕儀と存候就ては今後種苗部の業務一層擴張仕り諸般の準備相整ひ候につき魯桑實生苗につきては此上益々各位の御便益相謀り正確と廉價とを勉め御高需に應じ可申候間續々御用命之程偏に奉希上候

明治三十九年十一月

公文商店　店主　公文慶吉　敬白

販賣取扱之要項

● 御申込期限　本年十二月末日迄に御申込を乞ふ本部直營並に特約苗圃とも苗木に限りあり或は期限內にても品切れとなるやも計られざる故可成早く御申込を望む

● 申込保證金　御注文と同時に一萬本につき金六圓宛の保證金を申受く但し諸官衙、學校、試驗場、農會、蠶絲業組合其他公共團體よりの御注文には保證金を要せず

● 苗木之價格　苗木の大小により直別あり且つ時價にも多少の變動ある故御申込次第早速詳細御答仕るべく候

● 發荷之順序　苗木御注文を受けたるときは十一月末より掘取を始め御注文の順序によりて最も迅速に發荷可仕候

● 發送之方法　苗木發荷の方法は內國通運會社取引店に托し汽車若くは汽船便を以て最も迅速の取計可仕候故に其荷扱所、同滯店、着驛、取扱運送店名等は豫め御通知下されたく候

● 運送之料金　苗木運送の料金は實費額だけ申受候但し苗木の種別送達の差違により素より不同に付御申越に際し早速取調べ申上べく候

● 送金之方法　代金御間送の節は土佐、高知第三十七銀行宛か又た土佐國野市郵便局宛にて願上候振込名宛人は「高知縣香美郡野市村公文商店主公文慶吉」と御記入を乞ふ

● 苗木に對する責任　公文種苗部取扱の苗木は其正確にして雜種なきことを保證仕り候萬一雜種の混入せることありたるときは諸官衙、學校、試驗場、農會、蠶絲業組合等よりの御通知に對しては之に責任を負ひ苗木代金の返戾又は明年度に其取換苗木の發送にても御指定通り取計ひ申可候但し御通知は必ず明年六月三十日迄に相願候

● 各種類接苗　公文種苗部にては魯桑實生苗の外各種類の接苗も同様最も正確廉價に取扱致居候間是非併せて御高需願上候

● 其他苗木に係る事項　につきては御問合に對し何にても早速御回答可申上候間御遠慮なく御申越被遣度候

高知縣第三部御用達　高知縣立農事試驗場御用達　高知縣立農林學校御用達
高知縣蠶絲同業組合御用達　高知縣農會御用達　土佐蠶絲業同志會御用達

高知縣香美郡野市村（發電略語「クモ」）

公文商店種苗部

構造完全交通便利

○當風穴は四十年來の歴史を有する最も古き創設に係はり無盡の鑛石安山岩石層は乾燥せる寒風を吹き出し三伏盛夏の候と雖とも容易に華氏四十度以下の温度を保ち眞に天惠の風穴好適地たり然れとも舊來の構造は其規模小にして多數の蠶種貯藏に適せす因て今回更に株式會社組織となし規模を擴張し其構造法は東京蠶業講習所長小縣甲種蠶業學校長長野測候所長等の協賛を得て學理に照し實驗に徴し遺憾なき大改築を行ひたり貯藏御希望の諸君は一たび御實査の上多少に係はらず御試みあらん事を乞ふ

蠶種貯藏 別所風穴大改築廣告

○當風穴所在地は信越鐵道線上田驛より西南三里(馬車道)別所郵便局市内なるを以て電報郵便の發着迅速なり又鐵道便のものは上田停車場前に特に當風穴荷物取扱所を設けて迅速懇切の取扱をなす

○貯藏蠶種受附期は毎年十二月より翌年二月限りとす貯藏料金其他詳細なる規定等は御照會次第回答す

信州小縣郡別所村 別所風穴株式會社(發電略號○フ) 主任 倉澤運平 倉澤善右衛門

取扱迅速懇切

土佐特産魯桑實生苗の正確な供給

我土佐國が魯桑種子並に其實生苗の特産地なることは既に全國各府縣の等しく認識せらるゝ所にして近年各府縣に在りて戰後の經營上桑園增殖に關し頻々其施設を見るに至りたると共に急激なる需用は忽ち本縣下に向つて集注し來り現に本年夏季に於て本商會に於て販賣の取扱をなせる魯桑種子のみを以てするも實に十石以上に上り尚引續き他額の注文に接したるも本商會に於て精良と認むる種子のみ全く拂底となれるがため爾後總て之れを謝絶するの已むを得ざるに至りたるは特に遺憾とせる所なりと雖も本商會の紹介販賣せる魯桑種子が挑れも品質精良系統純粹にして且其生育の模樣頗よる他に優絶せるものありたるは之を試播せられたる各位の共に實驗せられたる所にして本商會に對し特に謝狀を寄せられたるもの亦尠からず是れ主として本縣産魯桑種子の特性に基ひするは勿論の時機に際し本商會は既に之れに對し應分の準備をなし其の直營の苗圃は勿論其他特約紹介に係る苗圃に就き其仕立中に在りて時に嚴密なる査察を遂げ爲れも目下頗る良好なる生育を遂げつゝあるを以て過般魯桑種子の取扱をなせると同じく充分の責任を負ひ『確實』と『廉價』なる本商會の主義に基ひ決して江湖需用各位の深厚なる信頼に負からざらんことを期す希くは益々高需を賜はらんことを

苗木と其種代別價

◎一年生	一尺五寸以上	金 貳圓
◎同	三尺以上	同 金貳圓五拾錢
◎同	四尺以上	同 金 四 圓

◎印苗は一尺五寸以上三尺迄引
◎印苗は二尺以上四尺迄引
◎印苗は四尺以上は三尺迄引
◎印苗は其本商會相當の値段を以て別に申受く

土佐特産 魯桑實生苗

申込と保證期限金

◎需用御申込期限本年十二月末日限り
但し需用者の都合により期限内なるも期限内にても調査することあるべきにつき可成早く御申込を乞ふ
◎御申込と同時に保證金として代價五分の一の金員を申受け現品引渡の際殘額を申受く
但し保證金は現品引渡の際殘額を申受く
◎當會は其他公共團體よりの御申込に限り保證金なき者ゆ

土本 佐町 國二 高丁 知北 市側

土佐蠶業商會 主幹 幹事 電略 明神 『ンサ』 武雄

天下獨特の設備

夏秋蠶原種

檢査結了せし處豫期の如く極めて好成蹟にして本郡蠶病豫防事務所中第一等の成蹟なりと青木所長始め吏員一同の喝賞する處なり之れ本社が天下獨特の設備と飼育術とによる所以にして殊に要素たる步桑は奈良井川淵岸に五拾余町步を有す砂質壤土にして施肥耕耘の周到なるは尤も種繭飼桑に好適す幾多養蠶家諸士よ斯る良種を需め豐作を得て自己を利し併せ國を益されんことを

夏秋蠶原種

名稱、大白龍、千代鶴、中黑、日本錦其他數種

定價 原種用檢査濟一蛾金武錢（但し十二月末日迄の申込）製絲用全面付金壹圓卅錢（に限る以後は原價に復す）

長野縣東筑摩郡松本村

各府縣郡村長會蠶種用達

信州村山社本部

信州產桑苗木廣告

戰後の財政は蠶業の發展に待つ甚だ大なりと眞口同音に唱導するは宜なり蠶業の發展を希圖せんには其要素たる桑園の改良增殖を計らざるべからず本社は茲に見るあり十數年間栽培の結果優良なる大桑苗を仕立あれば希望者には斯業奬勵のため左の實費にて差上べし

殊に信州は桑國なるを以て何地へ移植しても無病健全發育尤も良好にして收業多し

●夏秋蠶用大葉桑苗一年生代出し

極上等四尺以上一千本　原價　七　圓
上　等三尺以上一千本　同　六　圓

●非蠶用又は種繭用最返し

極上等四尺以上一千本　原價　七　圓
上　等三尺以上同　同　六　圓
其他鼠桑接木、實生苗、等各種

●代金は注文と同時に信州松本局へ御拂込を乞よ

長野縣東筑摩郡松本村

村山社苗木部

●種子苗木は總て寒國より移植せざる可らず

●親愛なる會員諸士に是非共御飼育を乞はねばならぬ精良蠶種

九州蠶種家之泰斗

●功勞賞盃　日本農民會々務報賞蠶絲業改良に貢獻せし功勞により會頭從三位前田正名君より授與の榮を荷ふ

●壹等賞金牌　九州沖縄八縣聯合共進會に於て農商務大臣從二位勳一等松岡康毅君より授與の榮を荷ふ

良精蠶種豫約販賣廣告

◎春蠶種

又	青	一升	二百四十粒
赤	小	一升	二百一十粒
石	丸	一升	二百五十粒
熟	熟	一升	二百一十粒

◎風穴夏秋蠶種

改良	白	一升	二百三十四粒
長巢	龍	一升	二百四十粒
又	昔	一升	二百二十粒

（發生は何時にても隨意溫泉岳風穴貯藏）

◎代　價

（極製原種用全面附一枚金六拾五錢　金壹圓五拾錢）
多數共同購入は割引あり

本場製蠶種は各種共場主右田直三郎學に農蠶學を專攻せし時撰拔せし種類にして農科大學卒業以來茲に拾有貳年間新進の學理と熟練なる技術とを以て生物界に於ける遺傳の原則に鑑み淘汰を加へるものなれば蠶質强健にして飼育最も容易絲量饒多纖度均齊解舒佳良光澤優美にして形狀好適なり多少に拘らず豫約御申込み御飼育の上豐穰を得て都家富力の充實を計られんことを戰後實業家の責務として茲に奉希望候

熊本縣鹿本郡菱形村

右　田　農　場

（肥後國植木郵便局區內）

健全發育蠶種分讓廣告

◎春蠶種

又	青	一升	二百四十五粒
赤大形	小	一升	二百一十粒
石	丸	一升	二百五十粒
又	昔	一升	二百二十粒
熟	熟	一升	二百一十粒

◎風穴夏秋蠶種

改良長巢	白	一升	二百三十四粒
又	昔	一升	二百四十粒
龍	龍	一升	二百二十粒

（發生は何時にても隨意溫泉岳風穴貯藏）

◎實　費

（極製原種用全面附一枚金六拾錢　金壹圓五拾錢）

本社製蠶種は各種共多年系統的壹蠶飼育の撰擇により特撰せし純粹種にして過眞健全飼育容易或繭優美にして細綿かつ絲量多く光澤舒解佳良なり多少に拘らず豫約御申込み御試育あらんことを

熊本縣鹿本郡山本村

弘盛社蠶業講習所

所長　細谷久一郎

熊本縣鹿本郡菱形村（九鐵植木停車場ノ西方十丁）

弘盛社事務所

名譽金銀賞牌拜受主幹　細谷久一郎

（福岡縣久留米市東櫛原町四百九三番地）

病毒更に無し

土佐本場 魯桑實生苗並に接苗販賣弘告

本縣の風土氣候は恰も善く桑樹の栽培に適し而して適者生存の結果現に魯桑は約其八割を占め之れが實生苗並に接苗とも其仕立方法に於て多年の經驗上一種獨得の長所を有しつゝあるは思ふに世人の已に認識せる所にして且つ我野市村が此の魯桑苗の本場たる本縣下にありて更に其苗木仕立の中心地となり年々多額の生產をなし夙に野市苗の聲譽を江湖に宣傳しつゝあることも亦決して贅言を須たざる所とす然るに今や戰後經營上益々蠶絲業の勃興を促するの時に際し各府縣とも競ふて桑園增殖を企劃し之れが奬勵誘導を勉めらるゝ爲めに苗木の需用頓に增加せると共に世の所謂苗木商なるもの此機に乘じ慢りに粗雜不良の苗木を賣却して以て一時の奇利を博せんとするものあるは最も遺憾とすべき所とす是に於て本村の當業者は共に相團結し產業組合法に準據して新に本組合を設立し益々苗木の改良增殖を圖り嚮つて確實廉價を勉め縣內外の需用に應し以て魯桑實生苗並に接苗の本場たる名聲を完ふせんことを期す希くは全國蠶界の諸彥卒に本組合微衷の在る所を諒し[illegible]々高需の榮を賜らんことを此に謹て啓白す

明治三十九年十一月

高知縣香美郡野市村役場內

有限責任 野市村桑苗生產販賣組合

組長 遠藤春正

桑苗需用の注意

目今魯桑實生苗の需用夥多なるに當り世の所謂苗木仲買商人等にありては[illegible]魯桑實生苗の偽種實生苗と一見識別し難きを奇貨とし動もすれば之を混交し以て需用者を欺き暴利を貪らんとするものありと聞く抑も魯桑實生苗は樹質强健、收葉多量葉質善美等の特性あるがため賞讃せらるゝものなるも其他の雜種に至りては此等の特性を具へざるが故に若し此等雜種を購入栽植せらるゝときは其發育生長不整なるのみならず折角の收利を得ざるに至らん故に本組合は斷然此等の弊害を掃蕩し仕立中にありて嚴密なる査察をなし品質を精選し必ず江湖の信賴に背かざらんことを期す故に希望の方は季節切迫せざる前に於て直接本組合へ御申込あらんことを乞ふ

桑苗販賣の手續

一、需用の方は本年十二月末日迄に御申込ありたし仕立苗木に限りあり且つ既に豫約の方も尠からざるにより期日以前と雖ども品切れとなることもあるべきにより成るべく早く申込まれたし

一、苗木引渡期日は申込の順序により漸次に發送し翌春栽植季節迄には必ず終了す

一、需用御申込の際保證金として實生苗は一萬本每に金三圓接苗は一千本每に金三圓の割合に申受け候品引渡の際其殘額を御支拂相成度事
但シ官衙、學校、試驗場、農會其他公共團體ヨリノ御申込ニハ保證金ヲ要セズ

一、苗木の價格は御照會を受けたるときは詳細に回答すべし要するに最も廉價を勉むることは此に證言しおく所なり

一、多額ノ御申込ニ對シテハ特別ニ割引法ヲ設クベシ

荷造發送の方法

一、苗木の荷造は通常藁包法に據る然し遠國より多額の御注文あるときは時として途中發熱等の虞ある故本組合にては從來の經驗に徵し特に注意して最も安全の方法を用ゆべし

一、本組合員の生產苗木たることを證するため接苗は百本以上、實生苗は一千本以上に限り特に保證票を附す

一、發送ノ方法ハ內國通運會社取引店ヘ托シ汽船又ハ汽車便ヲ以テ發送スルガ故ニ豫メ荷揚所、回漕店、着驛、取扱運送店名ヲ御詳知下度事
運送料ハ苗木ノ大小多少運送ノ便否ニヨリ豫メ定メ難キヲ以テ御申込ノ際早速取調ベ御通知可申上事 但シ荷造料ハ不申受候

送金の方法

一、銀行爲換は土佐、高知兩銀行の內へ、郵便爲換は土佐國野市局宛に御振込相成度候

見ヨ

本場 肥後蠶種特徵

病毒皆無產卵多量繭形豐美にして絲量多く而も價の廉なるは天下既に定論あり

◉春蠶種 肥後又昔

◉風穴種 長形白龍

代價（原種用百蛾）金貳圓

（全面付一枚）金壹圓五十錢

熊本縣鹿本郡米田村
肥後盛蠶社
主幹 松田良藏

熊本縣鹿本郡米野岳村
酒井蠶業講習所
所長 酒井新藏

見ヨ

肥後國山鹿郵便電信局區內

我熊本縣蠶種の精良なるは今春佐賀市に開會の第十二回九州沖縄八縣聯合共進會に於て本縣より繭壹等受賞者の半數以上を出したるに徴するも如何に繭質の優良なるかを察し得べく又本年の製造額は原種用種五百萬蛾製絲用種貳萬枚にして製絲用種に對し二倍半の原種用種を製造するは天下に誇る處にして我等製造者が如何に製造上に注意を拂ひ居るかを知るを得ん宜べなり他府縣よりの需用逐年増加し掃立前に於ては需用に應じ得ざるを常とするを

本年は九州地方春秋蠶共に頗る豊作なるが上に我等製造者は組合を組織して製造に一層注意を加へ成るべく廉價を以て高需に應ぜん事を期せり乞ふ續々御注文あらんことを

熊本縣蠶種改良組合

組合員（郡別イロハ順）

熊本市	新屋敷町	小山喜三郎
飽託郡	大江村	井上久治
同	同	林三春
同	古町村	吉田權三
同	大江村	田浦辰雄
同	龍田村	鶴島源太郎
同	大江村	合名會社長野製種組
同	龍田村	上田萬吉
同	同	上田五三郎
同	大江村	古莊之
同	廣畑村	坂田利貞
同	本庄村	木村三次郎
同	龍田村	島村辰藏
同	寳畑村	肥後蠶種合名會社
同	川上村	森田武儀
同	黒髮村	兩角勝熊
玉名郡	睦合村	石川榮太郎
同	木葉村	稻垣九平
同	江田村	石原亥八
同	豊水村	吉田勝藏
同	八嘉村	上田用七
同	睦合村	松本卓爾
同	六榮村	宮邊三郎
同	小田村	關次三
鹿本郡	三嶽村	一森怒一
同	山本村	井村卯一郎
同	同	細谷久一郎
同	同	高木安治
同	同	黒川卯平次
同	菱形村	牧田和作
同	吉松村	益田才次
同	櫻井村	松村勝三
同	山本村	牧野傳藏
同	三嶽村	扶桑館
同	大道村	近藤孫六
同	山本村	弘盛社
同	山鹿町	合志甚五得
同	米野岳村	酒井衞藏
同	山東村	蠶友社
同	稻田村	佐藤金時
同	菱形村	右田農場
同	田原村	平野勝衞
同	米田村	肥後盛蠶社
菊池郡	迫間村	德淵滿太郎
同	花房村	笠敏虎
同	清泉村	緒方長吉
同	河原村	川中鐵藏
同	菊池村	田中九一
同	河原村	高宮爲三郎
同	花房村	中山幾太郎
同	泗水村	永田彥八
同	同	永田七郎
同	同	内田常平
同	清泉村	牧岡貞藏
同	城北村	松岡斜
同	北合志村	赤峯邦彌太
同	泗水村	荒木儀八
同	陣内村	佐藤和七郎
同	泊水村	齋藤辰五郎
同	隈府町	佐藤大平
同	花房村	佐々木米次
同	菊池村	齋藤潔
同	城北村	木村義賢
同	泗水村	宮崎茂一郎
阿蘇郡	坂梨村	市原源六
同	產山村	井何平
同	内牧村	甲斐友文
同	坂梨村	吉田常熊
同	内牧村	奈須喜行
同	高森町	松岡桑次
同	坂梨村	櫻井庸藏
同	北小國村	從原滿彦
同	坂梨村	島田代四友
上益城郡	秋津村	西村國太郎
同	陣村	本田四郎
同	甲佐町	渡邊敬實
同	津森村	吉本三平
同	白旗村	井芹直藏
同	福田村	九鬼一人
同	廣安村	福島丹治
同	乙女村	福田常喜
同	高木村	下田致人
同	飯野村	島田永喜
下益城郡	中山村	伊津野雄四郎
同	隈庄町	池田和左彦
同	同	林田忠治
同	杉上村	東家嘉政
同	同	東家熊記
同	同	東家貞八
同	同	東家貞記
同	同	東家眞政
同	豊田村	田部乙彥
同	杉上村	上塚秀勝
同	豊田村	内空閑權八
同	杉合村	内野虎平
同	隈庄町	牛島製種部
同	杉上村	上塚眞熊
同	同	牛島蠶種製造所
同	同	三原清熊
同	河江村	大島猪久藏
同	杉上村	下山清九郎
八代郡	高田村	伊藤武雄
同	同	矢住信道
同	同	船津敬四郎
天草郡	佐伊津村	本州蠶種改良組合

土佐特産桑苗生産販賣廣告

私儀從來蠶絲業の公職に罷在候處先般其職を辭し專心桑苗生育に從事致大に自營苗圃の擴張を計り多數の精良種苗生產致居候間廉價を旨とし充分の責任を以て弘く各位の御需用に應じ可申候に付多少に不拘御用命相蒙度尙他と比較御栽培あらんことを希上候

純粹 魯桑實生苗　一年生純粹魯桑實生苗ニシテ速成密殖用ニ適スル一尺以上五尺迄ノ良種ナリ

純粹 魯桑種子　他種ノ混交ナク純良ナル魯桑種子ニシテ發芽最モ確實ナリ

純粹 魯桑接苗　純粹ナル魯桑ノ接苗ニシテ葉形丸ク且ツ大ニシテ二尺以上六尺迄ノ良苗ナリ

極早 四方咲接苗　極早生ニシテ發芽ノ早キコト市平ヨリ一週間以上樹性旺盛ニシテ萎縮病ニ罹ルコト稀ナリ

其他市平、九文龍、細枝、桑尾、接苗各種

右代價及詳細事項は御一報次第御回答可申上候

土佐國香美郡明治村

上島永治

（農商務省蠶業講習所出身）

肥後蠶種輸出問屋

張健無毒 春蠶種 又昔青熟赤熟（何れも大形）

代價　原種用紙製二十八錢用　製種用種全部用　一枚五十錢　一枚一圓三十錢

（多數御注文は特別割引仕候）

○桐手製共二十枚以上御入用の方にて若し見本御入用なれは直ちに送呈仕候二十枚以下十枚迄は半金申受候

弊店取扱の蠶種は確實を旨とし春秋蠶種共各實地と學術に精通せられたる各製種大家へ出張一眠毎より上蔟種鑑撰別等調査し母蛾檢査濟の上健全無毒の良種に限り取扱ふを以て信用益大にし現今地方は無論關東地方本洲中部各養蠶地より大多數の注文を受け最早地方の種も大に減じ候に付御入用の向士は大至急御注文の上弊店取扱蠶種の如何に正確なるかを知り賜はらんことを乞ふ

熊本縣鹿本郡山鹿町阪の上（電略ナカタ）

大日本蠶絲會員
鹿本郡蠶絲業會員

店主　永田和三郎

永田蠶具店

（肥後山鹿郵便局區內）

春蠶種長集又昔

原種用硫百蛾卷圓　製絲用種十匁
貳圓貳拾錢　爲換局丹波福知山

本種は絲量豐富にして比較的飼育容易況み今の良種類と信ず改善に注意の諸賢試育して其有益を認められんことを希ふ

京都府天田郡庭我村　元巢蠶種製造場同胞館

▲▲熊野樹實專賣▲▲

農商務省山林局林業試驗所
全國四十六府縣十大林區署　御檢定濟

一熊野特產杉扁柏樟金松種子

各種子ハ價評細ハ御申越次第諸官廳檢定の成績寫と共に御案內可申上候
割引みなし其他別等保險付き代價も寄た最廉なり共同多額の御注文には大

▲水蓮最上例年の出荷十萬人まで一人一合を限り勝種栽培法を添へ無代價分與す試植希望者は御代郵送賣とし一郵勞五錢を添へ申込まるべし四十年一月五日
及後順次開始す

杉種子無代價分與

明治三十九年十月

▲大日本山林會樹實御用達　大日本蠶絲會員

紀伊國新宮町
ウエヒラ
木材商會　樹實部

郵便振替貯金口座　第一七六四番

●第三回四回五回巢又昔小石丸傳賞
春蠶種青中巢白龍等數種
代價其他の事項は御一報次第詳細回答致候
長野縣小縣郡
上田町常盤城

會有功賞牌受領
御需めに應ず

蠶種業報國館

振替貯金口座貳九〇六番、館主田中吉右衛門

◉各府縣原産の良種 五拾種類販賣

桑苗

自製桑苗は全國各地養蠶家の御注文に應じ驗送し種類の正確苗木精良し好たる高評を博し年の通し多數苗せるを以て多の少に拘ら製苗せるを以て多の少に拘ら御注文を乞ふ

栽草便覽 は御申越次第郵呈仕候

埼玉縣兒玉郡丹莊村大字植竹

各府縣農事試驗場桑苗御用達 博榮館

各種桑苗製作所蠶具販賣所

魯桑實生苗と種子

魯桑實生苗栽培法

本邦技手養野泰治君は我山形の技術にして既に多年

會社名 擴産館

羽前國山形市香澄町

●一時拾圓以上御購入の方には蠶病豫防法規一部貳拾圓以上は外に東京蠶業講習所講師士屋岩潤兩先生の蠶病論と消毒法參拾圓以上は更に魯桑實生栽培法の三冊を呈す

◉春蠶種は原種用製絲用共多數準備致置候間是亦御用命願上候

貯藏 小諸風穴

○當風穴は鐵道信越線小諸停車場（長野縣北佐久郡小諸町）を距る僅かに西方約十數丁にして小諸町には郵便電信局其他交通の機關總て備はらざるなく殊に郵便電信等の配達は市内同樣最も便利の位置にあり

○當風穴の構造は多年の實驗と最新なる學理とを應用し相當の設備なりしも尚本年發布の本縣風穴取締規則に基き一大改修を施し蠶種の生理上最も適當の方法により完全無缺の裝置となせり從て貯藏せる蠶種の發生確實なるは識實保證仕候

○當風穴蠶種貯藏委托は毎年十二月より翌年二月二十日迄出穴は貯藏中何時たりとも委托者の希望により何程にても請求次第直ちに出穴返送可致候

○貯藏手數料の低廉にして取扱の懇切敏速なるは風穴の特色なり

右貯藏委托御希望の方は御申越次第委細速かに御回答可仕候

長野縣北佐久郡川邊村大字大久保

小諸風穴主 柳澤大六

◎大日本蠶絲會々員の貯藏委托は特別の取扱致候

專賣特許第一〇五六四號

無回轉式接緒器 壹個金四十五錢 百個以上特別割引

見本二個入九十錢御送金次第使用法共御送仕り候

但切手は一割増

本器は上圖の如く無回轉式裝置なれば極めて簡單にして在來の機械は勿論足踏座繰の別なく又ケンネル式共總式の論なく誰れでも鈴二本にて備付得らるの便あり又添緒するに使用簡便なれは初習の工女能く優等なる生絲を多量に製絲せられ處理易ければ纖度整一となり故に添緒よりなる痕跡は少しも惡痕を認めざる等實に無比の良器なり

簡單足踏製絲器械 定價金五圓五拾錢 但接緒器付

本器は構造堅く使用簡便にして實用に適し在來の笒を共儘使用する便あり

右兩器共主として地方に一手販賣を許し普ねく當業者の利益を計るの目的に候得者御望の方は至急御申込被下度候

横濱本町 今井商店 器械部

商號 諸官衙用達 京都府丹波須知 桑苗蠶具 各種 中安榮之助

（諸生絲屑物扱） 雷略○ナカ

魯桑實生苗販賣廣告

魯桑實生苗約壹百萬本

我北宇和郡は愛媛縣下に於て養蠶組實に其十分の六を占而して其間郡は愛媛縣下に於て養蠶組實に其十分の六を占而製造する所の桑園の桑樹は悉皆魯桑なり是は以前に於て我郡仕立てしるるる所の實生桑苗は純粹の魯桑種隨て我郡内も内も他に樣の無きや明かなり殊に本年度播種して発生育類の總佳良なるも其儘春蠶用の桑園を仕立つるにも適し又は實生苗は他樣の生育類の總佳良なれば以て挿木用の苗となすにも恰適なり誓て精良品を撰び可及的廉價に差上候間續々御注文あらんことを

○直段其外委細の事は御照會あり次第直ちに御返答可仕候也

明治三十九年十二月 大日本蠶絲會員 滿本六平

○身元及び取引の確實なるは故て自ら確保する所若し疑ふ人あらば我村役場へ御問合せあれ

無毒健全 春蠶種 白龍元祖 蠶種業 白龍館

長野縣小縣郡長瀬村 館主 久保田宇右衛門

白、黄、中、青、熟、小石丸、姫蠶

又

理學博士 佐々木忠次郎先生開講二十五年
紀念奬學資金募集廣告

東京帝國大學農科大學教授理學博士佐々木忠次郎先生開講二十五年、先生が多年教育界に貢献せられたる功績を頌表するの一端として愛に聽講者相謀り紀念祝典を催ふし且つ廣く寄附金を募集し先生の名を以て之を農科大學に寄贈し奬學資金ニ充てんとす希くは生等と感を同ふするの士奮つて斯擧を賛せられんことを

右御賛成の諸君は左記御了承相成度候

一、明治四十年四月頃在京聽講者相謀り農科大學内に於て紀念祝典を擧行す
二、紀念方法の細目に關しては發起者に一任ありたし
三、寄附金額は金壹圓以上のこと
四、寄附金募集〆切期限は明治四十年二月末日のこと
五、金員領收證は特に送らず、學士會、農學會、及講農會々報上に於ける領收廣告によりて了承あり度し
六、寄附金は東京駒場農科大學官舍原隣宛にて淺谷郵便局佛渡しのこと

明治三十九年十二月一日

發起者

石渡繁胤　今井吉平　林　譽作　本多岩次郎　堀田正逸　十時雄次郎　鳥海孝太郎　大森順造　大村源一　川瀬善太郎　川添龜之進　辻　保次郎　辻　鳴太郎　中村雅次郎　庶生慶次郎　明石弘　澤村其　白澤保美　關根章　鈴木梅太郎　石川準太郎　岩田次郎　原　重初熊　外山龜太郎　時　岡島銀次　小貫信太郎　加賀山辰四郎　川島明八　右在由直　小島銀吉　吉川祐輝　紫藤章

（いろは順）

轉宅

横濱市西戸部町九六(三)
(稅關官舍附近)
紫藤章
電話千九百三十五番

農商務省京都蠶業講習所
京都綾丹蠶業講習所
有効御證明

本器は準縄三角簇を迅速に製造する者にして而して其構造は前圖の如く極めて簡單なる者なるを以て何人にても容易に安價に製造(費約二十五錢)製造する事を得るのみならず故に特色あり故に他の簇製余は此特色を利用し運賃を省き以て使用者の出金を可喪ゆからしめんと欲之れが製造を使用者に一任し單に特許標記のみを分與せんとす希くは盛の方は標記の料金二十錢と郵税三錢と御入用あれば直ちに標記一紮の製造上に必要なる寸法書と且詳細完全なる使用說明書とを送附すべし

附言　本機は前述の如く簡單安價なるのみならず本機にて製造せし簇は蠶の自然上簇に適する等の特色あり故に他の簇製造器を使用する人と雖本器も又一の補助具として之を使用せらるゝ時は頗る利益ならんと確信す

京都府加佐郡岡田下村字久田美　眞下久吉

廣告依頼者に急告

本會々報發行高は本年六月に於て既に一萬以上に達し世に廣告の效驗著大なるを喧傳せらるるや廣告依頼者頓に增加し紙數益多く從て廣告の位置は大に效驗の如何に關するを以て依頼者間往々其位置に就き競爭有之爲に料金其他の照會に不尠手數を要し候に付表紙の第二、三、四頁及特等は左の規定に依り明年度廣告に對し競爭入札を以て豫約致候間至急御申込相成度候也

明治三十九年十二月

大日本蠶絲會

一掲載の廣告は毎月一頁宛一ヶ年繼續の事
一申込期限は十二月二十五日限り
一料金は明年一月五日迄に一ヶ年分前納の事
一入札金額豫定料金に達せざる時は再入札をなすことあるべし

蠶種明入明告
一品單 又音 原種用 五 千 枚

右購入す御待合の方は原綱を添へ至急御照會を俟つ

信州長野市石町　池田孝之助

蠶業教科書と參考書

桑樹栽培論
農學博士　大森順造先生著
クロース上製特價 正價金六十五錢 郵稅金八錢

蠶體生理解剖論
農學博士　林隆作先生著　增補八版
クロース上製特價 正價金六十五錢 郵稅金八錢

蠶業教科書
通俗
蠶業各科蒐めて調らさず面かも精乞御愛讀
京都蠶業講習所長松永伍作先生新著　再版
貨女クロース製 彩色補圖其他入 正價二圓二十五錢 小包料十錢

養蠶教科書
松永先生の斯著書肆の吹聽を要せず
陳木喜三先生著　再版
クロース上製寫眞 正價六十五錢 小包十錢

女子蠶業教科書
蠶業界常今の問題は女子蠶業の教育なり
岩手縣農學校教授池田榮太郎先生著　四版
精圖入 正價二十錢 郵稅四錢

蠶生體理
岩手縣農學校教授池田榮太郎先生著
クロース上製彩色 精圖入 正價一圓二十五錢 小包料十錢

日本蠶病消毒法
岩手縣立農學校教授池田榮太郎先生著　增補五版
理を極めずして消毒を行ふは敵なき砲彈に比し
從五位運水深曹先生監修佐野瑛先生著
多數入上製特價 正價壹圓 小包料十錢

大日本蠶史
歷史は繰返すもの一冊を供へて誡とせられよ
農學士鈴木重禮先生閲　高田喜三郎先生著　再版
クロース製 正價金二圓五十錢 小包料十五錢

日本肥料篇
蠶業經濟の分岐點は肥料の如何に在り切に奬む
足立養蠶傳習所長濱江儀三先生著
紙數四百五十頁 正價七十五錢 小包料十錢

氣象と養蠶
蠶業豊凶の岐る〻亦氣象に存す今にして可讀也
長野縣技師渡邊義武先生編
大本クロース製 正價金壹圓五十錢 小包料十五錢

蠶蛆經過掛圖
蠶業家は勿論學校其他集會場必ず之を供ふべし
農學博士稻垣乙丙先生閲福岡縣手島郡教育會編
三枚一組 郵送費付 正價四十錢 小包料十錢

害益蟲經過圖
蠶業なる實寫なり必ず家庭に供ふべきものなり
實寫彩色
彩色圖解 郵送費付 正價二十五錢 郵料十五錢

發兌元　東京市日本橋區　丸山舍書籍部

●農蠶衛生文學書目錄は御申込次第無代進呈可仕候

最新特許

實用

手提式噴霧器

ゴム二尺付　代金九圓　小包送料四拾錢

◎本器最新改良特許の要點

◎噴出口の特殊巧妙の發明を爲し六孔より微細なる噴霧を多量に發散せしむる裝置なり

◎多量の藥液を短時間に噴出し水槽に容るべき六斗餘の液は僅かに四分間に撒布し得べし

◎唧筒の運動を圓滑ならしめ其使用を輕便迅速にし最も大なる强力を以て細霧を撒布する構造なり

◎何人にも容易に各部を分解し得る構造にして加も堅牢確實作製せるを爲め毫も漏水の憂なき樣作製せる

◎水槽中に於て藥液の調合を設備を爲し或は噴出の量を檢する爲めメートルの調合を爲し

◎前掲の前面に見る如く提手を附屬し使用中持運びに最も便ならしむ

◎ホルマリン直輸入品販賣

●蠶種貯藏器

本器は內面に桐材を用ひ又は內面に桐材を用ひ又は內面に美濃產の檜材を用ひ外面に桐材の塗を施したる三重一組にして其外壓に內面の周圍空隙あるものにて其外壓を內壓の周圍空隙あるものにて其外壓を內壓の周圍空隙あるものにて其外壓を內壓

TABLE OF MOVEMENT OF SILK IN DIFFERENT INDUSTRIES.

TABLEAU DU MOUVEMENT DES SOIES DIFFÉRENTES INDUSTRIES.

(November 1906)

	Export.	Brought over.	Arrivé.	Arrivd.	Vrnbu.	Sold.	Exports.	Export.	Employs.	Sent back	Acquisition.	Brought forward.
	Picul.	Picul.	Picul.	Picul.	Picul.	Picul.	Picul.	Picul.	Picul.	Picul.	Picul.	Picul.
Filature. Filature.	5,518	11,163	11,163	9,364	—	—	—	—	474	—	6,638	
Zagari. Reeled.	2,182	2,324	2,324	1,941	—	—	—	—	97	—	2,308	
Kakeshi. Orihayashi.	1,119	523	523	974	—	—	—	—	58	—	621	
Autres. Other.	101	43	43	—	—	—	—	—	34	—	110	
Total.	8,813	14,064	14,064	12,479	—	—	11,834	—	623	—	9,677	
1905.	17,679	10,180	10,180	6,257	—	—	5,305	—	394	—	11,211	

蠶業新報

毎月一回二十五日發行　郵稅共拾貳錢　部數拾貳冊　前金壹圓參拾錢　貳冊共壹圓貳拾錢　送料共四錢

十一月二十五日發行第百六拾四號目次大要左の如し

▲口繪一主家に忠實なる支配人……社說

▼桑園增設の急務……

▼農學博士酒勾常明君に與ふ……

▼遲緩に於ける家蠶の寄生蠅に就て……農學博士外山龜太郎

▲渡米志望者の質疑に答ふ……在米加州黑澤喜五郎

▼絲蠶上蔟論（繭窩爲入）……池田榮太郎

▼敢て荒木技手に望む……松本測候所長柳澤晨

▼本年の生絲貿易は空前の好況なり……今西直次郎

▲聯合共進會出品生絲審査談……生絲檢査所技手稻生文作

▼生絲の改良と蠶絲試驗所……高木三郎

▲生絲貿易と農商務省の協議會……高橋信眞

▼生絲の新欠點（伊太利雜誌の反譯）

▲神學耶農學耶……農學士米國理學士內村鑑三

▼聽れたる關東一の製絲家……岩崎俎堂

其他寄書、雜錄、問答、批評雜報佛國蠶業全書等……

本年刊行の本誌は來る二十五日を以て發刊す繪葉書を附し大寄蠶組經過の蠶業界の進歩に

終刊の本誌は來る二十五日を以て發刊す繪葉書を附し大寄蠶組經過の蠶業界の進歩に

すし別に年始用として御入用の向は申込あれ希望讀者に本誌初號よりは體裁を改め併せ

伴ひ大刷新を加へんとす希望讀者に本誌初號よりは體裁を改め併せ

伴ひ大刷新を加へんとす希望讀者に

發行所　東京市日本橋區箔屋町十四番地　蠶業新報社

丸山合蠶業部
及佐藤鐵次郎
寒暖計製造場
共本社に今併
し蠶業仕候

販賣目錄

蠶網（絲綱草網）

桑苗（白五十種）

蠶種（夏秋四化蛾穴蛾）

最近特許式噴霧器

桑篩（用養蠶）

羽箒（用養蠶）

最近特許式抑切（養蠶用及家蚕用）

絲器（一切）

寒暖計乾濕計（輸入品二十五種製造品二十種及養蠶用）

二百五十余種

●本社は精良品のみ責任を帶びて發賣仕候特に蠶網寒暖計蠶用紙及桑苗の如き多數御使用の品は特別に無比大勉强可仕候

●高品目錄無代進呈

●雜誌見本は往復はがきにて御申越あれ

取締役　藤本善右衛門
仝　竹澤常章
仝　相馬愛藏
監査役　谷清壽
仝　岩田太郎

株式會社日本蠶業

振替貯金口座第五二六番　電話下谷一二五四

（上野廣小路廣電車通り）

東京市下谷區仲徒士町三丁目五十九番地

戰後經濟界の發展は我農業の組織蠶業を伸はしめざる可らざる必要迫り來り國運の進展を計り各省やむ度米國等の蠶業意氣込盛んなる清國も農大蠶校特に試驗場設置せられ來る蠶業學校の設置あり蠶業者にしては諸器械を委して到底農業は苗床賣買業迄の要求に應ずるを以て殖産興業に於ては我國の志士は和蘭の蠶業者にして桑苗製造及種子製造に至るまで設け蠶種の乾濕計及一般氣象用品メートル原價に比し廉價なる類を輸入して內地及海外の大需要に應ずる爲め偏に御愛顧を希ふ行仕候間併せて御愛顧を希ふ

讀を希ふ

東京市下谷區仲徒士町三丁目五十九番地

日本蠶業株式會社

MARCHÉ DES SOIES.

MARCHÉ DE YOKOHAMA.

Par suite de la multiplité des orders reçus tant de l'Eupope que de l'autre côté du Pacifique, notre marché des soies a subi l'heureuse influence de la grande activité. Le nombre des balles traitées pendant ce mois a été de 13.139 et celui des balles livrées, de 22.185½, représentant ainsi une augmentation de 6.915 et de 11.063 respectivement sur le nombre des balles traitées et livrées pendant la même période de l'année dernière. Il en est de même pour les prix pratiqués: On a vendu, à la fin du mois, titre fin *Junaka* à des prix de Yen 1.230, *Zaguri* Extra No. 1 à Yen 1.215, filature Extra No. 1 à 1.095 et *Orikayeshi Ittouma* à Yen 1.045. prix qu'on ait jamais pratiqués depuis l'année 1899. Yokohama a fini enfin par absorber même les soies destinées au tissage indigène, de sorte que l'arrivage de march andises sur notre place depuis l'apparition de la soie nouvelle, a dépassé 120.000 balles et que, malgré cet arrivage considérable de marchandises, on a constaté souvent la pauvreté des stocks, vu la rapidité exceptionnelle de la vente. Telle était la situation excessivement favorable de notre marché au mois de Novembre dernier.

Voici d'ailleurs le mouvement des soies durant le mois de Novembre.

RAWSILK MARKET.

MARKET OF YOKOHAMA.

Condition of our rawsilk market of Yokohama in the month of November is as follows:—

Through the month the condition was very good, having been influenced by the activity of the european and the american markets. So it was in great demand, as we found the number of bale of bargain of 13,139 and of sale of 22,185½ Indeed it was increase of 1,915 in bargain and of 11,063 in sale in comparision to that at the same period of last year. Though the price became sometimes high and sometimes low, it showed a rare appearance which has never occur ed since 1899 at the end of the month, as the fine-size of *jūnoka* was treated at 1,230 *yen*, No. 1 of rereels at 1,215, No. 1 of coarse-size of filature silk at 1,095, *Orikayeshi ittôma* at 1,045. Thus even the rawsilk for the native use came to Yokohama in succession, so that the sum of number of bale was over twelve myriads since the appearance of new rawsilk in this year. But these found a ready sale and the stock, moreover, was scanty always. How good coitudion it was!

Following tables show the movement of the rawsilk market during the same period.

TABLEAU DU MOUVEMENT DES SOIES RÉPARTI PAR JOURS.

DIAGRAM SHOWING DAILY MOVEMENT OF RAW SILK

Jours. Days.	Soie. Silk. Arrivée. Arrived.	Vendue. Sold.	Renvoyée Sent back.	Exportée. Exported.	Maximum du prix. Highest prices. Noms des filateurs. Names of filaturs.	Prix. Prices.
	Piculs.	*Piculs.*	*Piculs.*	*Piculs.*		*Yen*
1	625	547	27	--	Tojimakiodôsha.	1,125
2	435	358	73	717	Hodosawaseishijô.	1.130
3	1.500	—	—	926		—
4		—	—	—		—
5		790	121	—	Kawaguchiseishijô.	1.150
6	577	959		131	Kanrasha.	1.150
7	259	831		—	Yajimagumi.	1.170
8	484	775	48	—	Usuisha.	1.180
9	604	240	57	3,212	Shôshinsha.	1,180
10	412	223	12	—	Fukokukan	1.170
11	1036	—	—	—		—
12		644	10	—	Yajimagumi.	1220
13	482	482	16	—	Tôkôsha.	1,160
14	330	424	—	1.181	Kanrasha.	1.180
15	484	588	23	—	Honjôseishijô.	1.160
16	411	331	7	—	Yajimagumi.	1.180
17	401	308	22	1.288	Kôseisha.	1.200
18	876	—	—	—		—
19		344	55	—	Nanpôkan.	1.200
20	332	581	28	117	Shunmeisha.	11 80
21	451	712	11	—	Usuisha.	1.190
22	656	423	14	—	Shunyôsha.	1.190
23	179	—	—	2.132		—
24	721	356	31	—	Kanrasha.	1.210
25	913	—	—	—		—
26		684	—	—	Tôkôsha.	1.200
27	483	637	13		Shimonitasha.	1.200
28	390	413	28		Shirotsurusha.	1.190
29	490	440	25	1.912	Usuisha.	1.220
30	330	368	41	1.218	Yokoukasha.	1.230
Total	14.061	12.479	663	12.834		

1 yen vaut environ fr. 2.50. 1 Pical = 60 kilg environ.

Cours principal de Tirage

(Hommes)

Théorie	Pratique
Mathematique	Dessin
Physique	Maniement du microscope.
Chimie	Traitement des machines et des bouilloires
Mécanique	Analyse chimique
Lois et règlements	Ettoufage et séchage des cocons.
Economie politique	Achat des cocons
Industrie	Filature
Commerce	Examen des cocons.
Inspection de l'atelier	Traitement des soie grèges
Hygène de l'atelier	Traitement des dechets shappes etc.
Notions génerales de sériciculture.	Inspection d'atelier
Les fibres	
L'elevage du ver à soie	
Ettouffage et séchage.	
Filature des soies	
Mécanique de la filature	
Traitement des soies grèges	
Teinture et texture	Essai Gradué

(Femmes)

Théorie	Pratique
Mathematique	Ettoufage, et séchage
Physique et chimie	Examen des cocons
Tenue des liveres	Examen des soies grèges
Inspection et Hygiène de l'atelier	Filature
Elevage des vers à soie	Redévidés
Ettoufage et séchage	Traitement des soies grèges
Filature et mecanique de Tilage.	Traitement des dechets shappe &c.

Cours accessoire de Tirage (Femmes)

Théorie	Pratique
Mathematique	Examen des cocons et des soie grèges
Inspestion de l'atelier	Filature
Ettoufage et séchage	Redévidés
Filature	Traitement de soie grèges.

Les station publient des Rapports d'après des resultats obtennes plusièurs fois chaque année.

Il y a, maintement beaucoup d'écules de sériciture en provinces, departementales ou privées. Savoir:

1. Ecoles prinapales li départementales:
   - École de sericiculture de Fukushimaken.
   - Ecole de sericiculture de Naganoken.
   - Ecole de sericiculture de Yamanashiken.

En outre dans quelques stations agricoles ou Ecoles agricoles departementales, on fait des experiences d'élevage des vers à soie et de culture de mûriers.

2. Ecoles privées:
   - Ecole de Takayamasha (Gunmaken)
   - Ecole de Kioshinsha (Saitamaken)

En 1895, (28ᵉ année de Meiji) les membres du Parlement proposèrent d'agrandir la Station et d'en etablir encore une autre. Mais la guerre éclata alors contre la Chine, et, ce fut seulement en 1896 (29ᵉ année de Meiji) qu'une Station fut établie sous le nom de Sangiokōshūjo.

Les travaux de cette Station sont :

1° Enseignement de la Sericiculture.

2° Essais et Experiences.

3° Conferences à la compagne.

4° Distribution gratuite des graines des vers à soie.[1]

5° Questions diverses.

L'Enseignement a deux cours, un cours principal qui dure pendant deux ans, et un autre accessoire pendant six mois.

En 1899 (32ᵉ année de Meiji) sur le désir des députés, une autre station fut encore établie, avec le même programme, à Kinugasamura, Kadono gun, Kyoto. (De là elle s'appelle Kioto sangiokōshujo, la station de Tokio, s'appelant Tokyo sangiokōshujo).

En 1900 (34ᵉ année de Meiji), dans la station de Tokyo on ajouta l'Enseignement de la filature. Pour l'enseignement de la filature, il y a aussi deux cours : un cours principal qui est lui-même subdivisé en deux parties, une pour des hommes, et l'autre pour des femmes., Elles durent toutes les deux pendent deux années et ont pour objet l'instruction des inspecteurs ou des surveillantes de la filature. L'autre est accessoire et est de dix mois. Les élèves sont seulement des femmes qui deviendront l'autre jour surveillantes ou maitresses de filleuses.

Depuis 1901 (35ᵉ année de Meiji) les station donnèreut pendant trois ans en été, l'enseignement des méthodes contre les maladies des vers à soie.

Depuis 1905 (38ᵉ année de Meiji) la durée du cours principal s'est prolongée à trois années, mais, le cours principal de tirage pour des femmes et les cours accessoires ne changent pas.

Maintenent, la station a trois divisions et deux sections, et deux subdivisions dans chaque division.

1. Division de sériciculture.
2. Division de tirage.
   1. subdivision d'essai.
   2. subdivision d'enseignement.
1. Section d'administration.

1. Au sujet des races partagées par les stations, j'ai publié, dans le bulletin no 148, 29 sept. 1904 un article intitulé. "Sur les trois meilleures races des vers à soie du mûrier au Japon."

2. Section de rapports.

Quant à présent, il n'ya pas de division de tirage à la station de Kyoto et on fait les travaux de tirage dans la division de sériciculture.

Le programme de l'enseignement est comme suit :

Cours principal de Sériciculture

Théorie	Pratique
Langue anglaise	Culture des mûries
Zoologie	Composition de l'instrument d'elévage.
Botanique	Maniement du microscope.
Chimie	Analyse chimique
Météorologie	anatomie du ver à soie.
Economie politique	Pathologie du ver à soie.
Economie rurale	Examen des graines
Eléments d'Agriculture	Examen der cocons
Les Engrais	Examen des soies gréges
Entomologie	L'elèvage du ver de pringtemps et du grainage
Micro-organism	
Principes de Sericiculture	L'élevage du ver d'été
Culture des mûriers	L'Elevage du ver d'automne.
Les graines	Filature.
L'Elevage des vers à soie.	
Elevage industriel	
Anatomie du ver à soie	
Physiologie du ver à soie	
Pathologie du ver à soie	
Les fibres	
Filature des soies,	Essai gradué

Cours accessores de Sériciculture

Théorie	Pratique
Cultures des mûriers.	Composition des instruments d'élevage.
Anatomie du ver à soie.	Maniement du microscope et examen des graines.
Physiologie du ver à soie	
Pathologie du ver à soie.	Anatomie du ver à soie.
Des graines	Examen des cocons et des soies grèges.
L'Elevage du ver à soie	L'Elevage du ver à soie de pringtemps et d'été.
Filature des soies.	

CONTENTS.

Important Reeord:
Permission of sale to people of forests and fields of the government.

Contributions:
On the river of Tenryū and the province of Sawa............*Nōgakushi*, G. Nakamura.
On shape of cocoon..R. Hattori.
On a new organ in boby of silkworm..E. Ikeda.
Japanese awsilk at american markets..........................*Nōgakushi*, S. Uchida.
On urgent necessity of letting all the-cocoon be uniform and its bil ....I. Mitani.
On value of Fuji-Fūketsu (an answer to mr. Yanagisawa). ....Y. Araki.
Tu-sah-reeling industry in manchuria and chefoo.......................S. Shiwotani.
A history of the silk stations at Tōkyō and kyōto. ....*Nōgakushi*, S. Ishiwata.

Opinions:
On theories of the freezing of plants. ....*Nōgakuhakushi*, K. Asō.
A plan for reformation of sericultural industry.................................K. Haga.
On mr. Matsunaga's observation (To mr. Toba) ....B. Motozumi.
Let the silkwormeggs be suitable to one of a victory nation. ....Y. Baba.
Sericultural industry and independence of nation.............................R. Kasuga.
On the twi-metamorphosis of ugimyia sericariae, Rondani...............M. Yamazaki.

General News:
On the merits of mr. J. Fujimoto.

Conversations:
On the sericultural class at the Eastasia School.........Viscount, *Nōgakushi*. M. Tani.
On purpose of the stndy of sericultnral industry...................................Hanshiki.

Lectures:
On spinning...Tsuta, Kaneko.

Queries and Answers
On arboriculture of mulberry trees, etc.
On diseases of the Lu mulberry with fruits.
On diseases of silkworm.
On store-mulberry and died silkworms.
On died chrysalis.

Condition of Rawsilk Markets:
Yokohama market.
Lyons market.
New York market.
Shanghai market.

Foreign News:
The sum of production of cocoon in Italy at 1905.
The rough estimate of the production of cocoon in France at 1906.

Miscellaneous News:
Reports of the Japan Sericultural Association, etc.

ARTICLES DE FOND.

Sur l'Enseignement des stations Séricicoles Impériales au Japon.

PAR *Nogakushi*, S. ISHIWATA.

La Sériciculture au Japon est très ancienne, mais l'enseignement et l'essai scientifique y sont arrivés plus tard. Ce fut la première fois, qu'en 1874 (7ᵉ année de Meiji) un laboratoire d'études de la Sériciculture, spécialement de la maladie des vers à soie, fut établi dans le Bureau d'encouragement d'Agriculture sous la direction du ministère de l'Intérieur. Ce laboratoire interrompit son travail par suite de la réforme du gouvernement qui a eu lieu au mois de mai de la 12ᵉ année de Meiji. (1879.) Au bout de quelques années, la maladie de la pébrine s'étendit dans les magnaneries. En Conséquence, le ministre de l'agriculture et du Commerce réetablit, à Uchiyamashitacho, Tokio, un laboratoire d'études des maladies des vers à soie, particulièrement de la maladie de pébrine, (Sanbio shikenjo). Comme résultat des études de ce laboratoire, le ministère promulgna, comme le premier travail, un règlement d'Examen des graines de vers à soie pour savoir l'existence de la pébrine.

Plus tard (19ᵉ année de Meiji), le laboratoire fut transféré à Nishigahara, Takinokawamura, Kitatoshima, Tokyo, et on l'appela Sangicshikenjo. Il a pour ses attributions l'etude de la maladie de ver a soie. l'elevage des vers à soie, la culture des mûriers et l'enseignement des examinateurs de vers à soie, parce que le Règlement de l'examen de la maladie exige que chaque departement ait beau coup d'examinateurs.

En 1890 (23ᵉ année de Meiji) la méthode de l'enseignement futcha ngée comme suit : l'élevage des vers à soie, l'instruction des examinateurs et des maitres de l'élevage des vers à soie dans les provinces.

En 1891 (24ᵉ annie de Meiji). la Station Agricole temporaire du Bureau d'Agriculture du nuinistère de l'Agriculture et du Commerce fut diviesée en deux parties et en 1893 (26ᵉ année de Meiji) cette station a repris son ancien nom de Sangioshikenjo.

BULLETIN

DE

L'ASSOCIATION SÉRICICOLE DU JAPON.

No 175.

20 Décembre 1906.

SOMMAIRE.

Notes importantes:

La permission de la vente des fonds et des plaines nationales.

Articles de fond:

Le fleuve *Tenryu* et *Soici*.....*Yogakwai*. T. Nakamura.
Sur la forme de cocons.....R. Hattori.
Sur le nouvel organe de vers-à-soie.....M. Ikeda.
La soie Japonaise aux marchés de l'Amérique.....*Hogakwai*. S. Uchida.
Nécessité urgente d'uniformiser la qualité des cocons et la méthode d'y arriver .....T. Mitani.
Réponse à M. Yanagisawa au sujet de la valeur de Fouketsu (lieu où l'on conserva les graines) de Kaji.....J. T. Araki.
Industrie de la filature de tussah en mandchourie et à Chefoo.....S. Shionoya.
Sur l'enseignement des stations sericicoles au Japon....*Yogakwai*. S. Ishiwata.

Opinions diverses:

Sur les dommages des plantes causé par la gelée....*Yogakwai*. K. Azabu.—Sur la révolution dans la sericiculture....K. Hoga.—A monsieur Toba au sujet de discours de M. Matsunaga....R. Motokado.—Faites de nos graines celles du pays vainqueur....Y. Babe.—L'industrie sericicole et l'indépendance de la nation....R. Kasuga.—Il y a de bivoltins à *Uzigny sericery*.... M. Yamasaki.—

Essais et faits divers:

Récits historiques de Mr Z. Fuzimoto.

Visite et Entretien:

Sur la section sericicole à l'école de l'Est d'Asie....*Hogakwai*. Baron Y. Tabi.
Mon but d'étudier la sericiculture.....S. Bau.

Cours:

Sur la filature.....Tsuta Kancatsu.

Questions et Rèponses:

Sur la cultire de mûriers.
Sur la maladie ns mûrier dit "*Roso*."
Sur la maladie des vers.
Sur la conservation des feuilles de mûriers et les vers morts.
Sur la *Uzigny sericery* mort.

Marché des Soies:

Marché les Yokohama.—Marché de Lyon.—Marché de Now York.—Marché de Shanghai.—

Nouvelles étrangeres:

La production des cocons en Italie pensant l'année 1905.
L'estimation de la production des cocons en France de 1906.

Nouvelles diverses:

Notes sur le service de notre Association.
etc, etc, etc.

TOKYO.

Association Sericicole du Japon.
(Dai Nippon Sanshi Kwai)
No 2. Mitoshirocho, Sanchome, Kanda, Japon.